

# 平成28年度 東海林ゼミ活動報告書

平成28年1月

東洋大学国際地域学部国際観光学科



## 目次

第Ⅰ章. はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
第Ⅱ章. 情報発信事業	・ ・ ・ ・ ・ 2
第Ⅲ章. 調査事業報告	・ ・ ・ ・ ・ 7
1. 白山まつり	・ ・ ・ ・ ・ 8
2. 根津・千駄木下町まつり	・ ・ ・ ・ ・ 19
第Ⅳ章. 出店事業報告	・ ・ ・ ・ ・ 40
1. 根津・千駄木下町まつり出店事業報告	・ ・ ・ ・ ・ 41
2. はっぴ作成報告	・ ・ ・ ・ ・ 57
第Ⅴ章. 11期生対象ゼミ説明会報告	・ ・ ・ ・ ・ 59
第Ⅵ章. 谷根千調査隊プロジェクト報告	・ ・ ・ ・ ・ 62
第Ⅶ章. 阿寒湖畔及びアイヌ文化に関する調査報告	・ ・ ・ ・ ・ 67
○阿寒湖畔に関する調査報告	・ ・ ・ ・ ・ 68
○阿寒湖畔におけるサイクリングツアー企画	・ ・ ・ ・ ・ 84
○アイヌ文化に関する調査報告	・ ・ ・ ・ ・ 92
第Ⅷ章. 1年間を振り返って	・ ・ ・ ・ ・ 100
1. 3年生	
2. 2年生	
第Ⅸ章. 編集後記	・ ・ ・ ・ ・ 112

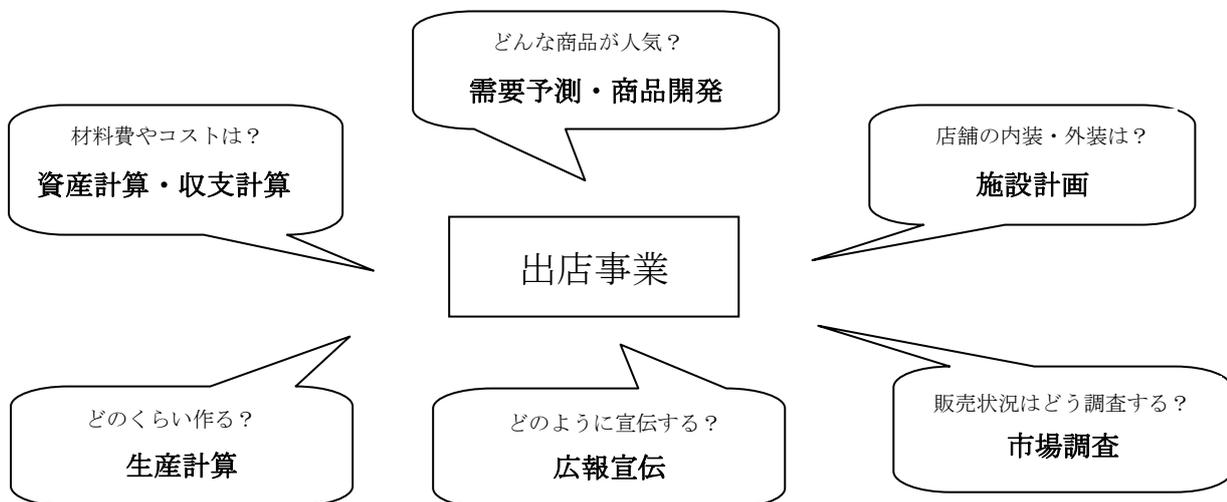
# 第 I 章. はじめに

私たち東海林ゼミでは、観光資源を活用した地域づくりや地域振興の在り方について研究しています。OJTによる体験型学習事業の一環として、根津・千駄木下町祭りに参加し、「実物に触れ」「実践し」「論理的に思考する」ことを通じて実践的な観光学を学んでいます。身近なものに対して常に疑問や関心を抱き、答えを追及しています。祭りの出店事業が観光産業の何に関係があるのか疑問に思われるかもしれません。しかし、出店事業は「生きた観光学」凝縮された宝庫です。

例えば、根津・千駄木祭り利用実態調査は、利用者の消費行動や意識把握市場調査手法の演習となります。また、商品の需要予測は、利用者数の時間変動に応じた販売量の予測演習にもなります。他にも収支計画や工程管理などの出店事業から学ぶことがたくさんありました。

また、阿寒湖畔温泉の観光客が減少していることを課題と考え、ゼミ合宿を利用して様々な実態調査を行い、学生目線で観光振興の方策を考えました。

このように、座学で学んだ観光学の理論を実体験から学ぶことができました。



# 情報発信事業

## 第Ⅲ章. 情報発信事業

### 白山まつり HP

#### 1. 事業目的

白山まつりのホームページを作った目的は、より多くの人に白山まつりのことを知ってもらうためであり、また、白山まつりを通して白山に興味を持ち、さらに知ってもらうためである。

#### 2. 発信方法

Google の web サイト作成機能を利用し、他の Google アプリと連携して作成した。Google を利用した利点は、Google サイトだとおおもとの形が出来ているため誰でも簡単にホームページを作成できるということだ。さらに Google の利用可能性はとても広く、web サイト作りが出来るだけでなく、ドキュメントの作成やプレゼンテーションの作成ができたり、Google マップでマイマップの作成ができたり、アンケートを作成して統計が取れたりなどと幅広いものとなっている。

#### 3. 事業内容

ホームページ作りにあたって、白山まつりについて知ってもらう、興味を持ってもらうためにはどんな情報が必要かを重視し、サイト内の項目を昨年のホームページよりも多くした。また、白山についてという項目で、「白山上向丘商店街のショッピングマップ・商店街の店舗一覧」へのリンクを掲載するなど、白山地域の情報も多く盛り込むようにした。トップページにはお祭りのパノラマ写真を載せることで、実際の雰囲気により感じられるようにした。

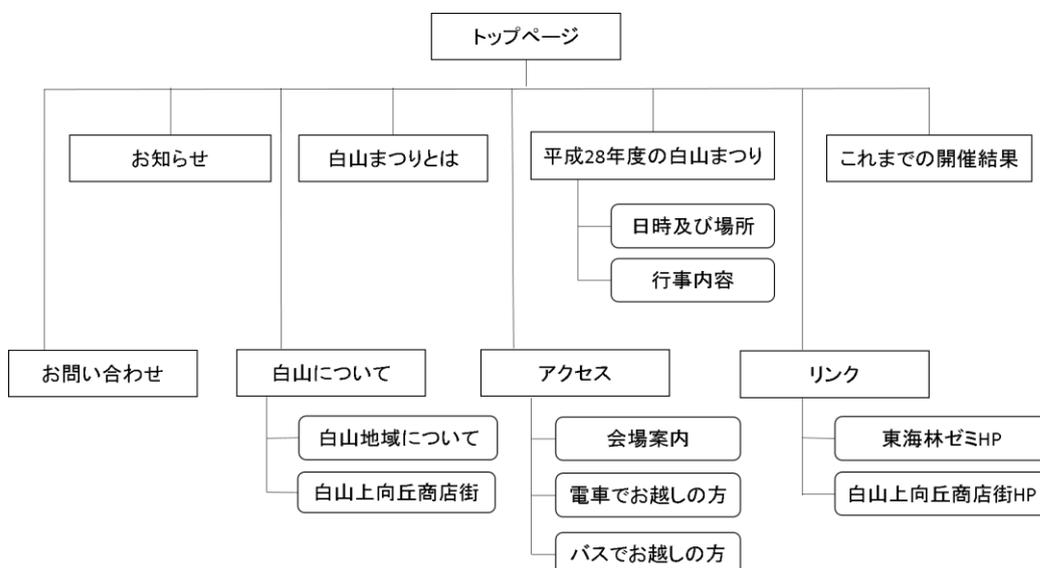
#### 4. 感想・反省

作成当初は白山まつりに間に合うことを目標としていたが、企画の遅れや準備不足のため間に合わせることが出来なかった。しかし、途中で「来年の白山まつりのために時間をかけてこのホームページをより良いものにする」という目標に変更した。

具体的な改善点としては、白山まつりについて来場者が必要としている情報が何かをきちんと把握しホームページに載せること、白山地域や白山上向丘商店街の詳しい情報を分かり易く記載することである。来年以降のホームページでは上記の点を改善した魅力的なホ

ホームページを目指したいと思う。

## 5. サイト構成図



## 6. 各頁の構成図

(トップページ)



(お知らせ)





(白山について)



(アクセス)



(リンク)



# 調査事業報告

## 第Ⅳ章. 調査事業報告

### 1. 白山まつり

#### Ⅰ. 利用実態アンケート調査

##### ①. 白山まつりの概要

白山まつりは、毎年 9 月に文京区・白山地区で開催されている。このお祭りは、地域の観光振興等を目的として昭和 39 年から始まった。会場では、模擬店の他、地域の方々による盆踊りや、楽器演奏、フリーマーケットなどが行われており、白山地区の活気を肌で感じることができる。今年で 53 回目を迎える歴史の長いお祭りである。

##### ②. 調査内容

白山まつり来訪者を対象に 1 日目の平成 28 年 9 月 3 日に利用実態アンケート調査及び来訪者数カウント調査を行った。

##### ③. 調査結果

###### <調査目的>

来訪者の属性や来訪理由を把握し、今後のおまつりの促進に貢献するため。

###### <調査日時>

平成 28 年 9 月 3 日（土）13:00～17:00

###### <アンケート実施場所>

白山通り

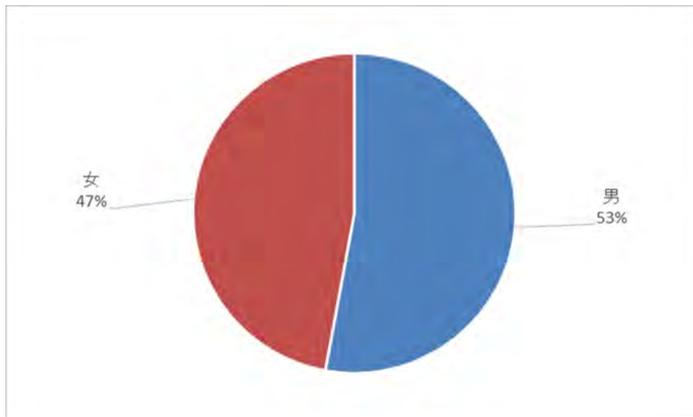
###### <調査方法>

アンケートによる聞き取り調査

###### <アンケート結果>

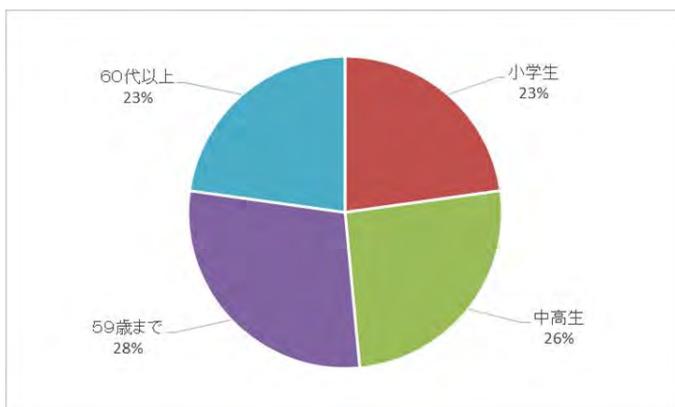
今回の白山まつりの利用実態アンケート調査の被験者数は 104 人であった。この調査は、年齢・性別に偏りが出ないようにあらかじめ被験者を割り振って実施した。

(1) 性別



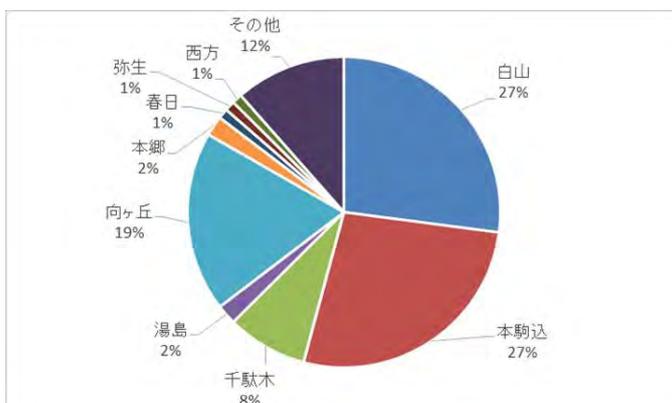
これは偏りが出ないようにあらかじめ被験者を割り振って実施したため、ほぼ半分の割合になった。

(2) 年齢



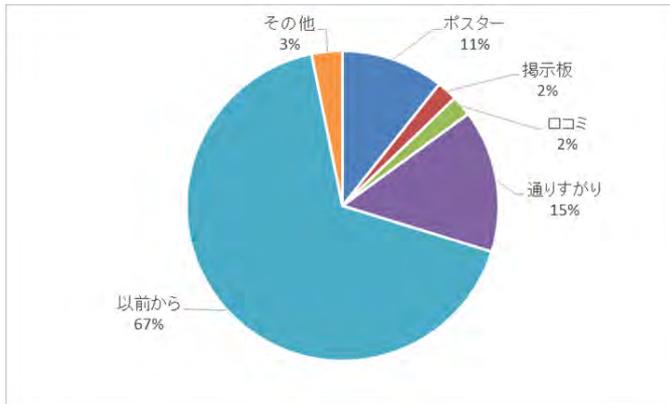
年齢も性別同様あらかじめ被験者を割り振ってアンケートを実施したため、ほぼ均等の割合となった

(3) お住まい



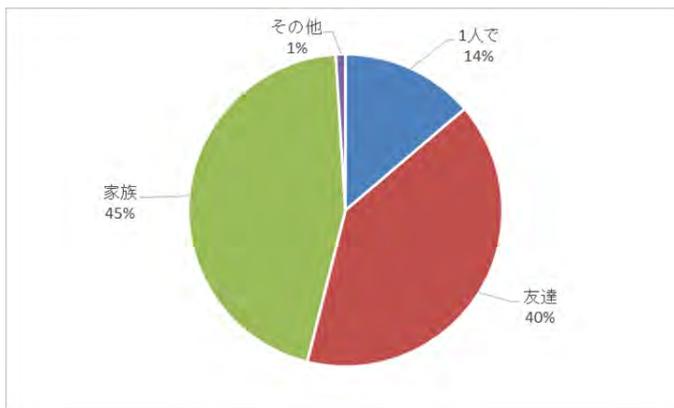
文京区からの来訪者が 9 割近くを占める結果になった。文京区外からは北区、品川区、豊島区、足立区、台東区、千代田区、江東区、草加市、横浜市という内訳になり、東京都内からの来訪者が 98%であった。

(4) 何で知ったか



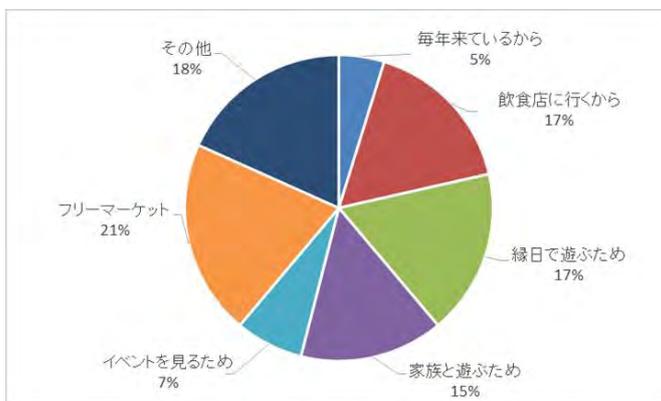
以前から知っていた人が最も多く 67%という結果になった。この結果から地元住民が多くおまつりに関わっていることがわかる。その他には、小学校で知った、親戚が近くに住んでいる、新聞で知ったなどがあった。

(5) 誰と来たか



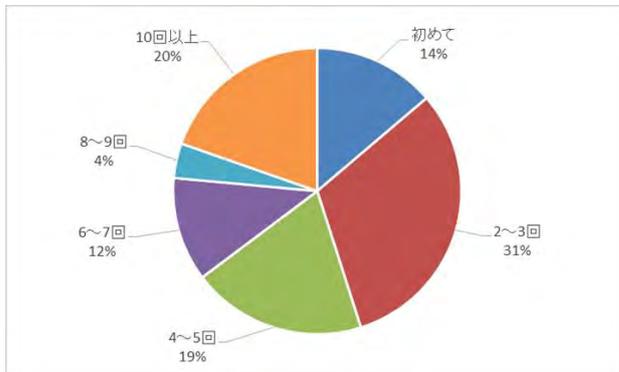
家族と来た人が 45%と最も多い結果になった。ついで友達と来た人が 40%と多く、その 2つが全体の 85%を占める。恋人と来た人は 0 人だった。

(6) 目的



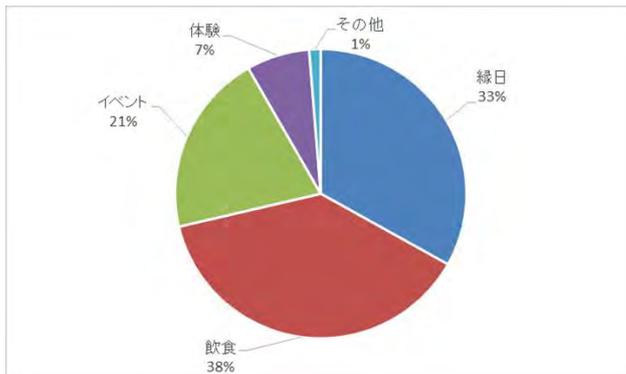
目的に特に目立った偏りはなく、おまつり全体が来訪者の目的となっていることがわかる。

(7) 来訪回数



2~3 回目の来訪者が最も多かった。次いで、10 回以上の来訪者が多く、白山まつりではリピーターが多いといえる。

(8) どのエリアに行ったか



飲食エリアが一番多く 8%という結果になった。ついで緑日が多く、飲食・緑日・イベントを合わせると 9割以上を占める。

(9) よかった点

- ・ 緑日楽しい・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 件
- ・ 生バンドが聞ける・・・・・・・・・・・・・・ 11 件
- ・ にぎやか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 件
- ・ 安い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 件
- ・ 地域密着・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 件
- ・ 楽しい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 件
- ・ 色々な体験ができる・・・・・・・・・・・・・・ 8 件
- ・ 子供が楽しめる・・・・・・・・・・・・・・ 5 件
- ・ コンパクトでいい・・・・・・・・・・・・・・ 5 件
- ・ 夜まで開催している（盆踊りなど）・・・・ 4 件

(10) 要望

- ・座れるところがほしい・・・・・・・・・・7件
- ・飲食店を増やしてほしい・・・・・・・・・・9件
- ・日陰がほしい・・・・・・・・・・5件
- ・開始時間を早くしてほしい・・・・・・・・7件
- ・混雑しているので広くしてほしい・・・・5件
- ・過去のゲームの復活・新ゲームの追加・・・5件  
(魚釣り、ルーレット、射的など)

(11) 考察

来訪回数からみて、リピート率も高く、開催場所付近の地域からの来訪者が半数を超えており、地元根付いたお祭りといえる。

良かった点でも、「地域密着」という意見があるので、地元の人を楽しめるお祭りを意識することで、今後も地元で愛され、開催回数を重ねていくことができるお祭りになるのではないだろうか。

## 第 53 回白山まつり 東海林ゼミアンケート

本調査は白山まつりの利用実態調査を目的として行っています。回答は統計的に処理され、本目的以外には使用いたしません。お手数をおかけしますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

調査主体：東洋大学東海林ゼミ

1. 性別 <男性・女性>
  
2. 年齢 <小学生まで・中高大・59歳まで・60代以上>
  
3. お住まい  
<文京区（      丁目）・都内（      区・市）・都外（      県      市）>
  
4. 白山まつりは何で知りましたか？  
<ポスター・回覧板・掲示板・口コミ・通りすがり・以前から・ホームページ・その他  
（      ）>
  
5. 誰と来られましたか？  
<1人で・友達・恋人・家族・同僚・その他（      ）>
  
6. 白山まつりに来られた目的は何ですか？  
<      >
  
7. 白山まつりに来られたのは何回目ですか？  
<初めて・2~3回・4~5回・6~7回・8~9回・10回以上>
  
8. どのエリアに行きましたか。また、興味がありますか。（複数回答）  
<縁日店舗（ゾーン）／飲食店舗／イベント会場／体験会場／その他>
  
9. 白山まつりの良かった点は何ですか？  
<      >
  
10. 白山まつりについて要望があったら教えてください。  
例：トイレを増やしてほしい、お店の場所がわかりにくい...など  
<      >  
ご協力ありがとうございました。

## II. 来訪者カウンター調査

### <調査目的>

白山まつりの来訪者数を調査し、来訪者の現状を把握するためである。

### <調査日時>

平成 28 年 9 月 3 日 13:00～17:00

### <調査場所及び被験者>

白山まつりの白山交差点と向交差点丘の二箇所において、来訪者を対象に実施した。

### <調査方法>

白山交差点と向丘交差点の二箇所において、カウンターをバインダーに取り付け配置し、来訪者をカウントした。

### <記録項目>

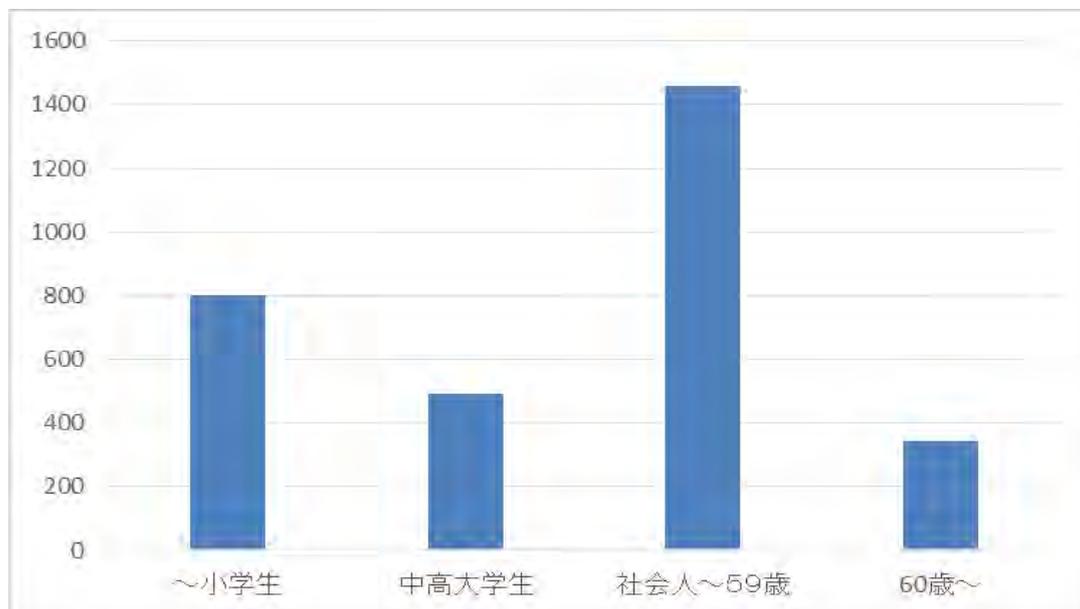
今回我々は、被験者に対して、年代別（～小学生、中学生～大学生、社会人～59 歳、60 歳～）に分類し、カウントを行った。

### <カウント結果>

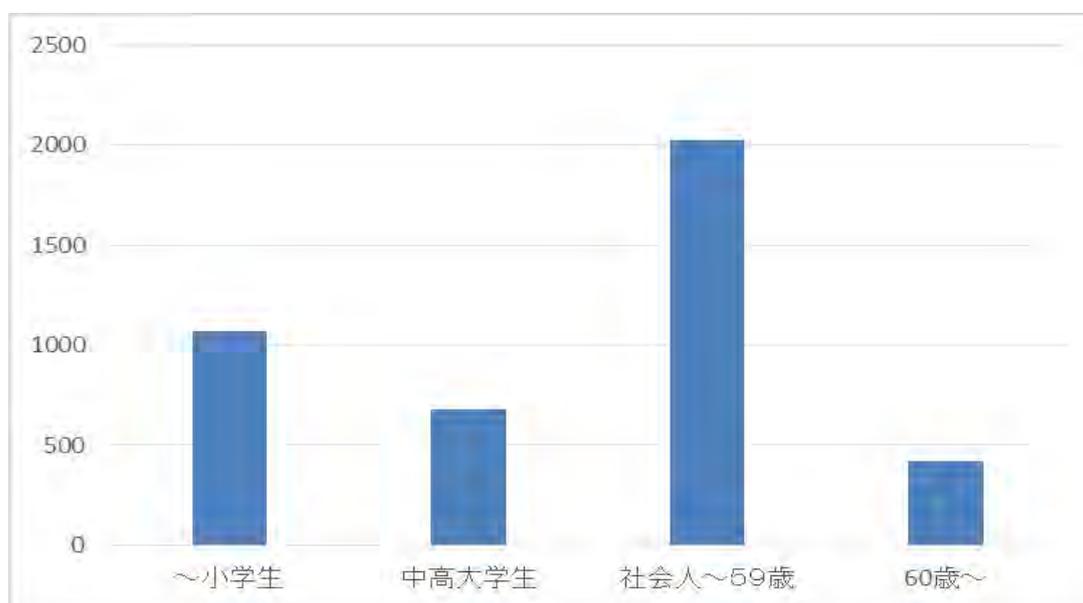
総来訪者数は 7288 人であった。そのうち向丘交差点側の総来訪者数は 3097 人で、～小学生が 803 人、中高大学生が 491 人、社会人～59 歳が 1460 人、60 歳以上が 343 人であった。白山交差点側の総来訪者数は 4191 人で、～小学生が 1073 人、中高大学生が 678 人、社会人～59 歳が 2021 人、60 歳以上が 419 人であった。

(1) 年代別の来訪者数

①向丘交差点側



②白山交差点側



どちらの入り口でも、社会人～59歳の来訪者が最も多く、60歳～の来訪者がもっとも少なかった。

(2) 15分ごとの来訪者数

①向丘交差点側

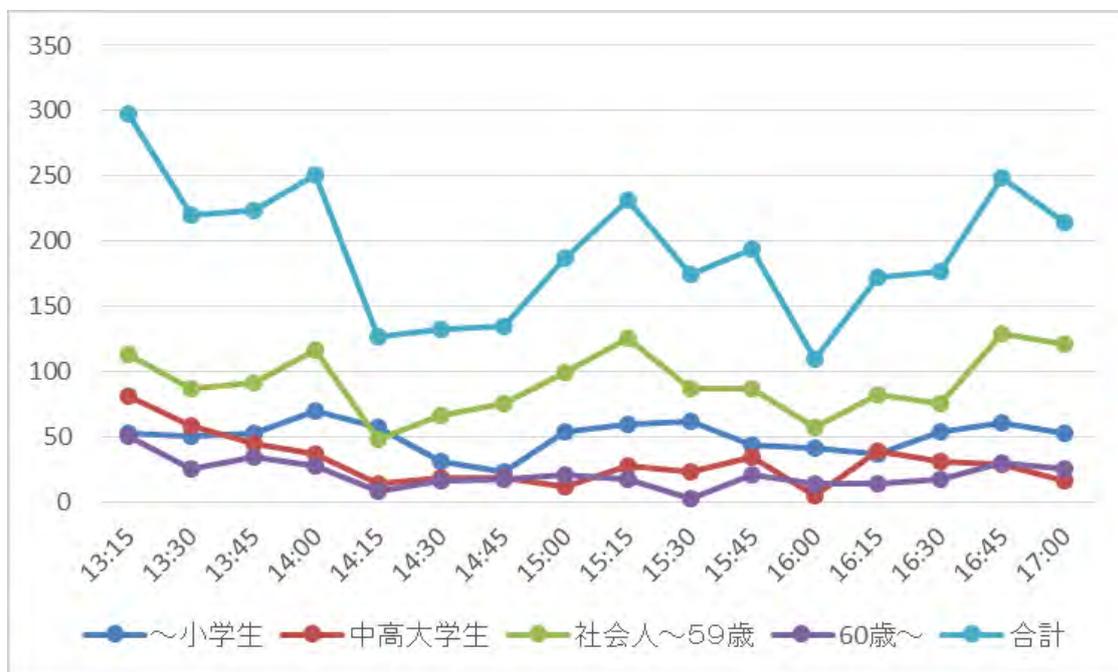
時間	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:45	15:00
～小学生	53	50	53	70	57	31	23	54
中高大学生	81	58	45	37	14	19	19	12
社会人～59歳	113	87	91	116	48	66	75	100
60歳～	51	25	35	28	8	16	18	21
合計	298	220	224	251	127	132	135	187
時間	15:15	15:30	15:45	16:00	16:15	16:30	16:45	17:00
～小学生	60	62	44	41	37	54	61	53
中高大学生	28	23	35	5	39	31	29	16
社会人～59歳	126	87	87	57	82	75	129	121
60歳～	17	3	21	14	14	17	30	25
合計	231	175	194	110	172	177	249	215

②白山交差点側

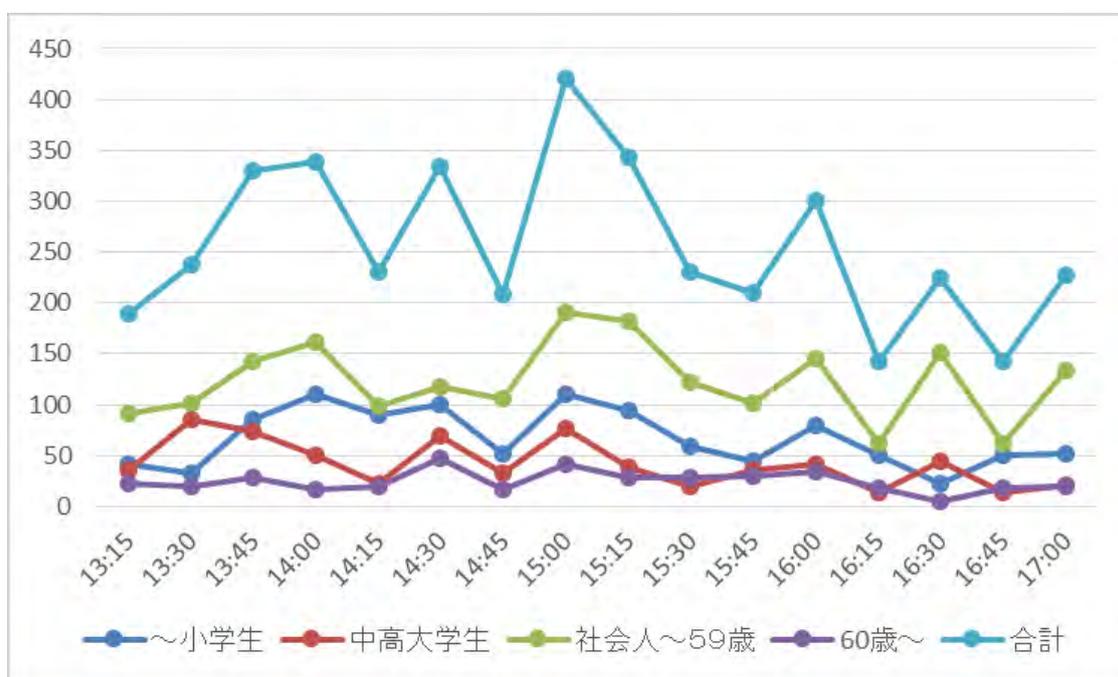
時間	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:45	15:00
～小学生	41	33	85	110	90	100	52	110
中高大学生	35	85	74	50	23	69	33	77
社会人～59歳	92	101	143	162	99	117	106	191
60歳～	22	20	28	17	19	48	17	42
合計	190	237	330	339	231	334	208	420
時間	15:15	15:30	15:45	16:00	16:15	16:30	16:45	17:00
～小学生	94	59	44	80	50	23	50	52
中高大学生	38	20	35	41	13	45	13	21
社会人～59歳	182	122	101	146	62	152	62	134
60歳～	29	29	30	34	18	5	18	20
合計	343	230	210	301	143	225	143	227

向丘交差点側、白山交差点側の属性別の集計は上記のとおりである。この結果を元に来訪者数の推移をグラフにしたものが次の図である。

①向丘交差点側



②白山交差点側



向丘交差点側の来訪者でもっとも多かった時間帯は13時00分～13時15分であった。一方白山交差点側の来訪者でもっとも多かった時間帯は14時45分～15時00分であった。

### (3) 考察

オープニングイベントである駒本小学校鼓笛隊演奏時の 13:15 の来訪者数は向丘交差点側が 298 人、白山交差点側が 190 人と、向丘交差点側の来訪者多い。また、シートベルト体験車や清掃車乗車体験・積み込み体験などが開催されている時間帯の 13:30～15:00 は白山交差点側の来訪者数が上回っている。つまり、各イベントの開催場所付近である入口の方が集中し、混み合っている。これは、利用実態調査のアンケートで「混雑しているので広くしてほしい」という要望と関係していると考えられる。イベントの開催時間を調整することで、限られた空間を最大限活かすことができ、混雑を解消し快適なお祭り運営につながるのではないだろうか。

## 2. 根津・千駄木下町まつり

### ①下町まつりの概要

根津・千駄木地域で毎年 10 月に開催されるお祭りである。このお祭りは、昭和 63 年に文京区と台東区が共同で始めたお祭りが起源である。現在は文京区独自で行われており、今年で 18 回目となる。メイン会場は根津神社、サブ会場はこの地にゆかりのある文豪、森鷗外の記念館を含む、計 9 会場である。

### ②調査内容

今回、我々はおまつり来訪者を対象に 15 日に利用実態アンケート調査、メイン会場・宮永仲通り・須藤公園のカウント調査を行った。

### ③調査結果

#### I. 利用実態アンケート調査

##### <調査目的>

来訪者の属性や来訪理由を把握し、今後のおまつりの促進に貢献するため。

##### <アンケート実施日>

10 月 15 日

##### <アンケート実施場所>

根津神社内（メイン会場）

##### <調査方法>

アンケート用紙による聞き取り調査

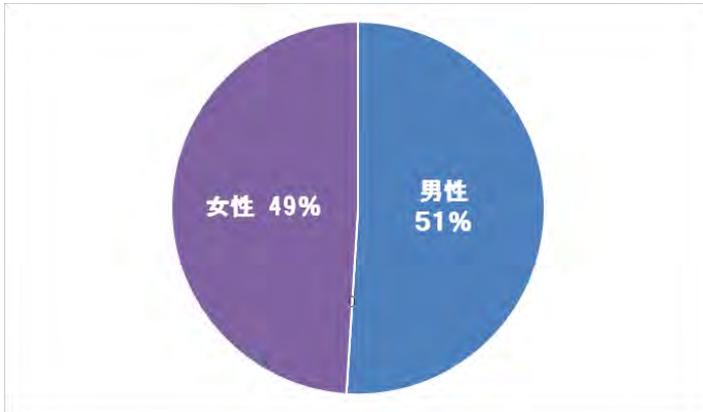
記録者 ( )

## 第18回 根津・千駄木下町まつり 東海林ゼミアンケート

本調査は下町まつりの利用実地調査を目的として行っています。回答は、統計的に処理され、本目的以外では使用いたしません。大変お手数をお掛けしますが、本調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。 調査主体 東洋大学 東海林ゼミ

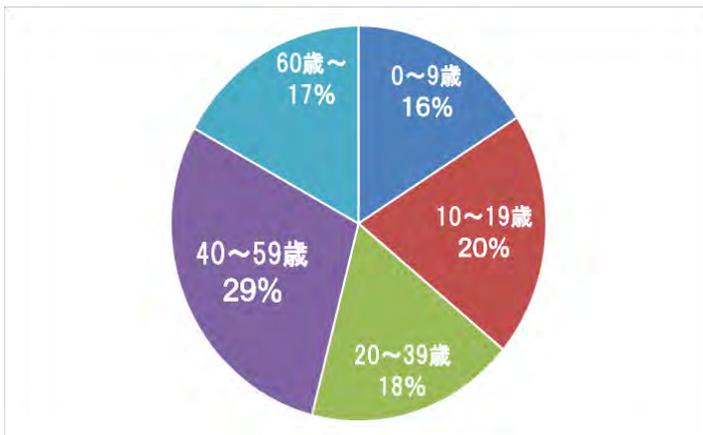
1. 性別 <男性・女性>
2. 年齢 <～9歳・10～19歳・20～39歳・40～59歳・60歳以上～>
3. 最寄り駅 <千駄木駅・根津駅・本駒込駅・その他 ( ) >
4. 下町まつりは何で知りましたか。  
<ポスター・回覧板・掲示板・ロコミ・通りすがり・以前から・その他 ( ) >
5. 誰といらっしやいましたか。  
<1人で・友達・カップル・家族・その他 ( ) >
6. 下町まつりは何回目ですか。  
<初めて・2～3回目・4～5回目・6～7回目・8～9回目・10回以上>
7. サブ会場を知っていますか。 <はい・いいえ>  
a) はいと答えた方にお聞きします。 サブ会場に行きましたか。  
<はい：藍染大通り・宮永仲通り・根津銀座通り・不忍通りふれあい館・千駄木二丁目会場・森鷗外記念館・須藤公園・よみせ通り延命地藏尊・行っていない>
8. スタンプラリーを知っていますか。 <はい・いいえ>  
a) はいと答えた方にお聞きします。 スタンプラリーに参加しましたか。  
<はい・いいえ>
9. スタンプラリー会場の数はどうですか。  
<多い・ちょうどいい・少ない>
10. お祭りの良かった点、悪かった点を教えてください。  
<良かった点： >  
<悪かった点： >
11. 下町まつりをもっと良くするためには何があればいいと思いますか。  
例) 見たいもの(お神輿、ゆるキャラ)、食べたいもの...  
< >

(1) 性別



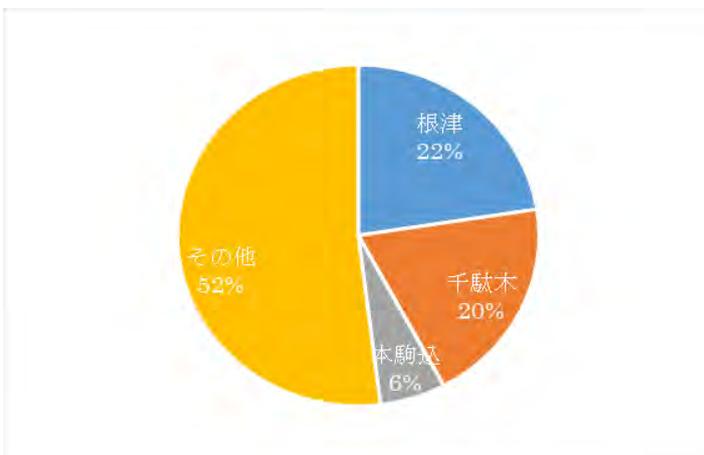
これは偏りがでないようあらかじめ被験者を割り振って実施したため、ほぼ半分の割合になった。

(2) 年齢



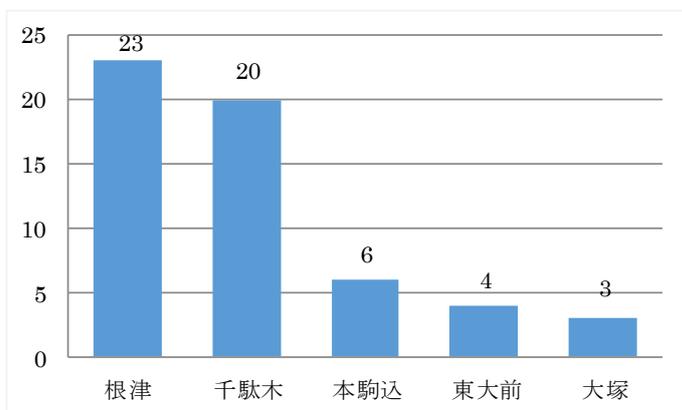
年齢も性別同様事前にあらかじめ被験者を割り振って実施したため、ほぼ均等の割合となった。

(3) 最寄り駅



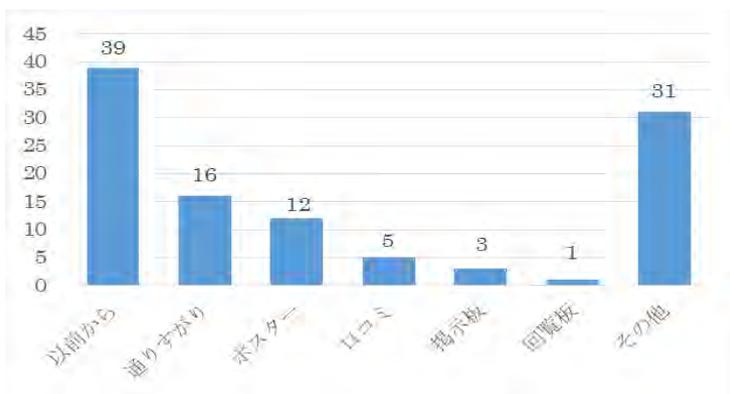
根津、千駄木、本駒込が最寄り駅の来訪者が約半数を占める結果となった。

(4) 文京区内最寄り駅内訳



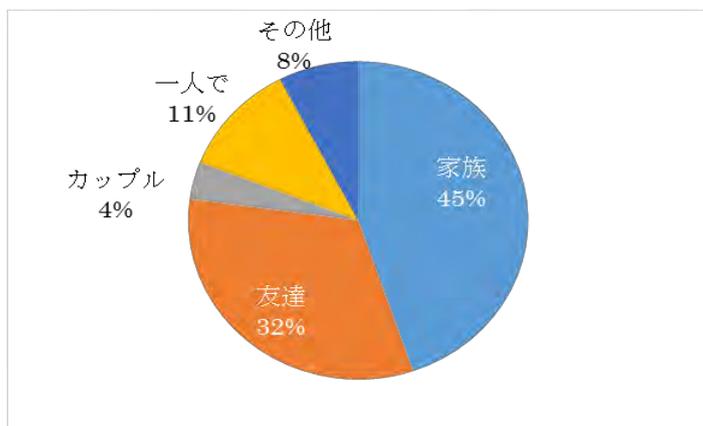
根津神社の最寄り駅である、根津駅と千駄木駅からの来訪者数が多かった。

(5) 認知媒体



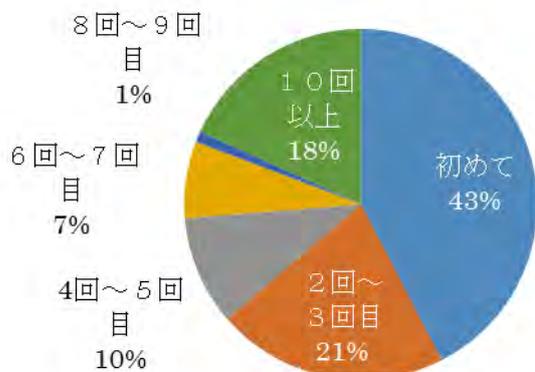
以前から知っている、と答えた人が多かった。その他には、facebook などがあつた。

(6) 同伴者



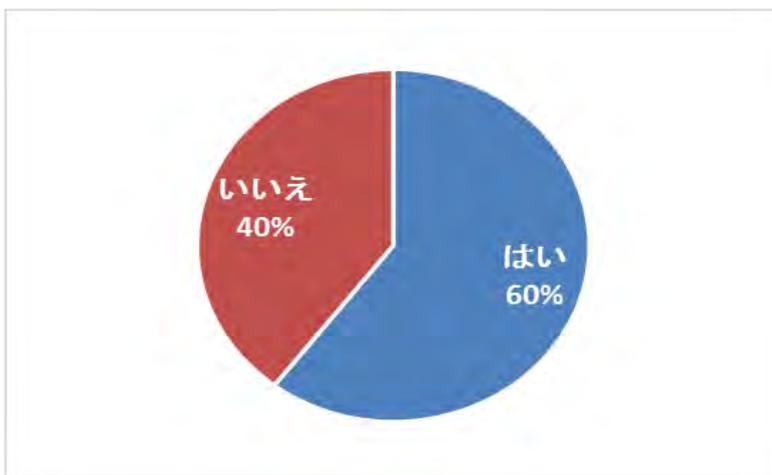
前年度と比べて来訪者が 4割に減つた。

(7) 来訪回数



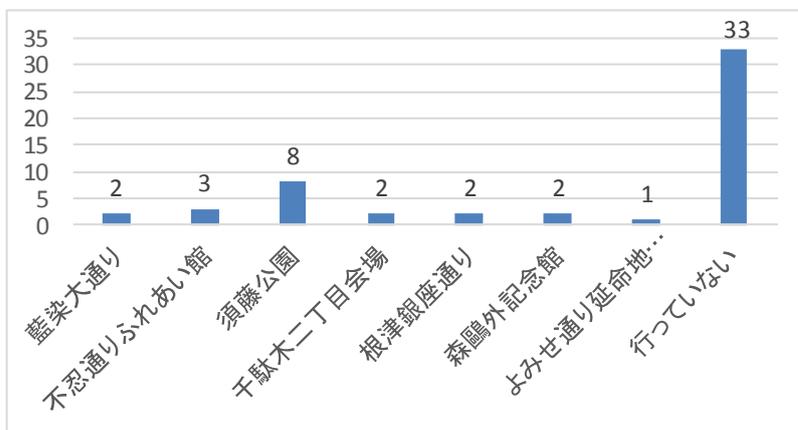
初めて来た人は前年度と同じく4割近くであった。また10回以上は2割弱と少し減少した。

(8) サブ会場を知っているか



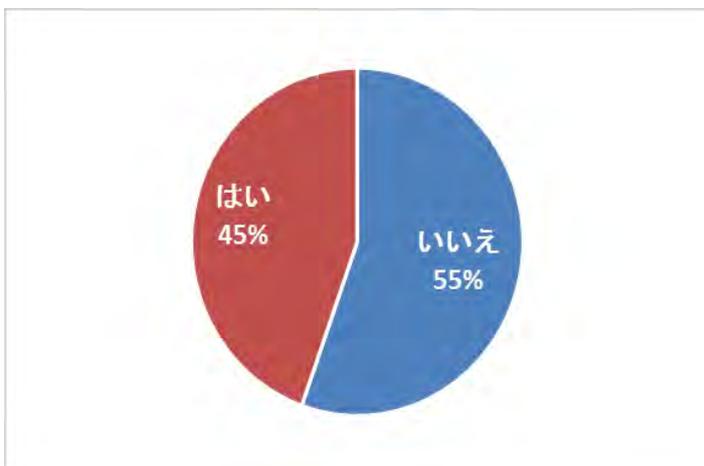
サブ会場があることを知っている人は60%、知らない人が36%という結果になった。

(9) サブ会場内訳



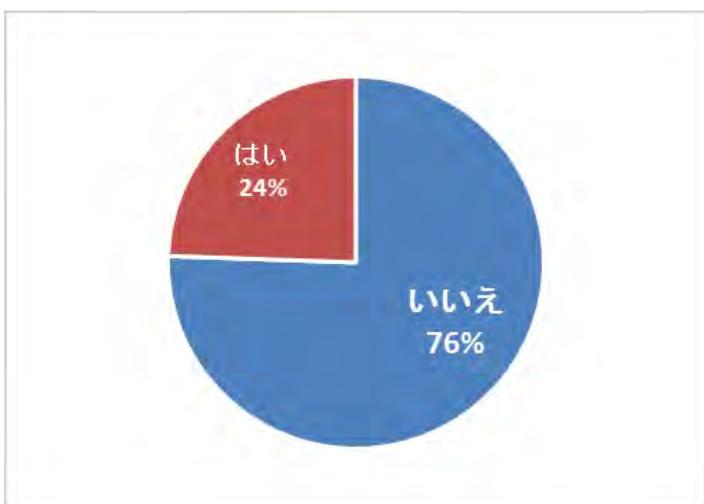
サブ会場を知っていても行っていない人が多かった。

(10) スタンプラリーの認知度



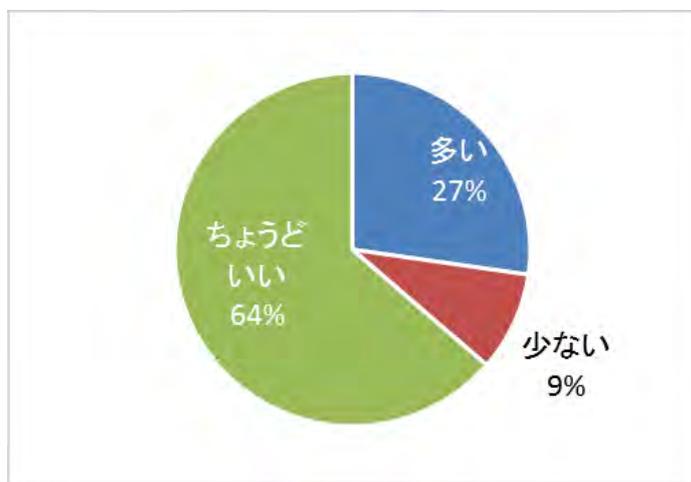
スタンプラリーが行われていることを知っている人が45%、知らない人が55%という結果になった。

(11) スタンプラリーの参加率



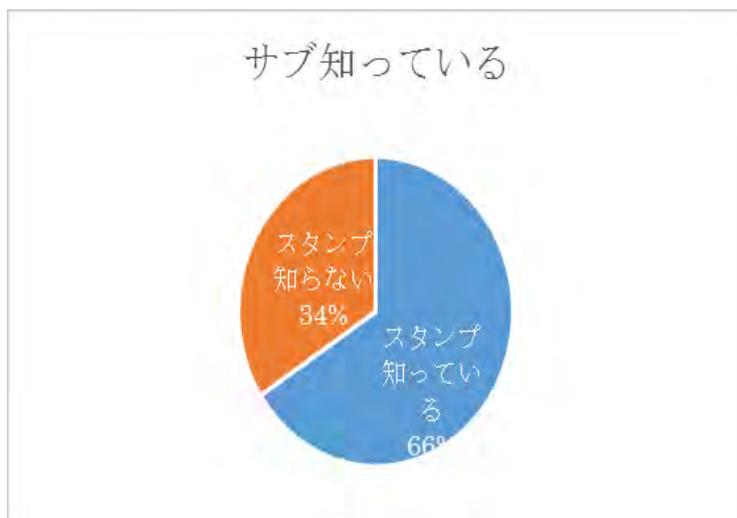
⑩の質問で知っていると答えた人にスタンプラリーに参加したか質問したところ、参加した人が24%、参加していない人が76%という結果になった。

(12) スタンプラリーの数は適切か

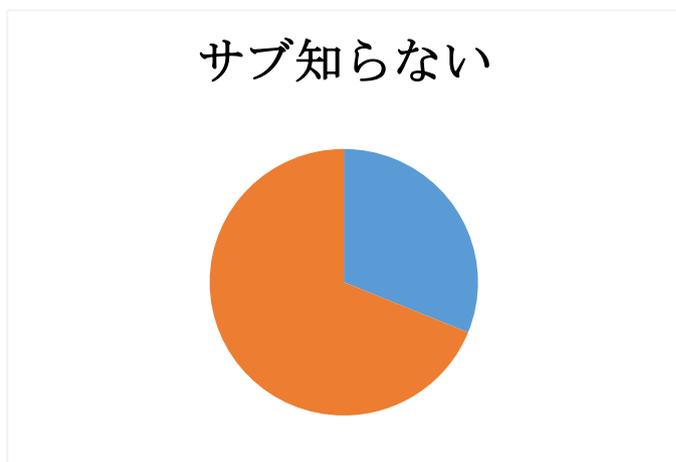


スタンプラリーの数は適切なのか聞いたところ、多いと答えた人が27%、少ないと答えたのは9%、ちょうどいいと答えた人は64%という結果になった。多いと答えた人のなかには子どもを連れて全部回るのは大変、他の会場が遠いという意見があったが、シャトルバスの存在が知られていないのではないかと考えた。

(13) サブ会場認知度とスタンプラリー認知度

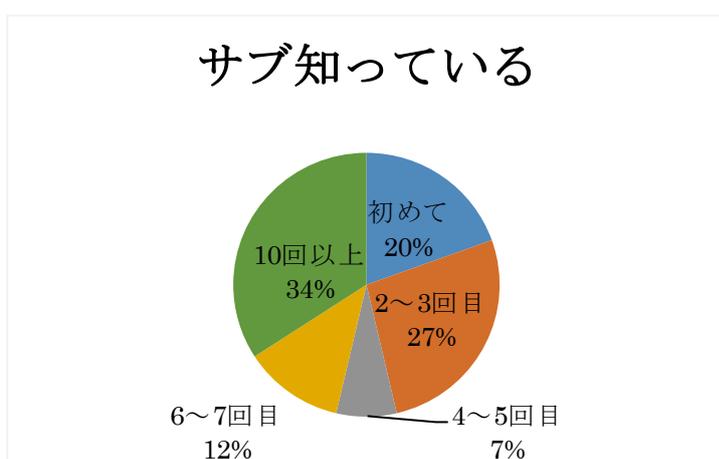


サブ会場を知っている利用者で、スタンプラリーを知っている人が6割を超えた。

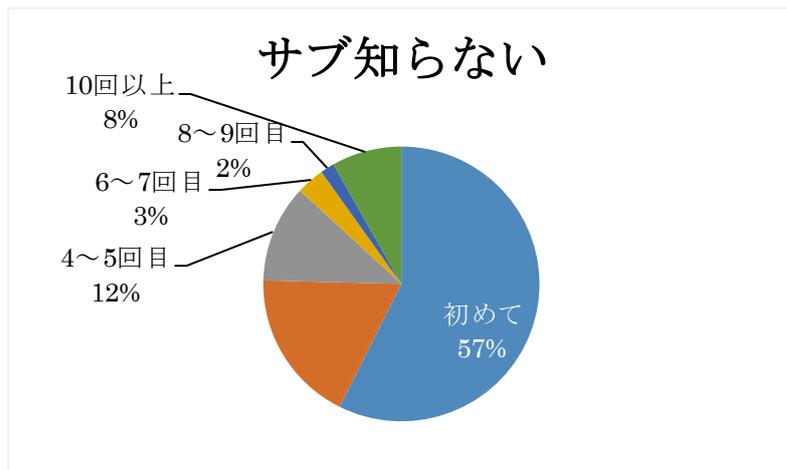


また、反対にサブ会場を知らないと答えた利用者でスタンプラリーのことを知らないと答えた人が6割を超えた。

(14) サブ会場認知度と来訪回数



来訪回数が2~3回でもサブ会場の認知度が比較的高かった。



来訪が初めての利用者のサブ会場の認知度は低かった。

#### (15) お祭りの良かった点

- ・ 地元の子供たちの演奏や子供広場があるところ
- ・ 神社内で行われていて下町感があり、アットホームな雰囲気
- ・ 居心地が良い
- ・ フリーマーケットがあり屋台が安いこと
- ・ お店が多く食べ物がおいしいこと
- ・ 地元のものが売られているなど繋がりが見えること
- ・ パレードや出し物がよかった
- ・ 体験ができる
- ・ 色んな地域の人に来るし、参加しやすい
- ・ のんびりとした雰囲気
- ・ 年齢層が幅広い
- ・ 安心

#### (16) 悪かった点

- ・ スタンプラリーのやり方が分からない
- ・ 終了時間が早い
- ・ 車が危ない
- ・ 何がそこでやっているのかわからない、PRが少ない
- ・ 前より店が少ない
- ・ 狭くて歩きにくい
- ・ 場所がわかりにくい
- ・ 椅子の数が少ない
- ・ 屋台を増やしてほしい

## II. メイン会場カウント調査

<調査目的>

下町まつりのメイン会場である根津神社の来訪者数を把握し来訪者の年代を知るため

<調査実施場所>

下町まつり会場の主な出入り口3ヵ所

①



②



③



・調査場所の特徴

①の出入り口付近は飲食店の出店が多く、②の出入り口はフリーマーケットが開かれており、③の出入り口は子供広場がある。

<調査方法>

10:00 から 16:00 まで 1 グループ 6 人が 2 人ずつ 3 か所の出入り口に分かれてカウント調査を行う。またバインダーを 5 つ設置し、それぞれ {~9 歳、10~19 歳、20~39 歳、40~59 歳、60 歳~} の 5 つに分類して 1 時間半おきに交代して来訪者数をカウント。このとき必ず会場に入ってくる人数のみをカウントする点に注意する。なおこの調査では男女を問わず年代だけで分類する。

<調査予測>

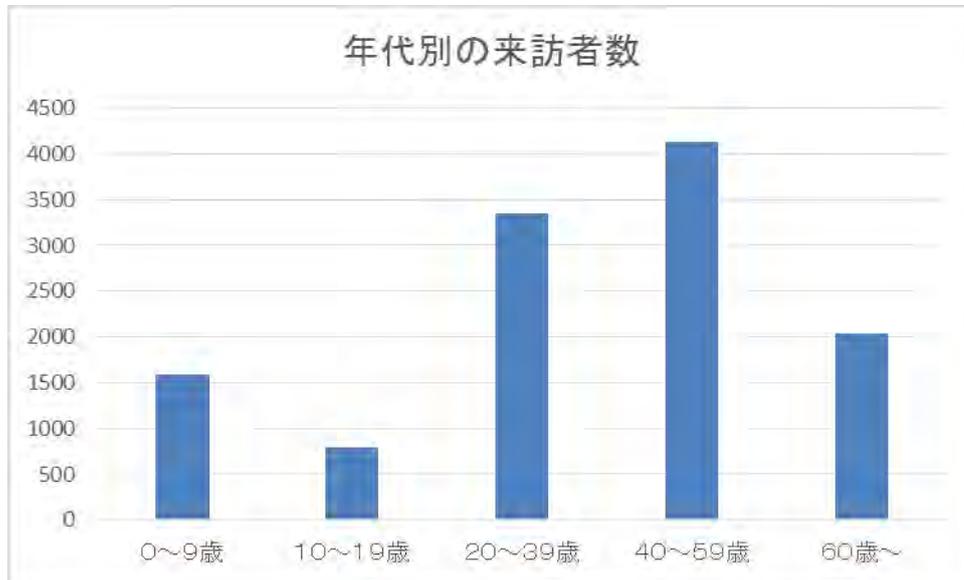
我々は、今回カウント調査を行うにあたり、(1)①、②、③の出入り口の来訪者数、(2)年代別の来訪者数、(3)時間別の来訪者数変動について、それぞれ次のように調査予測を立てた。まず、(1)について、飲食店が集まっていること、普段からメインのような大きな出入り口であるため①の出入り口に人が集中すると予測を立てた。次に(2)について、地域に根付いたおまつりであるため 40 代以上の来訪者数が目立ち、③の出入り口付近には子供広場があるため 19 歳までの来訪者が多いのではないかと予測を立てた。最後に(3)についてごはんやおやつを売っている出店が多いためお昼から 15 時に多くの人を訪れるのではないかと予測した。

<調査結果>

(1) ①、②、③の出入り口の来訪者数

この日の下町まつりメイン会場の来訪者数の合計は 11897 人で、①の出入り口の来訪者数は 6738 人。②の出入り口の来訪者数は 2104 人。③の出入り口の来訪者数は 3055 人であった。以上から、①の出入り口は他の出入り口と比べて 2 倍以上の来訪者がいることがわかる。これは根津駅からの来訪者が多く、飲食の出店が多く集まっており、①の出入り口付近にも多くの下町らしいお店があること、開会式の鼓笛隊などもこの場所からスタートすることなどが要因であると考察できる。②、③は千駄木や白山から来た人が来場し、③は自転車置き場があり自転車で来場した地元の人が利用したと考察できる。

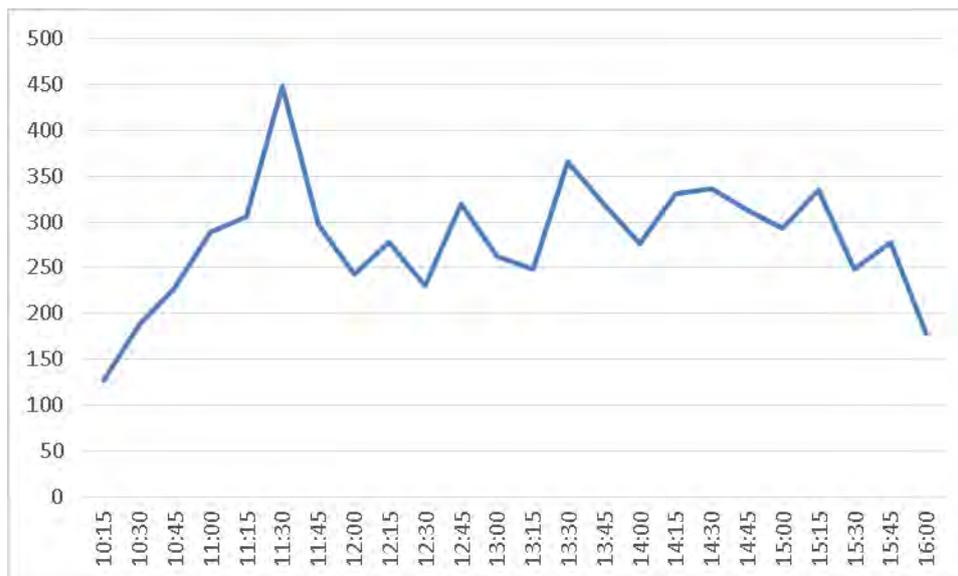
## (2) 年代別の利用者数



調査予測通り 40 歳以上の来訪者が多かったが、20 歳～39 歳の親世代と思われる来訪者も予想以上に多い結果となった。また、10 代が極端に少なく 9 歳までの子どもと 60 歳以上の来訪者が同じくらいであった。

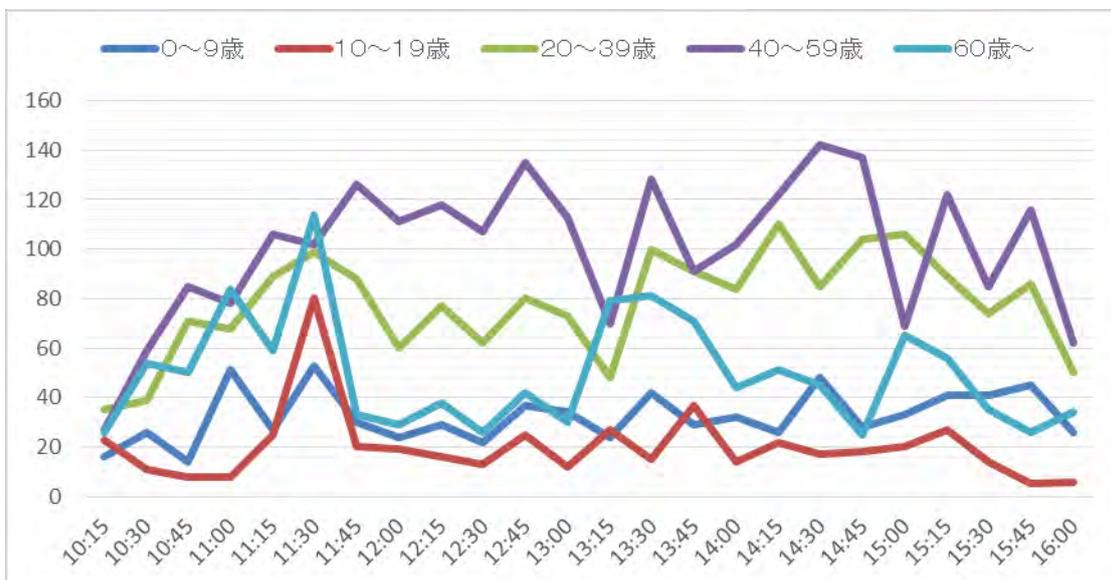
## (3) 時間別の来訪者数変動

①



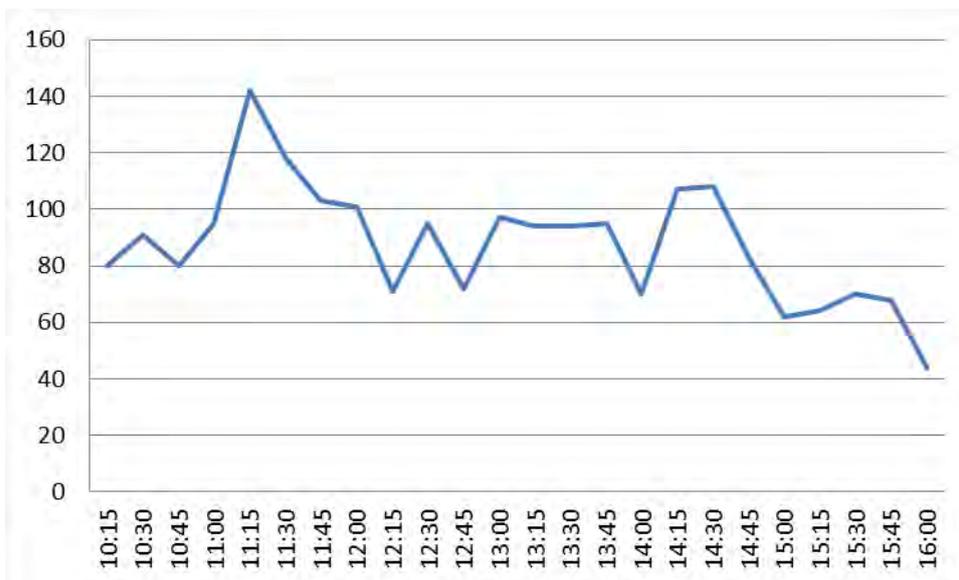
11:30 がピークであり 15:15 以降は減少していることがわかる。

年代別



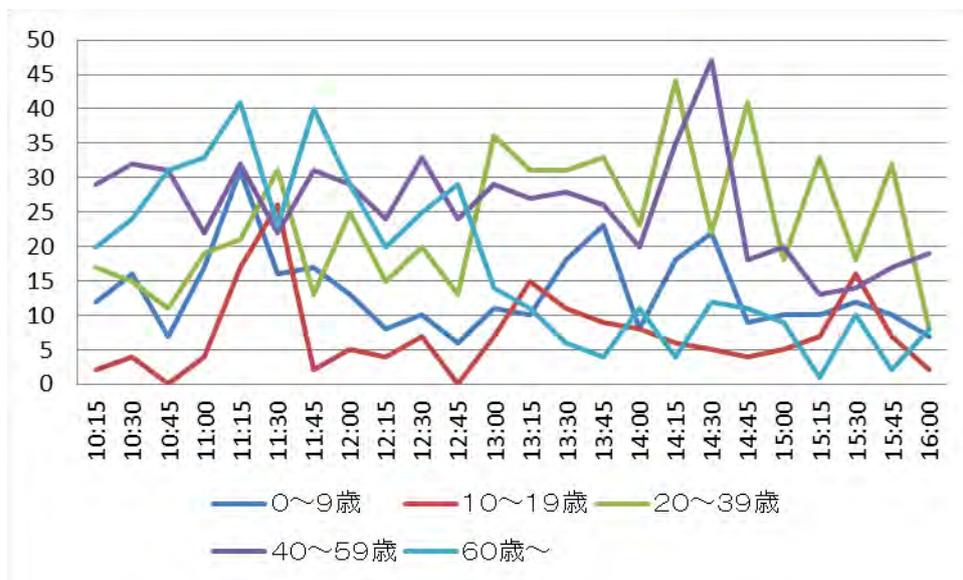
10代の来訪者は一日を通して少ないことがわかる。また 14:00~14:15の間は 0~9歳と 40~59歳の来訪者のみが増えている。15時には 60歳以上の来訪者が増えていることがわかる。

②



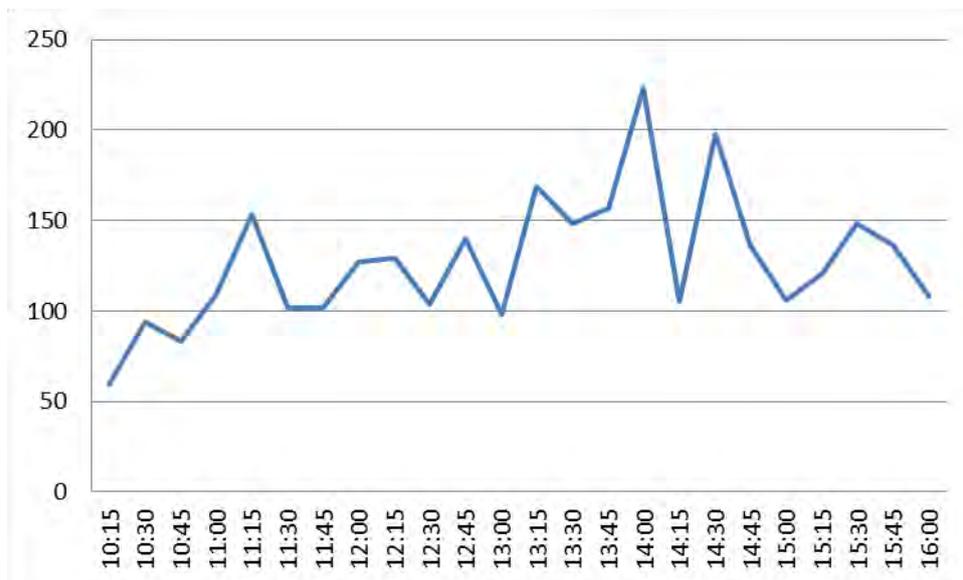
11:15がピークであり 14:30以降は減少していることがわかる。

年代別



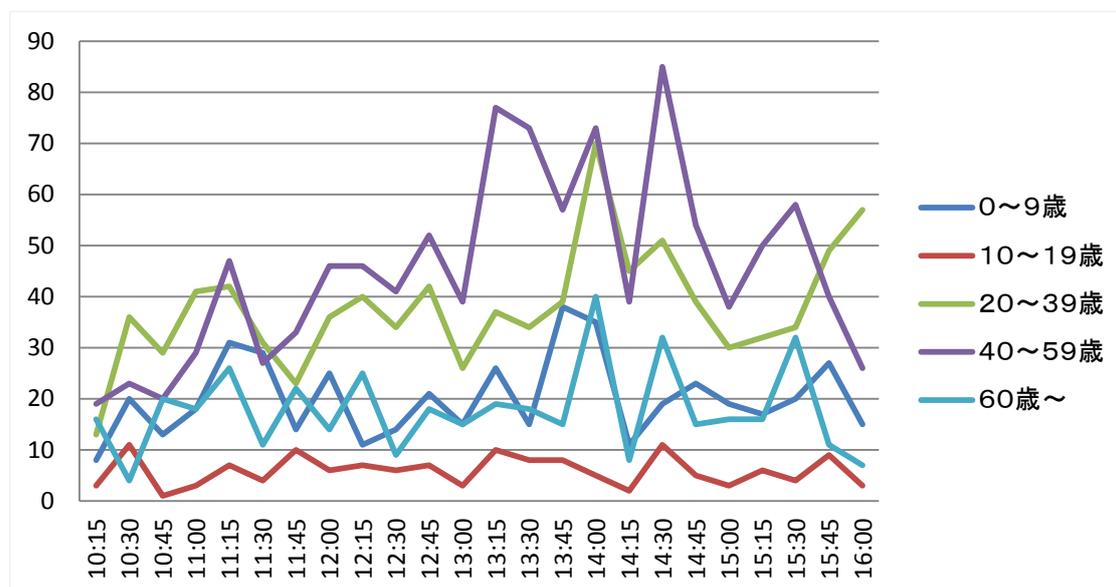
12時より前は60歳以上の来訪者が多く時間が経つにつれだんだん減っていくのに対し20歳~59歳の来訪者は14時以降に増加している。ここは子どもがメインのふれあい広場があるため他と比べ子どもの数が多くなっていると考察できる。

③



14:00がピークであり15:30以降減少していることがわかる。

## 年代別



一日を通して40歳~59歳の来訪者が多く、15:30以降20歳~39歳の来訪者が増加していることがわかる。

### <考察>

以上の3つの出入り口の変動グラフから次のことが読み取れる。まず、10~19歳は全体的に来訪者数が少なく、時間による変動も見られなかった。0~9歳と20~39歳のグラフが比例関係にあることから、家族でお祭りに来訪していて、お昼前後に来場する人が多く飲食店の出店を目的としていることが考えられる。40~59歳は他の年代とあまり関連がみられないため、夫婦、友達同士などの同年代グループで来訪していると考えられる。60歳以上は、午前の時間帯、①、③のグラフに比べて②のグラフが大きく上向きになっている。このことから、午前中にフリーマーケットを目的とした人が多いことが考えられる。

## Ⅲ. サブ会場調査

### (i) カウント調査

#### <調査目的>

今回は、メイン会場から同じくらい離れた須藤公園と宮永仲通りの一部の通り道を調査した。サブ会場の利用実態を知ることによって活性化させるための参考にし、また課題を見つけ今後サブ会場の利用者数の増加に貢献するため。

<カウント実施日>

10月15日

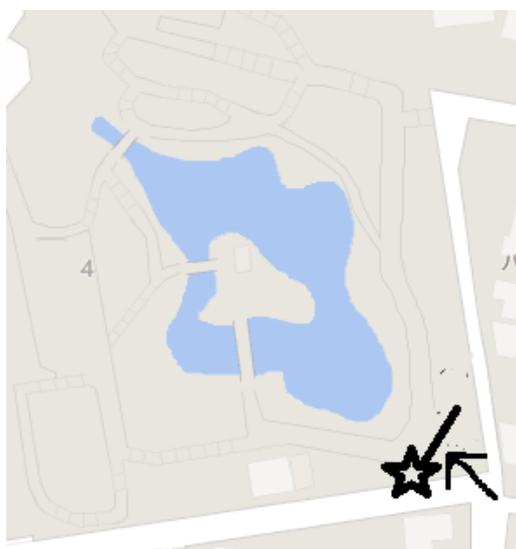
<カウント実施場所>

須藤公園の主な入口、宮永仲通りの会場内

須藤公園



宮永仲通り



<カウント方法>

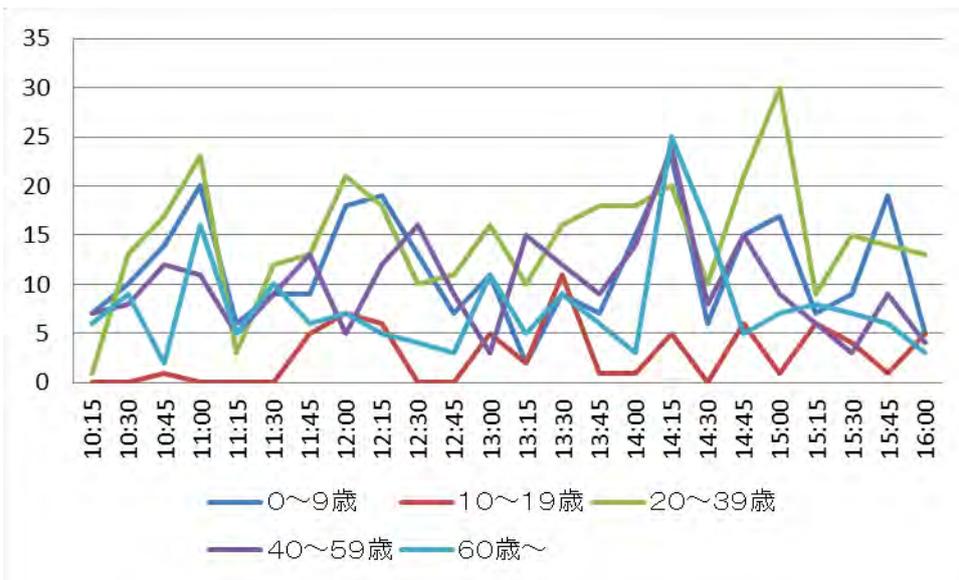
上記の☆のマークのところでは須藤公園は 10:00 から 16:00 まで、宮永仲通りは 13:00 から 16:00 までカウント調査を行った。またメイン会場と同じくバインダーを 5 つ設置し、それぞれ {0~9 歳、10~19 歳、20~39 歳、40~59 歳、60 歳~} の 5 つに分類し 1 時間半おきに交代してカウントしているゾーンの来訪者数をカウントする。このとき必ず上記線上を矢印の方向に通過した人のみをカウントする点に注意する。なお今回の調査では男女を問わず年代だけで分類する。

<調査予測>

私たちはサブ会場のカウント調査をするにあたって(1)須藤公園のおまつりエリアの来訪者数、(2)宮永仲通りのエリアの来訪者数、(3)須藤公園と宮永仲通りの比較の3つについてそれぞれ次のように予測をたてた。(1)について須藤公園は子ども向けの催しを行っているため子どもが多く(2)の宮永仲通りは高齢者向けの催しが行われているため高齢者が多いと予測した。(1)も(2)もメイン会場と比べると2会場とも来訪者数は少なく、(3)について、須藤公園は宮永仲通りよりもお祭りをやっている雰囲気を感じられるため宮永仲通りよりも多いのではないかと予測した。またイベント時には来訪者数が増えると予想した。

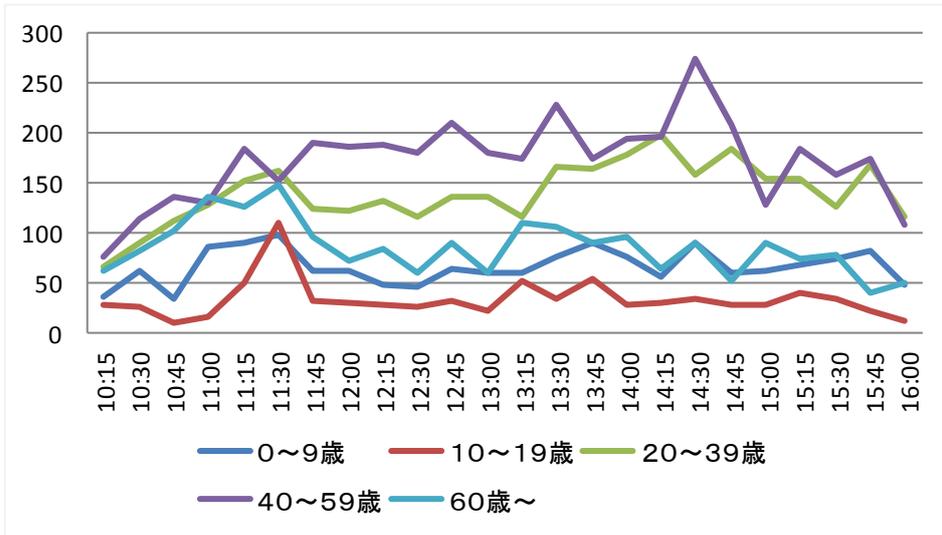
<調査結果>

(1) 須藤公園



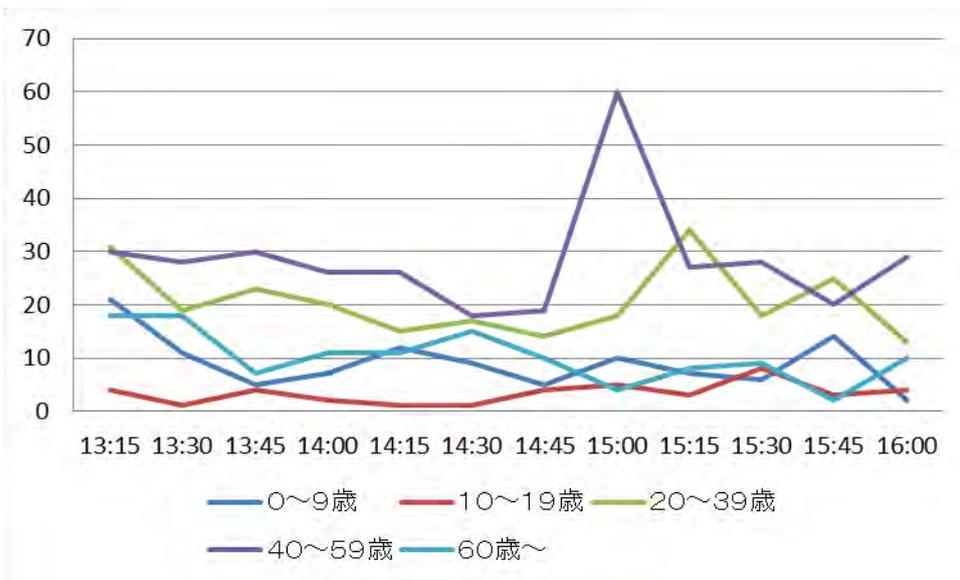
10~19歳以外の来訪者数は全体的に同じくらいである。0~19歳をまとめて考えると予測通り子どもの比率が高いといえる。

メイン会場年代別



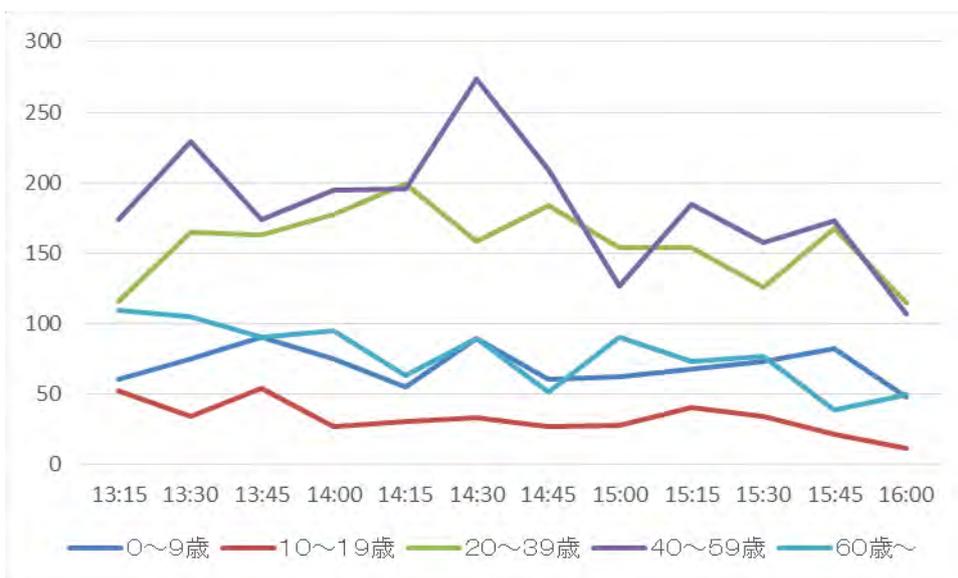
上のグラフはメイン会場の来場者数の推移である。メイン会場と比較すると須藤公園のおまつりエリアの来場者は年代にムラがなくメイン会場より子どもが多く40歳以上の来場者数が少ない。

(2) 宮永仲通り



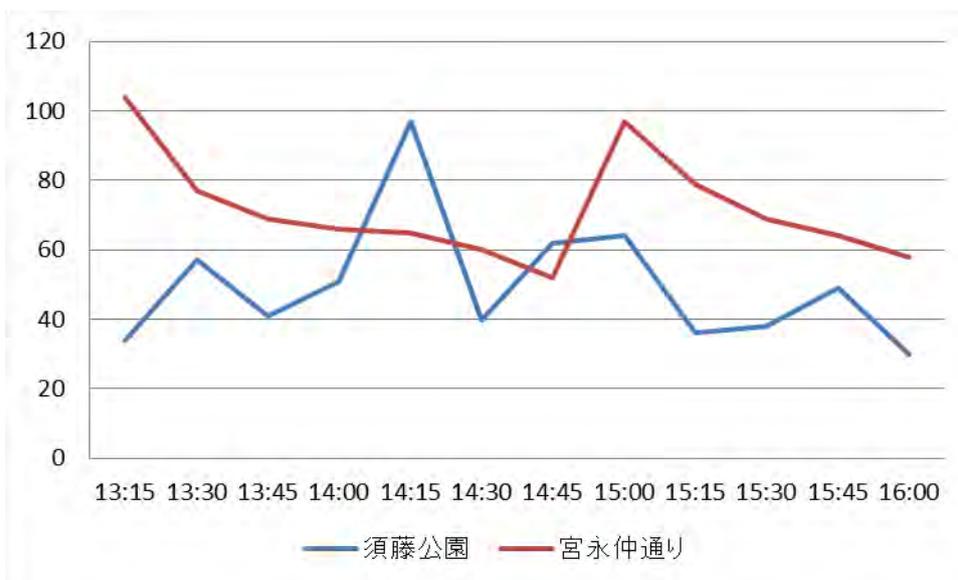
20歳以上、特に40~59歳の来訪者数が他の年代と比べかなり多くなっている。

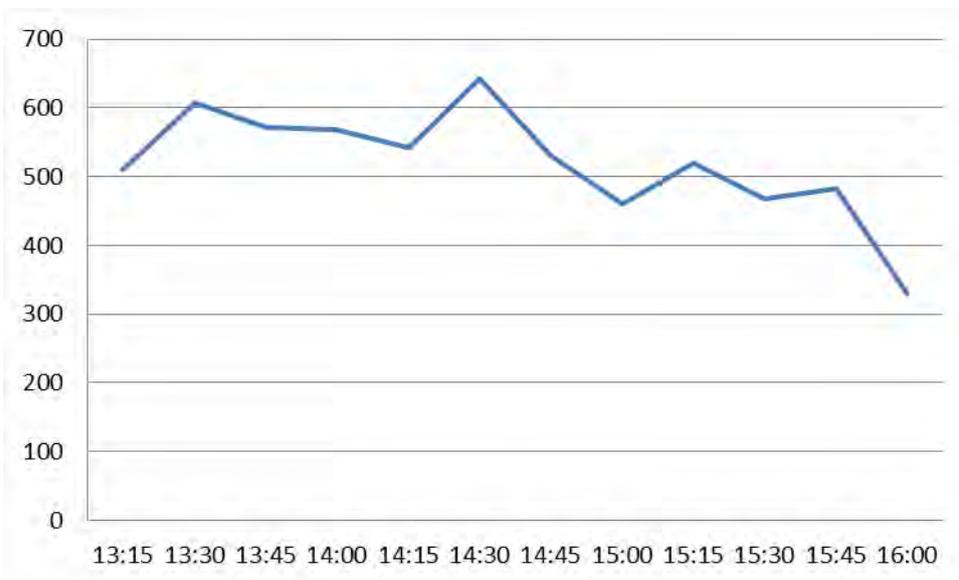
### メイン会場年代別



メイン会場と比較すると、宮永仲通りは子供の数が少なく 40~59 歳が目立ち 60 歳以上の通過者が多いことがわかる。これは、宮永仲通りではビールの屋台があったり、はり・灸に挑戦コーナーがあったりと高齢者向けの催しが多いからであると考察できる。

(3)





上のグラフは須藤公園と宮永仲通り、下はメイン会場の時間ごとの来訪者数の推移のグラフである。須藤公園とメイン会場の来訪者数の推移は同じような形になっているが、宮永仲通りのエリアは 13:00~13:15、14:45 以降の通過者が多い。これは、14:30 頃太鼓を演奏するイベントが行われていたためであると考察できる。カウントを行っていたのが☆の部分で、太鼓のイベントが行われていたのが◇のところであるため終わったあと矢印の方向に移動した通過者が多かったと考察できる。

#### <考察>

以上の3つのグラフから、次のことがわかる。須藤公園は、0~9歳と20~39歳のグラフが比例しておりともに高水準であったため、家族層が多く来訪していたと考察できる。また常設の出店のみがあるため昼の時間帯を除いて来訪者数に大きな変動はみられなかった。宮永仲通りは予測通りイベントがある時間帯に来訪者が増えた。全体的に40歳以上が多かったが、これは開催されているイベントやお店が大人向けであったことが理由であると考察できる。またおつまみのようなものが売っていること、イベントがメインであること、会場が13時からであったことから昼食を目的とする来訪者が少なかったと考えられる。

## (ii). サブ会場調査

今回はカウント調査を行った須藤公園と宮永仲通りの、データだけではわからない実態を把握することを目的に調査を行った。

### ①須藤公園



(入口)



(会場内の写真)

#### 1. 場所・アクセス

千代田線千駄木駅から徒歩3分、メイン会場から徒歩3分

#### 2. イベント内容

バザー、模擬店、写真展

#### 3. 会場規模

公園自体は広いがお祭り会場は小規模。メイン会場の5分の1程度。こじんまりとしている。

#### 4. 年代

幼稚園児～小学校低学年（10歳くらいまで）の子ども、またその親世代（40代～60代）、小学校低学年の集団が多い。メイン会場と比べ子供の比率が高い。

#### 5. 雰囲気

お店の前が賑やかだが公園のため静かな場所もあり、地域の人が多いのか仲の良さそうなアットホームな雰囲気である。メイン会場と比べると静かだが落ち着いている。

#### 6. まとめ・考察

子ども用のスタンプラリーやくじ引き、なぞなぞなど会場内を歩き回り楽しむことができる出し物があり飽きさせない内容になっており子どもを惹きつけている。また例大祭の写真や俳句が展覧されており、地域密着となっていて地元の人にはさらに楽しむことができる。

## ②宮永仲通り



(入口)



(会場内の様子)

### 1. 場所・アクセス

千代田線根津駅から徒歩5分、メイン会場から徒歩10分

### 2. イベント内容

姓名判断、人力車、かっぼれ、和太鼓、はり・灸に挑戦コーナー

### 3. 会場規模

かなり小さめで、屋台が2つある。

### 4. 年代

高めだが、子供連れの家族もいた。

### 5. 雰囲気

静かで落ち着いていて地域の方々が集まっているのかアットホームな雰囲気。

### 6. まとめと考察

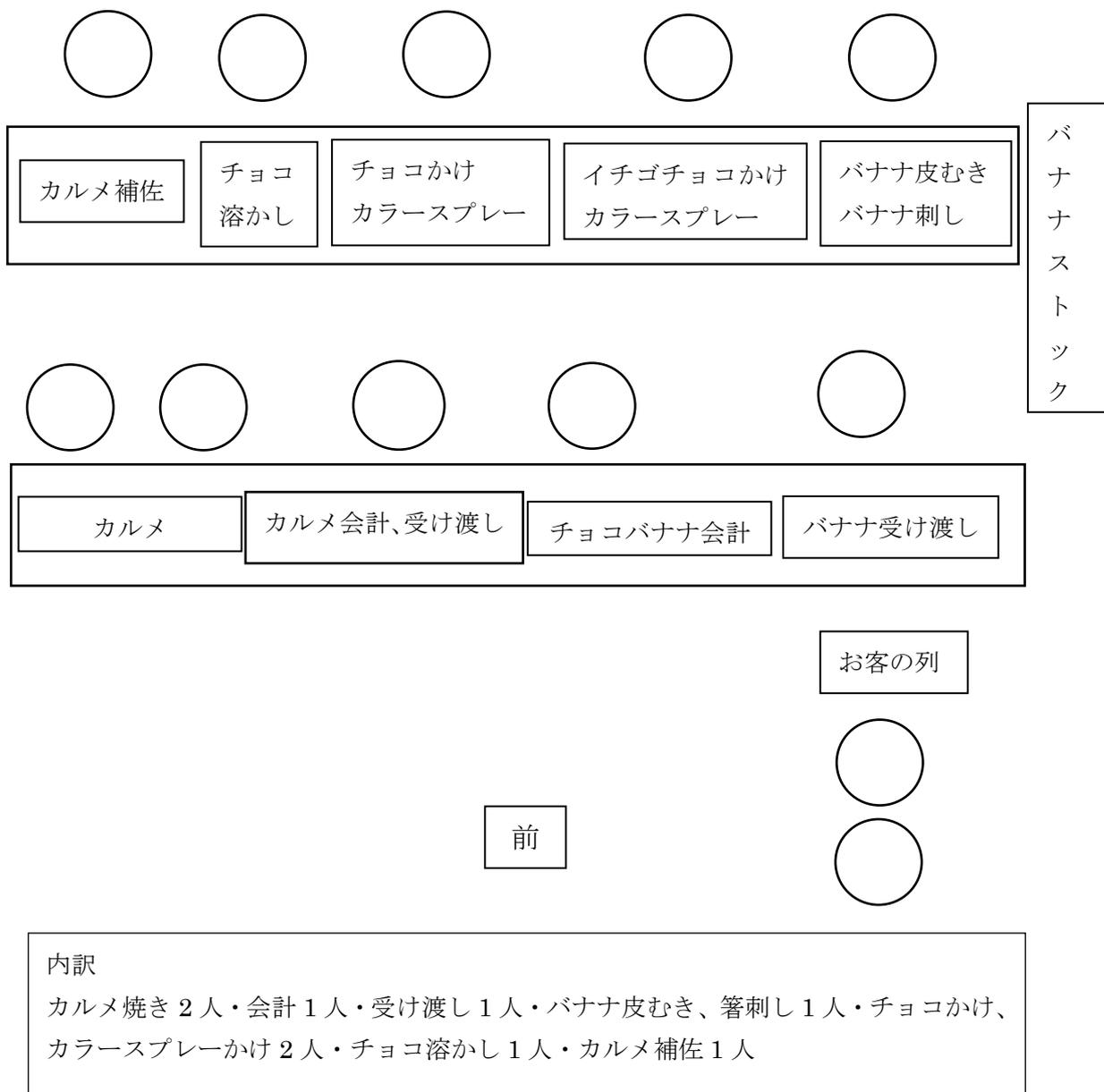
途中子供たちによる和太鼓の演奏や女性たちがかっぼれを踊るイベントがあり賑わっていた。たまたま通りがかった人はいそうであったが、わざわざ足を運んだ人や観光客らしき人はいなかったように感じた。人力車や姓名判断、お灸などを楽しむことができ混んでもいないのでゆっくりと過ごすことができる。スタンプラリーがあったが、メイン会場からやや遠いためお年寄りの方などはバスを利用するべきであると感じた。

# 出店事業報告

## 第V章. 出店事業報告

### 1. 根津・千駄木下町まつり出店事業報告

#### (1)店舗レイアウト



## (2)持ち物リスト

### 1. チョコバナナ

- バケツ×4
- ボウル×4
- 割り箸
- トレイ×2
- ゴムベラ×2
- 陳列板×2
- アルミホイル
- 計量スプーン
- カラースプレーを入れる容器
- うちわ

#### 材料

- バナナ
- チョコ
- カラースプレー

### 2. カルメ焼き

- ガス
- キャンプ用コンロ×2
- 温度計×3
- ふきん×5 (濡れ、乾き、洗い物用)
- 温度計を入れる容器×2
- かき混ぜ棒×8
- 重曹卵入れ×2
- 重曹卵入れふた×2
- シロップをすくうおたま
- カルメ焼き用おたま×8
- おたま置き×6
- 鍋×2 (シロップ用と洗い物用)
- 袋 (包む用)
- ポリパック
- ビニール袋(お持ち帰り用)
- キッチンペーパー
- 重曹卵 (重曹と卵)
- ザラメシロップ (三温糖)
- 重曹卵 (重曹と卵白)

### 3. 機材類、セッティング類

- ビニールシート×2 (床とテーブル)
- ガスコンロ
- やかん
- ビニール袋 (売上表入れ)
- 養生テープ
- アルコール
- 椅子×2 (カルメ焼き用)
- ゴミ袋
- ラップ
- ウェットティッシュ
- キッチンペーパー
- ふきん
- 雑巾
- 消火器
- クーラーボックス
- 工具箱

### 4. 会計

- 電卓
- 売上表
- お金入れ

### 5. レイアウト類

- カルメ横幕
- チョコバナナ横幕
- メニュー表
- 看板

### 6. 後片付け類

- 洗剤
- スポンジ

### (3)シフト

土曜日		
	グループ A 10 時～13 時	グループ B 13 時～16 時
カルメ	太田(裕)	中嶋
	高野	森
バナナ皮むき・串刺し	宮越	塚本
チョコかけ	斎藤	川戸
会計	内野	居川
受け渡し	赤石	☆松村
列整理・呼び込み	☆成田	鈴木
	☆末永	

日曜日			
	グループ A 10 時～12 時	グループ 12 時～14 時	グループ C 14 時～16 時
カルメ	森	太田(裕)	中嶋
		高野	
バナナ皮むき・串刺し	塚本	城下	宮越
チョコかけ	☆土橋	川戸	斎藤
会計	藤野	内野	居川
受け渡し	赤石	太田(萌)	☆松村
列整理・呼び込み	☆成田	☆末永	鈴木

\* ☆印(男子)はバナナの買い足し要員とし連絡が随時とれるようお願いした。

\* 練習会の様子を見て B 班でシフトを作成した。

\* 当日の様子を見ながら交代や休憩に入った。

#### (4)看板類・垂れ幕

##### 【作成物】

チョコバナナ・カルメ焼き      メニュー表 (図1・2)

チョコバナナ・カルメ焼き      看板      (図3・4)

Word で文字を打ち込んで印刷し、ラミネートをした。メニュー表、看板とも商品名・価格・味の種類を表記。メニュー表はA3サイズを1枚、A4サイズを2枚ずつそれぞれ作成し、A3サイズの方を垂れ幕と学校名の看板横に、A4サイズの方をカルメ焼きの実演台前に貼りつけ、残りの1枚ずつは呼び込みの際に使用した。看板も同様にA3サイズを1枚、A4サイズを2枚ずつ作成したが、当日はA4サイズ1枚のみを使用し、チョコバナナの陳列台前に貼りつけた。(図5)



(図1)



(図2)



(図3)



(図4)



(図 5)

【その他使用物】

会計 案内表記 (図 6)

渡し口 案内表記 (図 7)

チョコバナナ・カルメ焼き 垂れ幕 (図 5)

会計・渡し口案内表記は昨年作成したものを引き続き使用し、それぞれの位置に貼りつけた。チョコバナナの垂れ幕はインターネットで発注をし、カルメ焼きの方は昨年のもを引き続き使用した。



(図 6)

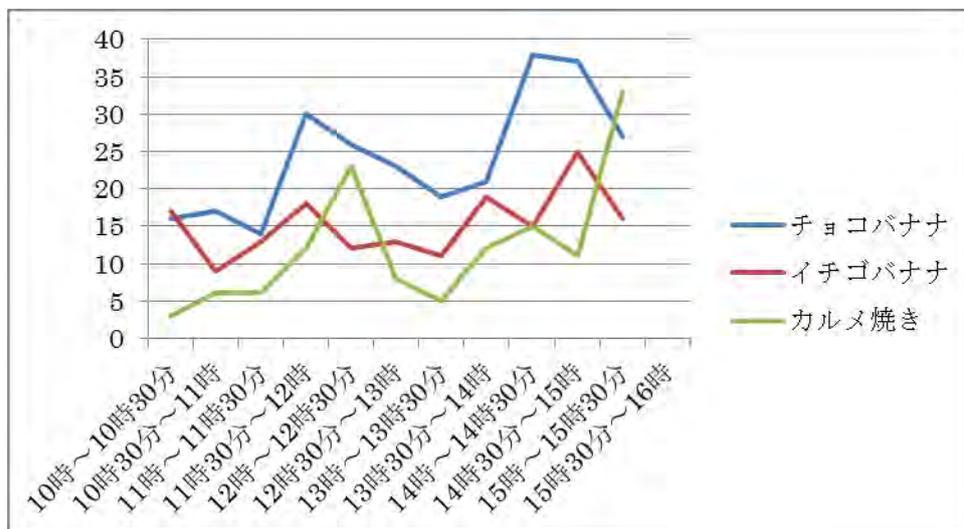


(図 7)

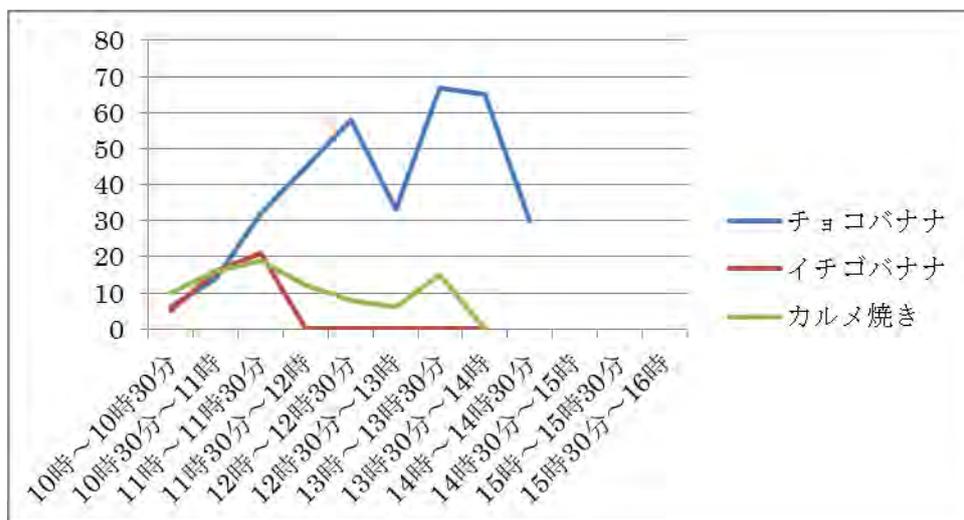
### (5) 売り上げ数結果

以下のグラフは下町祭りの出店事業における販売結果を示したものである。

#### ① 時間帯別種別売上 10月15日

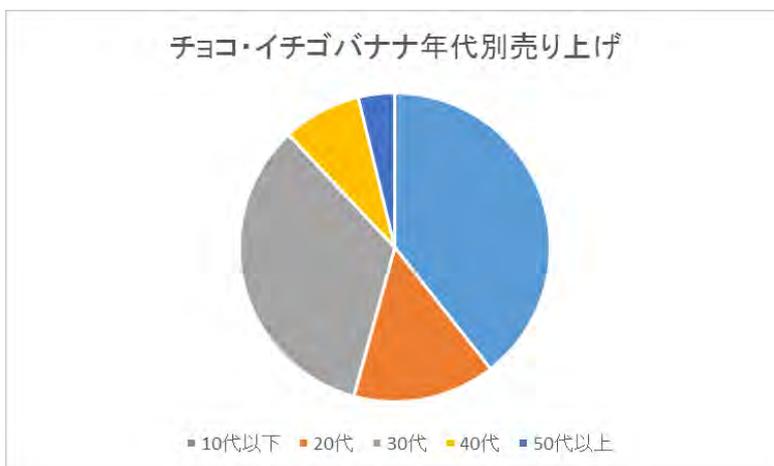


#### ② 時間帯別種別売上 10月16日



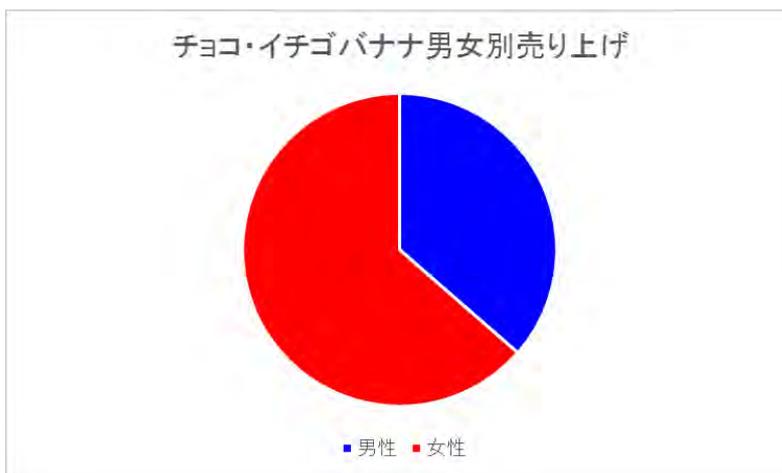
全体で見ると、午前より午後のほうが売り上げが多いことがわかる。これはチョコバナナとカルメ焼きという甘いものを出店したため食事というよりおやつとして購入されたのではないかと考えられる。種別でみるとチョコバナナの売り上げが多いが時間帯によってはイチゴバナナやカルメ焼きも上回る結果となった。

③ チョコバナナ、イチゴチョコバナナの年代の割合



10代の売り上げが最も多い結果になった年代が上がると共に売り上げは少なくなるかと思っていたが10代に次いで30代が多いという結果になった。子供に買ってあげるためにその親世代である30代の売り上げがよかったと思われる

④ チョコバナナ、イチゴチョコバナナの男女割合



女性のほうが多い結果となった。また子供連れのお母さんの購入が多かった。

注文票	
チョコバナナ	個
イチゴバナナ	個
カルメ焼き	個
~M 10 M 20 M 30 M 40 M 50~	
~W 10 W 20 W 30 W 40 W 50~	

\*以上のグラフは上記の注文票を作成し円滑に商品受け渡しができるようにするとともに、調査を行えるよう年代と性別に○を付け30分ごとに袋に保管した。

## ● 下町祭り反省点

### 【全体】

- ・取りかかりが遅く、詰まったスケジュールになってしまった。
- ・当日に買い足すものが多かった。
- ・材料不足のため、販売終了になる時間が早かった。(需要、供給予測をもう少ししっかり行い準備すればもっと売れたはず)
- ・それぞれの係の連携がもう少しできればよかった。
- ・動線計画の工夫が足りなかった。「会計」の位置など

### 【カルメ焼き】

- ・事前にストックは用意していたが、大量買いのお客様がいたり、実演、呼び込みなどの効果で最終的に足りなくなってしまい、バタバタしてしまった。
- ・商品渡しの際にスムーズにいかないときがあった。(紙袋、透明のフードパック、ビニール袋と種類があったため)

### 【チョコバナナ】

- ・バナナとチョコの仕入れ場所が少なかった。
- ・バナナの処分が多く出てしまった。(バナナの状態悪化、箸がバナナに貫通、チョコかけの際にバナナが箸から抜け落ちる、などが重なったため)
- ・チョコ味が勢いよく売れたため、作成が追いつかず急遽カルメ焼き用のボウルも使用して作成するなど、事前予測が足りずバタバタしてしまうことがあった。

## (6)会計報告

### I. 利益

売上高	150,790
材料費	76,654
利益	74,136

### II. 商品別売上

#### ①ゼミ内デモンストレーション

商品名	単価	売上個数	売上
チョコバナナ	100	30	3,000
イチゴバナナ	100	8	800
カルメ焼き	50	13	650

#### ②10月15日 下町祭り

商品名	単価	売上個数	売上
チョコバナナ	150	268本	40,200
イチゴバナナ	150	168本	25,200
カルメ焼き	100	134個	13,400

#### ③10月16日 下町祭り

商品名	単価	売上個数	売上
チョコバナナ	150	350本	52,500
イチゴバナナ	150	42本	6,300
カルメ焼き	100	86個	8,600
バナナ	10	14本	140

### Ⅲ. 材料費内訳

材料費内訳	
チョコ 16 キロ	25,498
イチゴチョコ 6 キロ	12,234
バナナ約 1000 本	23,809
カラースプレー2 キロ	4,764
パスカル 500 グラム	980
三温糖 10 キロ	2,130
重曹 5P	610
卵 2P	216
箸	421
ガスボンベ	963
キッチンタオル	675
チョコバナナ陳列用板	1,640
両面テープ	461
ウェットティッシュ×4	849
カルメ焼き包装紙 300 枚	972
カルメ焼き保存用袋	324
おつりケース	108

\* 下町祭り最終日はバナナが余ってしまった為バラ売りした。

\* バナナは青果店でケース購入したためおおよその数である。

\* 材料費には事前の練習会の分も含まれる。

## (7)カルメ焼き、チョコバナナ作成マニュアル

### ○カルメ焼き

#### [準備するもの]

##### <シロップ>

はかり

計量カップ

小鍋

コンロ

お玉



##### <かるめ焼き>

銅鍋

ミニコンロ

温度計

棒 (すりこぎ)

乾いた布巾

濡れた布巾

スタンド

重曹卵を入れる容器 (フタつき)



#### [材料]

##### <重曹卵>

卵白…適量

重曹…適量

##### <かるめ焼き> 一個分

三温糖…30 g

水…11cc

重曹卵…小豆 1 粒くらい

## [作り方]

### <重曹卵>

- ①卵白を容器に入れ重曹を加え、混ぜる。
- ②少し固めのソフトクリームぐらいの感触になるまで、微調整。



- ③棒に小豆粒ぐらいの重曹卵を付けておく。



### <かるめ焼き>

- ①小鍋に三温糖を投入し、水を加える。  
焦げないように気を付けながらシロップ状にする。  
(三温糖 1k g に対し、水 110cc)



- ②シロップ (お玉一杯分) を銅鍋に入れてコンロの火にかけ、128℃になるまで温度計で熱する。



- ③128℃になったら乾いた布巾の上に乗せ、大きな泡が消えるまで待つ。  
(右写真参考) このくらい! →



- ④大きな泡が消えたら重曹卵（小豆一粒くらい）を付けた棒で混ぜ、表面がザラツとしてきたら静かに棒を離す。



～ふくらむ～

- ⑤ふくらみが落ち着いたら濡れ布巾の上で冷まし、落ち着いたらスタンドに立ててさらに冷ます。



○ チョコバナナ

[必要なもの]

- ・バナナ            ・チョコレート    ・カラースプレー    ・まな板            ・ボウル
- ・ゴムベラ        ・バケツ            ・カセットコンロ    ・やかん            ・お玉
- ・割り箸           ・トレイ            ・発泡スチロール    ・アルミホイル    ・木の板

※チョコレートはチョコバナナ用のものを使用すると、テンパリングの必要がないので望ましい。

※ボウルは手順3の写真のように、バケツにしっかりとハマるサイズのものを用意。(現場では直径 cm のものを使用)

※木の板は陳列の際により安定感を出すために、発泡スチロールの下に敷く。穴は両方開ける。

[作り方]

手順	作り方	
①	水を汲んだやかんをカセットコンロにセットし、お湯を沸かす。(目安：60～80度)	
②	沸かしたお湯をバケツに移す。(量：ボウルをのせたときに底につくまで)	

<p>③</p>	<p>お湯を張ったバケツにボウルをのせ、その中にチョコレートを入れて溶かす。</p>	
<p>④</p>	<p>割り箸を割り、先の太くなっていく方をバナナにゆっくり刺し込む。</p>	
<p>⑤</p>	<p>チョコレートが溶けてきたらお玉ですくい、バナナを斜め下に向け全体にまんべんなくかける。かけ終わったら軽く振ってチョコレートをきり、垂れるのを防ぐ。</p>	

⑥	カラースプレーをかける。	
⑦	発泡スチロールに刺して乾かし、陳列。	

**【作成するうえでのコツ・注意点】**

- バナナは時間が経つと悪くなってしまうことがあるので、現場ではクーラーボックスに入れておき、また皮を剥いたものはラップをしておくなど、保管に注意する。
- 割り箸は、刺し込む位置が上すぎても下すぎても貫通してしまったり不安定になってしまったりすることがあるので、バナナの真ん中を狙って刺し込む。
- チョコレートをかける際には、バナナが箸から抜け落ちないように時々上に向け調節する。
- 現場では、チョコが足りなくなるのを早めに見計らい手順①～③の作業を繰り返すと、スムーズに行く。

## 2. はっぴ作成報告

### (1)コンセプト・理由

出店するにあたり、オリジナルのユニフォームを着用することで、宣伝効果を生み出すことが出来る。そして、集団としての団結力を高め、外部にも示すことが出来る。常に名前を背負うことで、責任感を持って行動することが出来る。また、昨年度の T シャツから今回はっぴに変更した理由は、はっぴは祭りならではの文化であり、祭りらしい雰囲気づくりが会場の一体感をつくりだすものと考えたからである。

### (2)デザイン

【色】ライトブルー 祭りのはっぴに最も馴染みのある色であるとともに、デザインの色が映えやすいという利点がある。

【背面】今回の出店内容がチョコバナナでありバナナから南国を連想し、テーマが「南国」なので、太陽とヤシの木と海でテーマを表現した。また文字をピンク、白、黄色のグラデーションにすることでデザイン性を向上させる狙いがある。(図 1)

【前面】左右の衿には「東海林ゼミ 10 期生」と分かるようなデザインを入れた。すべて漢字で表記することでより和風なはっぴを意識した。(図 2)



(図 1)



(図 2)

### (3)作成工程

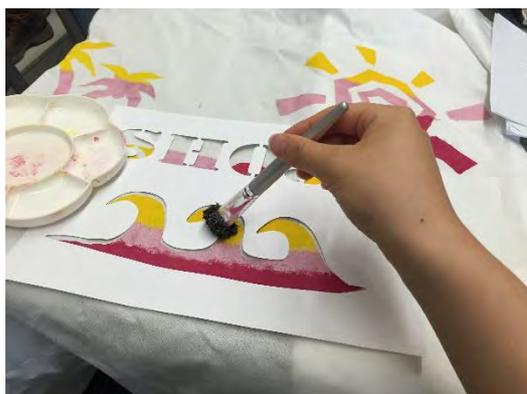
#### 【材料】

はっぴ(購入源：ユナイテッドアスレ 価格 1,349 円 税込)、ステンシル台紙、アクリル絵の具、パレット、筆またはブラシ(絵の具はたたいて塗るため、はげが大きいものを使用)、化粧用パフ、新聞紙

#### 【工程】

①台紙の作成：Cutting Master2 for Craft Robo のソフトを使い、前面と背面のデザインを作成。Craft Robo を使い台紙にカットする。

②ステンシル作業 [背面]：ステンシル台紙からシールをはがし、はっぴに貼り付ける。下に色がうつらないように新聞紙を敷く。アクリル絵の具がはみ出さないように注意しながら筆やブラシでたたく。細かい箇所は化粧用パフを使用する。絵の具を水で薄める必要はない。(図 3)



(図 3 \*この写真は練習用です)

③ステンシル作業 [前面]：文字の部分を台紙から剥がし、衿の部分に順に貼り付けていく。細かいパーツは紛失しやすいので余分に作成しておくが良い。

④最終工程：染料が乾いたらシールをはがす。(背面)

その際、乾かし過ぎると剥がれにくくなり汚くなってしまうので注意。

### (4)感想・反省点

事前にはっぴ作りの日程の計画を立てていたため、ある程度予定通りにすすめることができた。今回の出店テーマに合った良いデザインを作ることができた。

反省点は、細かいパーツが多かったため、デザインに多少のズレができてしまった。

# 11 期生対象 ゼミ説明会報告

## 第Ⅵ章. 11 期生対象ゼミ説明会

日時：平成 28 年 5 月 3 日

場所：5202 教室（受付会場）

観光資料室、5303 教室（説明会会場）

### [実施手順]

- ・受付担当は、2 年生に対して 5202 教室にて「手順」を説明する。
- ・最初に来た学生から順にブースへ案内する（早い時間希望者は優先）。
- ・後半希望者には受付表にて予約をしてもらう。

### [実施方法]

#### ～事前準備～

- ・評価シート×説明会参加者分（9,10 期生）
- ・報告書
- ・受付表
- ・教室の確保

#### ～配置～

- ・1 グループ 4,5 人のゼミ生を配置。  
観光資料室に 2 グループ、5303 教室に 3 グループを配置し、対面で説明が行えるように座席を組んだ。
- ・受付会場のレイアウトは、提出台と記入台でコの字型になるように机を配置した。

時間帯希望表	
氏名 (カタカナ)	
<希望時間帯>	
( )	15 時 ~ 16 時
( )	16 時半 ~ 17 時半
( )	18 時 ~ 19 時
本人控え	
氏名 (カタカナ)	
<希望時間帯>	
( )	15 時 ~ 16 時
( )	16 時半 ~ 17 時半
( )	18 時 ~ 19 時

<当日使用した受付表>

### [当日運営]

#### ～タイムスケジュール～

- 14:00 観光資料室集合（9 期生）、机等のセッティング
- 14:30 5303 教室集合（10 期生）、オリエンテーション+セッティング
- 14:50 説明会開始
- ・1 グループの所要時間は 20 分前後
  - ・担当する 2 年生は 3~5 人を目安とする。
- 18:30 終了

#### ～運営内容～

報告書や T シャツ、またスマホ内の写真等を用いて、各班それぞれのやり方で説明を行った。9 期生は東海林ゼミの大まかな年間スケジュールや、就職活動をしている中で東海林ゼミとしての活動がどう生かされているかに重点を置いて説明した。10 期生は、自分が東海林ゼミを希望した理由や、配属されてから 1 ヶ月経った心境、東海林ゼミに入る前と後で感じたギャップについて説明した。

#### [良かった点]

- ・ 昨年同様、受付表を活用することで時間の分散化を可能にした。これにより、一定時間に集中した混雑を避けることができたほか、11 期生の希望の時間に合わせて案内することができた。
- ・ 11 期生を教室まで誘導する担当や、各班に一人説明時間を管理するタイムキーパーを設けたことで、全体の運営を円滑に進めることができた。
- ・ 5 限の講義を考慮して、説明会の時間を長く設けた。これにより、5 限後にも多くの 11 期生が説明会に参加してくれた。

#### [改善点]

- ・ 私たちが話をしている時に、11 期生が「どのような態度をとっているか」だけを意識して見すぎてしまったと思う。説明側が見えているものだけではなくて、説明会に参加した 11 期生が本当に東海林ゼミでやっていけるのか、ゼミの雰囲気合っているかなど、見えない部分も想像を働かせるべきであった。
- ・ 班ごとの活動や谷根千調査隊プロジェクトの詳細について細かく説明しがちであったため、東海林ゼミの活動の目的や意図等の大枠を話すべきであると感じた。その話をした上で、11 期生から出た質問に対して話を展開していけば、11 期生が理解しやすく、伝わりやすい説明になると思った。

# 谷根千調査隊 プロジェクト報告

## 第Ⅶ章. 谷根千調査隊プロジェクト報告

一昨年度より始めた、日暮里駅のエキュートと協力して行っているプロジェクト。  
まず、初めに谷根千の対象地域を 9 ブロックに分けて、各ブロックを担当する 9 チームを編成した。

(4 年生 2 人・3 年生 2~3 人・2 年生 2~3 人)

<u>4 年生</u>	<u>3 年生</u>	<u>2 年生</u>
① 宮本、佐竹、	城所、村山	安部、喜多、永嶋
② 下山、玉那覇、	土橋、中嶋、高野	多田、茂木
③ 原田、阪野、	塚本、城下	五十嵐(大)、伊藤(夏)
④ 梶間、福原、	末永、太田(裕)、赤石	天野、伊藤(瑠)
⑤ 前田、岩田、	小林、藤野、太田(萌)	新井、手塚
⑥ 小林、深尾、	成田、居川	月岡、渡辺
⑦ 山本、樽谷、	松村、川戸	加藤、後藤田
⑧ 大日方、藤次、	宮越、内野、	五十嵐(葉)、大月、富永
⑨ 小又、前島、	森、斉藤、鈴木	佐々木、小山

谷根千の街歩きを行い、四半期ごとにテーマを決め、大学生の視点からテーマに該当する施設等を紹介していく。

### 【作業手順】

#### ①テーマの設定

基本的にはゼミ生内でテーマの案を出しエキュート側と協議の上決定する。なお、エキュートからテーマの提案をうける場合もある。

※例

- ・下町グルメ
- ・雑貨屋

#### ②施設選び

各班、テーマに該当する施設をガイドブックやインターネット検索により、リストアップする。

※読み方、番地、電話番号、閉館時間、料金などの情報もしらべる。

### ③現地調査・説明資料作成

リストアップした施設に行き、写真撮影・現地調査を行う。そして各施設の説明コメントを考える。

※写真撮影に関する注意事項（テーマがお店の場合）

- ・全景をとること



- ・コメント文に適合した写真をとること
- ・写真の角度や撮影地点は、他の人の撮った写真を真似ること
- ・通行人の顔が判別できないようにすること
- ・自分たちを入れても構わないが、人物の大きさ、ポーズに注意
- ・逆光写真や暗い写真は不可
- ・斜めに傾いている写真は不可

### ④投票

現地調査により撮影した写真及びコメントを用い、東洋大学生にプレゼンテーションを行い、投票をしてもらう。（東海林先生のある授業を履修している学生に対して。）

※1位～10位までを選抜する。

### ⑤原稿提出

投票結果をもとに、1位～10位までの該当施設の写真・コメントを東海林先生に提出。

【新感覚の雑貨屋の例】

#### 2位 下御隠殿橋

- ・東京都荒川区西日暮里3丁目
- ・日暮里駅のすぐ近くにある橋で山手線や高崎線など9つの電車が走っている様子を眺めることができる場所である。鉄道好きの方には有名で、たくさんの電車が見られることから別名トレインミュージアムとも呼ばれている。

## ⑥掲載候補施設に対する連絡調整

掲載施設に対して、エキュート側が、使用する写真&コメントを提示して、文章にて了解を得る。

## ⑦原稿の完成・提示

### ★最終的にとりまとめる資料

- ・写真1点（どうしても絞りきれない場合は2点～3点） サイズは1MB以上。
- ・施設情報（施設名、読み、住所、利用可能時間、利用料）
- ・コメント（40字前後。短すぎても、長すぎても不可）
- ・解説文（長めのもの。コメントの妥当性や修正等を考える時の検討資料となる。）
- ・位置図（1位～10位の施設の1枚の地図にマーキング）



日暮里駅にある谷根千 MAP

## 感想

実際に企業の方と関わりながら行うゼミ活動は学ぶ事が多く良い経験だったと思う。今後の方針について決めるためにエキュートの方を前にプレゼンテーションをしたことは、私たちゼミ生にとってとても勉強になり貴重な経験となった。谷根千現地の活動では、テーマに沿った調査を行うことに苦戦し、どのように伝えたらそのスポットの魅力を分かってもらえるかなど多くの問題に直面したが、回を重ねるごとに工夫の仕方を学び成長することができたと思う。

これからも谷根千調査隊として地域の魅力を発信していきたいと思う。

大学生が調べました!

# 谷根千調査隊の地域紹介

協力: 東洋大学 国際地域学部 国際観光学科(東海林ゼミ)



## 女子大生がおススメする 谷根千の公園・撮影スポット

**1位** B-2



### 須藤公園

加賀藩の支藩である大聖寺藩の屋敷跡を利用した公園。クスノキなどの大木が生い茂り、自然がいっぱいです。池や滝、藤棚、祠などがあり、四季を通じて楽しめます。



**ここがオススメ!!** 緑が多く、涼しく静かな休憩スポットです。

**2位** B-1



### 下御隠殿橋

「橋」ですが、「トレインミュージアム」とも呼ばれる有名なスポット。これは、ここから鉄道各社の電車(1日あたり約2500本)を眺められるからだとか。



**ここがオススメ!!** 在来線の他、新幹線も見れるスポットです。

**3位** B-2



### ヒマラヤ杉

樹齢90年以上のヒマラヤ杉の見上げるような大木。地域のランドマークとして親しまれており、台東区の保護樹木に指定されています。



**ここがオススメ!!** 近くにベンチがあるので座って眺めるのもオススメ!

**4位** B-2



### 七体の木彫り猫

全部で七つある猫の木彫りのモニュメント。谷中銀座商店街の中にあります。いずれも東京芸術大学の学生達の作品で、それぞれの猫の何ともいえない仕草と表情が通行人の目を惹きつけてしまいます。



**ここがオススメ!!** 他の七福猫も谷中銀座商店街の中で発見できます。

**5位** B-3



### 大平イチョウ

大給坂(おぎゅうざか)途中の児童遊園にあります。地域のランドマークにもなっているイチョウの見事な大木。元・総理大臣の大平正芳の旧居跡だったことが、名前の由来です。



**ここがオススメ!!** 住宅街の中に立っており迫力があります。

**6位** B-3



### 夏目漱石旧居跡(猫の家)

「吾輩は猫である」の舞台にもなった夏目漱石の旧居跡。旧居は残っていませんが、案内板と隣接する日本医科大学の塙の上にはユニークな猫の像があります。



**ここがオススメ!!** 案内板、碑文、作品に因んだ猫の像があります。

**7位 宇坂児童遊園 (いもさかじどうゆうえん)▷**  
JR線の跨線橋の下に、線路と並んで広がる公園。映画のロケ地にもなるなど、何とも不思議な雰囲気があります。 B-1

**8位 防災広場・初音の森 (はつねのもり)▷**  
普段は子ども達の遊び場ですが、緊急時には防災拠点に早変わり。ベンチがまだ、マンホールが簡易トイレになります! B-2

**9位 西日暮里公園▷**  
西日暮里駅の近くの高台にある緑の多い公園。江戸時代は「ひぐらしの里」として、松虫や鈴虫などの鳴き声を楽しむ「虫騒ぎ」の地として親しまれていたそうです。 A-2

**10位 谷中小学校前の時計台▷**  
谷中小学校の前にあるレトロな時計台。ベンチもあり、ちょっとした休憩スポットになっています。 B-2






**「谷根千調査隊」とは?**  
東洋大学(文京区白山)で観光学を学んでいる学生による調査隊。

谷根千まちあるきが大好きでたまらないメンバー約40人が、見どころを発掘! テーマごとに谷根千ならではの魅力をお伝えしていきます。

※選定方法: 6チームに分かれ、テーマにあう該当施設をリストアップし、現地調査、施設をセレクト。各チームがセレクトした結果を学内で掲示、人気投票の上位10か所をご紹介します。

# 阿寒湖畔及びアイヌ文化 に関する調査報告

## 第Ⅷ章. 阿寒湖畔及びアイヌ文化に関する調査報告

### ○阿寒湖畔に関する調査報告

#### 1. 調査目的及び調査方法

##### (1)調査目的とその背景

近年、北海道新幹線が開通し、北海道観光はますます盛り上がりを見せている。定番である札幌・小樽や、旭山動物園がある旭川などの観光地は現在も根強い人気があり、衰えを見せていない。また、登別温泉やニセコ温泉、定山溪温泉など数多くの温泉街が各地に点在しているのも北海道観光の特徴である。

そんな中、阿寒湖温泉があり、「マリモ」で知られている阿寒湖畔は、ここ 30 年で観光客が半減した。北海道全体での観光客数が上昇傾向にある中、阿寒湖畔への観光客はなぜ半減してしまったのか。その要因を追求すべく、調査することとした。

調査を行う前に仮説を立てたところ、2つのことが挙げられた。

1 つは、阿寒湖畔の知名度の低さである。阿寒湖といえば「マリモ」というイメージで浸透しているが、どこに位置しているのか、何があるのかわからない人が多いのではないかと予測した。2 つ目は、多くの観光地を短い期間で点々とする周遊型短期滞在観光が今の観光の主流となっている点である。長期滞在する魅力があるにもかかわらず、多くの人がある魅力を知らないまま阿寒湖畔を通過点としていることが多い。以上 2 つの要因から阿寒湖畔への観光客が減少したのではないかと考えた。

これらの仮説と調査結果から、

- 1) 阿寒湖畔への観光客の減少の原因を深掘りし、通過点としての阿寒湖から中・長期滞在向けの阿寒湖畔にするための提案をする。
- 2) マリモという過去に頼った知名度向上ではなく、その他の魅力ある観光資源や新たな阿寒湖観光の形を PR する方法を考える。

という 2 つの目的をもとに調査を進めていくこととした。調査方法は以下の通りである。

##### (2) 調査方法

今回は、事前調査は行わず、現地調査のみ行うこととした。質問内容は以下の通りである。

## 阿寒湖畔滞在中の行動形態に関する調査

東洋大学 東海林ゼミ

年齢： 性別：男・女

住所（県・市町村）：

交通手段：

- 1) 阿寒湖畔に来たのは何回目ですか？
- 2) 何日間滞在しますか？
- 3) 阿寒湖畔に来た一番の目的は何ですか？
- 4) 滞在中の行動について詳しく教えてください。
- 5) 阿寒湖にまた来たいですか？ はい・いいえ  
またその理由は何ですか？

阿寒湖にいる観光客 21 人を対象に、上記の項目をヒアリングで調査した。（年齢、性別ごとの人数は特に設定していない。）

## 2. 阿寒湖畔観光の現状

まず、今回私たちが調査を行った地区、釧路市阿寒町阿寒湖畔についての概要を説明する。

### (1) 阿寒湖畔とは

#### ① 概要

阿寒湖畔にある阿寒湖温泉は北海道釧路市阿寒町にある南側に湧き出た温泉であり、遊覧船乗り場を中心に、温泉街が形成されている。道東きっての温泉街でホテル・旅館をはじめ、阿寒の名物料理を提供する飲食店やアイヌ伝統の木彫り技術で制作された彫

刻品やアクセサリーを販売するお土産等の関連施設が約 150 軒も建ち並ぶ。西のはずれには観光用のアイヌ部落「アイヌコタン」があり、アイヌの伝統文化も間近で楽しむことができる。

また、温泉街の中心には各ホテル、ビジネスセンター、アイヌコタンなどを結ぶ無料のバスである「まりむ号」が運行されている。阿寒湖畔周辺には『日本百名山』である雌阿寒岳、雄阿寒岳があり登山も楽しめる。また阿寒湖畔東川に位置する阿寒湖畔エコミュージアムセンターでは阿寒の自然、育成する動物や生い立ちなどを学べ、また、水槽には特別天然記念物であるマリモが展示されており、遊覧船でチュウルイ島に上陸する以外の方法でマリモを観察する事ができる。

## ②歴史

阿寒湖温泉の歴史は古く、安政 5 年(1858)には既にアイヌの人々が利用する温泉になっていた。旅館ができたのは 1912 年(明治 45 年)になってからである。その後、1934 年(昭和 9 年)の阿寒国立公園の指定により、観光拠点として発展していった。

## ③観光資源

### ア. アイヌコタン

阿寒湖のアイヌコタンは、戸数 36・約 120 名と北海道で一番大きなアイヌコタンである。アイヌ生活館では、アイヌ民族の家の中が見学でき、暮らしぶりが伺える。「阿寒湖アイヌシアターイコロ」では祖先から伝承されてきた、伝統あるアイヌ古式舞踊・イオマンテの火まつりを見学することができ、この踊りは北海道唯一の、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

また、民芸品や飲食店が並びアイヌ文様を木彫りしたもの全てが手作りであり、アクセサリーや小物が並ぶ。人気商品はアイヌの伝承登場する小人であるコロポックルの木彫り人形である。



▲アイヌシアターイコロ



▲コロポックル 木彫り人形

## イ. 温泉

質泉は単純泉、硫黄泉などで源泉温度 50-80℃であり、神経痛、冷え性、疲労回復、リウマチ、慢性消火器病、痔疾などによいとされている。旅館やホテルのほとんどは湖に面しているため、部屋や露天風呂から阿寒湖の景色が一望できる。

## ウ. 食

阿寒湖は豊かな自然に囲まれた阿寒湖では、大地の恵みをそのまま味わうかのような新鮮な野菜や果物を生かした料理を提供している。またヒメマス・ワカサギも阿寒湖原産、郷土料理として提供されている。近年では北海道に生息する阿寒湖産のエゾシカを使用した「阿寒やきどり丼」が阿寒湖温泉ご当地グルメとして人気である。また阿寒湖ならではの「マリモラーメン」は、塩スープに中細麺、マリモを模した海藻の塊がのっており、阿寒名物となっている。



▲マリモラーメン



▲阿寒やきとり丼

## エ. 自然

阿寒湖は全域が阿寒国立公園に含まれ、道東を代表する観光地となっている。北海道で 5 番目に大きい淡水湖で周囲はエゾマツ・トドマツなどの亜高山帯針葉樹林、および広葉樹を交えた針広混交林の深い森に覆われている。2005 年 11 月、ラムサール条約登録湿地となった。古阿寒湖はカルデラ湖として誕生し、いったんは外輪山である雌阿寒岳の噴火などによって埋め立てられたが、今から 1 万年程前に雄阿寒岳（中央火口丘にあたる）の噴火活動によって堰止湖がつけられた。しかし雄阿寒岳は成長を続け湖面を埋めてしまい、古阿寒湖は分断され、現在の阿寒湖、そして東にあるペンケトー、ペンケトーが誕生した。



▲雄阿寒岳



▲雌阿寒岳

## オ. レジャー

阿寒湖畔では、遊覧船でチュウルイ島に渡り自然の状態のマリモを見ることが出来る。ニジマス、イトウ、イワナ、アメマス、コイなどを対象としたスポーツフィッシングのメッカの一つとしても有名で、冬季には、結氷した湖面に穴を開けてのワカサギ釣り、雄大な自然を眺めながらスキーやスノーボードで一面雪に覆われた白銀の世界を楽しむことができる。夏は、大自然の中を散策したり、登山、スポーツフィッシングやカヌーでアウトドアを満喫できる。



▲遊覧船



▲カヌー

## (2) 阿寒湖畔衰退の理由

### (i) 過去の栄光への依存

阿寒湖畔への観光客数が減少している要因としてまず考えられるのが阿寒湖に対するイメージがマリモだけということである。阿寒湖周辺には手付かずの原生自然が今も残されており日本で唯一、球状のマリモが生息している。マリモ展示観察センターでは特別天然記念物のマリモをじっくり観察でき、施設内には阿寒湖の湖底を再現した大水槽があり、天然のマリモたちを見ることができる。

また、マリモのキャラクターで有名な「まりもっこり」グッズや実際のマリモを販売す

ることで、お土産に購入する観光客もいる。しかし、このマリモ戦略は一時的に観光客を誘致できただけで今の世代（若者層）は阿寒湖＝マリモのイメージが薄れてきている。そのため、マリモ戦略だけでは右肩上がりの集客は得られない。そこで新たなブランド事業を行っていくことが重要だと考えられる。

### (ii) 観光資源 PR の弱さ

上記で述べたように、阿寒湖＝マリモのイメージが強いが、その他の観光資源はどうか。阿寒の資源（ニジマス・イコロ・光の森など）を生かしきれておらず、知名度も高くない。話題に上りやすいご当地グルメもまだ周知不足である。つまり、ブランド化の事業性が薄く、有効な広報宣伝活動が出来ていない。

たとえば、阿寒湖アイヌシアター「イコロ」で上演する舞踊の磨き上げ、アピールの仕方やイベントの情報供給の徹底が重要だと思われる。

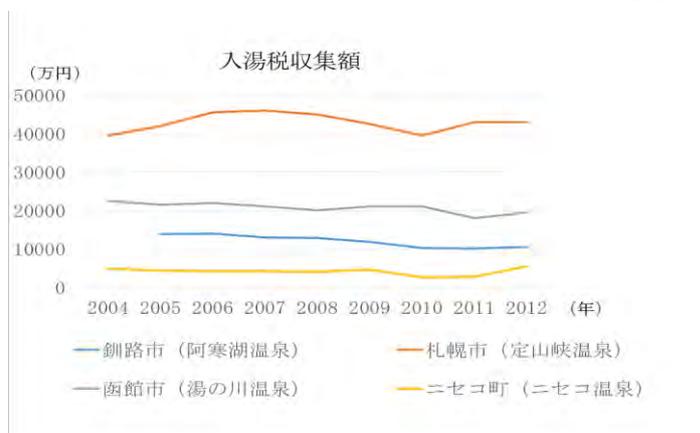
現在、SNS の影響力は莫大で、SNS が影響で有名になった観光地やお店は多々ある。実際に、観光情報を収集する際インターネット利用する人は多く、特に、若い年齢層（個人観光が多い）は youtube や facebook、instagram を参考にするという意見もある。

受け入れ側として伝えたい情報とともに、参加した人の感想や様子をより積極的に発信することや、企業や団体、お店側が一方向的に発信するのではなく、臨場感が伝わるような情報発信を行ってもらうように観光客に促すことが効果的であると考えられる。

その他にアイヌコタンの景観整備、マリモの再生事業と観光の連携、お土産店中心の商店街に釧路市の有名な飲食店を誘致するなど業態を多様化し、商店街の魅力度を高めることも有力ではないだろうか。

### (iii) 道内の他温泉との比較

阿寒湖畔観光衰退の理由を他の道内温泉地域と比較することによって明確にしていく。まず、阿寒湖温泉と 3 つの道内温泉（湯の川、定山渓、ニセコ）の入湯税収額を比較してみる。下のグラフから函館市のみ減少傾向にあることが見て取れる。温泉観光地の入湯税収額が減少しているということは、つまり、観光客が減少しているということである。



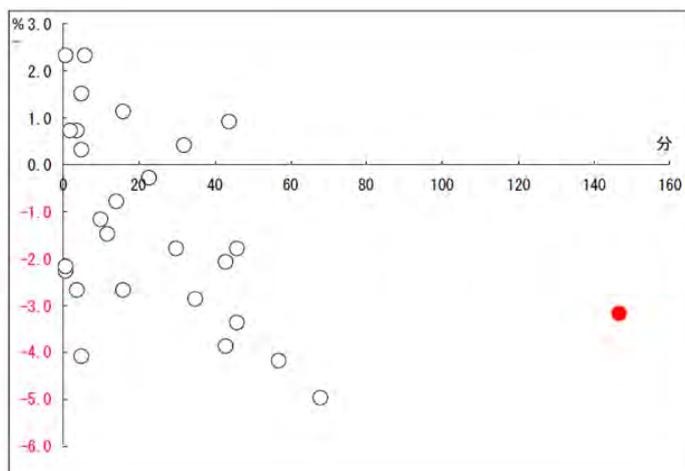
次に、阿寒湖温泉の観光客と湯の川温泉の観光客を比較してみた。

阿寒湖温泉は道内客が少なく、遠方からの観光客の割合が高いことが分かった。訪問回数についてはリピーターが少なく、1度きりの訪問で終わってしまうことが分かった。

	阿寒湖温泉	湯の川温泉
観光客の住居地	札幌市内 2 % 本州90% (うち関東60%)	札幌市内・関東・ 東北、各15%超
訪問回数	初めて47% 4回目以上9%	初めて36% 4回目以上30%

表「阿寒湖温泉と湯の川温泉の観光客比較」

また阿寒湖温泉の交通面について、最寄り駅（釧路駅）から約1時間半と遠い。実際に稼働率の変化率と最寄り駅からの移動時間に相関関係があり、最寄り駅から遠いほど伸び率が低下していることが判明した。



\* 赤丸は阿寒湖温泉を指している

図「稼働率の変化率と最寄り駅からの時間の散布図」

引用元：2010 年度 SCAN 発表論文

「阿寒湖温泉に見る釧路観光産業の考察と展望」釧路公立大学

また、阿寒バスを利用しても片道 2650 円と高額だ。交通便が悪く集客につながらない。また 2002 年の航空運賃自由化・航空機小型化により、団体観光客から個人観光客へのシフトも背景にあり、結果的に観光客が減少したと考えられる。

ここで、成長している温泉地の取り組みを見てみる。

(1)ニセコ温泉（ニセコ町）

- 外国人スタッフによる各国代理店へのPRをしている。
- ブランド力のある新聞、雑誌、テレビなどを積極的に活用している。
- ニセコ湯めぐりパス（1枚1440円、有効期限180日中に加盟施設のうち3か所に行くことが可能）を発行し、地域内流動性を高めている。
- 世界に誇る雪質のスキー場が多数ある。

(2)湯の川温泉（函館市）

- ポスターをインパクトが強いデザイン（「なまらあずましい」（とても心地がよい）という方言と温泉に浸かる猿）に変更した。
- リーフレットに詳細（食べ歩き情報、足湯、市内観光地への行き方や所要時間）を加えて改良した。
- グルメ・美容・健康・体験など多くのジャンルのプログラムで「はこだて湯の川オンパク」開催し、地域の魅力を発信している。
- 函館空港から車で5分、JR函館駅から車で20分とアクセス良好。

(3)定山溪温泉（札幌市）

- 空き店舗への新規出店推進のため補助金を出資し、街並みを大きく変化させ、若者や女性客を確保した。
- かつぱ淵、かつぱライナー号、かつぱ祭りなど、かつぱ伝説によるイメージを定着させた。

以上の事例から、温泉街活性化のポイントは3つ挙げられる。

- ① 交通便の良さ（アクセスの良さ、公共交通機関の運行）
- ② 積極的なPR（マスメディアを利用した印象的なアピール、外国人観光客へのPR）
- ③ 強いイメージの創出（ニセコ＝スキー、湯の川＝オンパク、定山溪＝かつぱ）

阿寒湖温泉もこの3点を改善すれば、衰退から抜け出せる兆しが見えるのではないのだろうか。

(iv)パッケージツアー・ガイドブックの変化

以前は添乗員付のパッケージツアー（団体旅行）が多数存在していたが、現在は交通機関と宿泊地のみが決められたスケルトンツアー（個人旅行）の需要が高く、旅行会社もスケルトンツアーを多く発売している。

また、観光ガイドブックにおいて、阿寒湖畔を含む釧路市が掲載されているページ数は他と比較すると極端に少ないことが分かった。函館市や札幌市はその市だけを集めた1冊のガイドブックも多く発売されているが、釧路市のみを取り扱ったガイドブックは非常に少ない。情報量の過疎、PR力の不足がうかがえる。

上記の2点から、個人旅行でコースを考える際にガイドブック等で情報が得やすく、観光スポットが多く、周遊コースを計画しやすい函館や札幌に観光客が集中してしまうことが考えられる。阿寒湖畔は数時間の観光スポット、もしくは観光の中継宿泊地の役割と化してしまい、連泊客や阿寒湖畔観光が主要目的の客が減少してしまった。

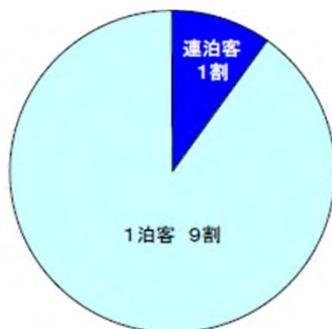
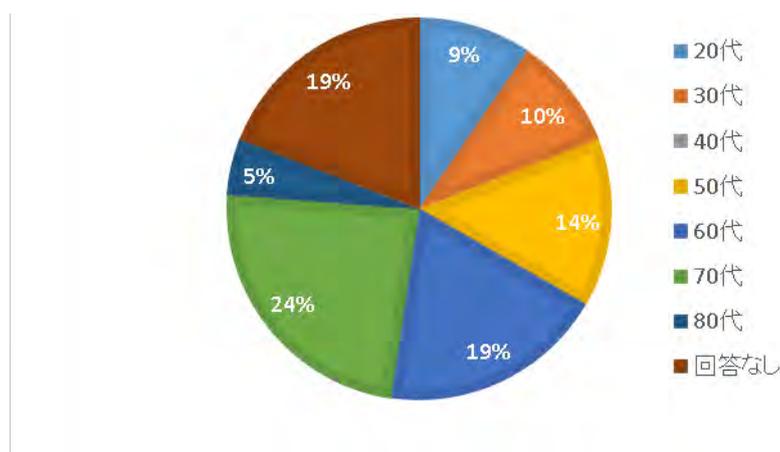


図 「阿寒湖温泉連泊客の割合」

引用元：財団法人日本交通公社「温泉観光地の活性化とツーリズム」

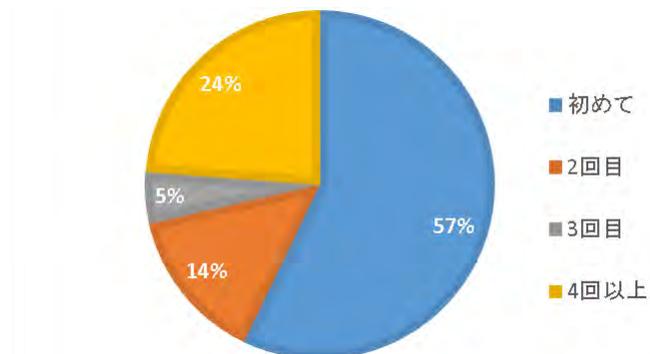
#### 4. アンケート結果

##### (1)年齢



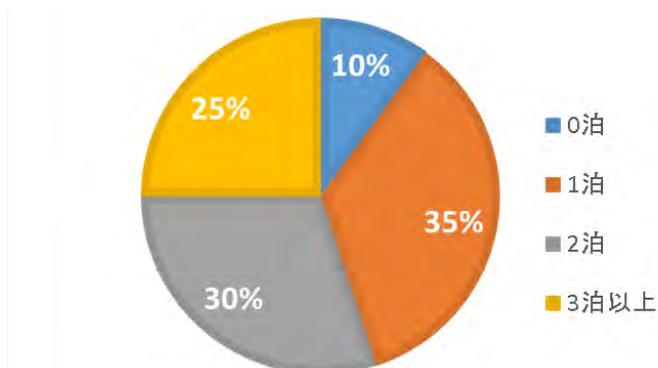
50~70代の年配の方が多い。

## (2)阿寒湖に来た回数



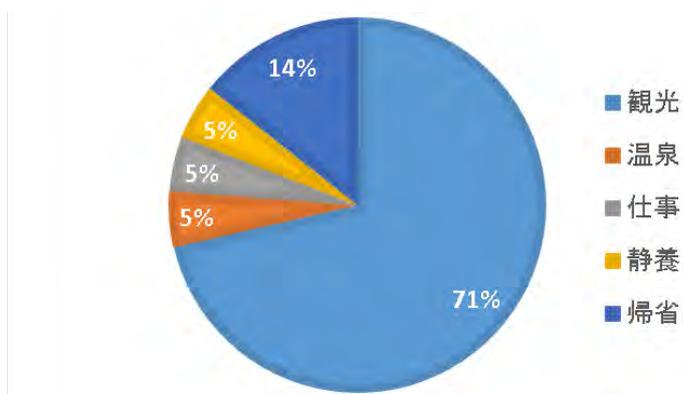
初めての人は全員北海道外からの観光客で、2～4回目の観光客中5割以上が北海道在住者だった。

## (3)宿泊日数



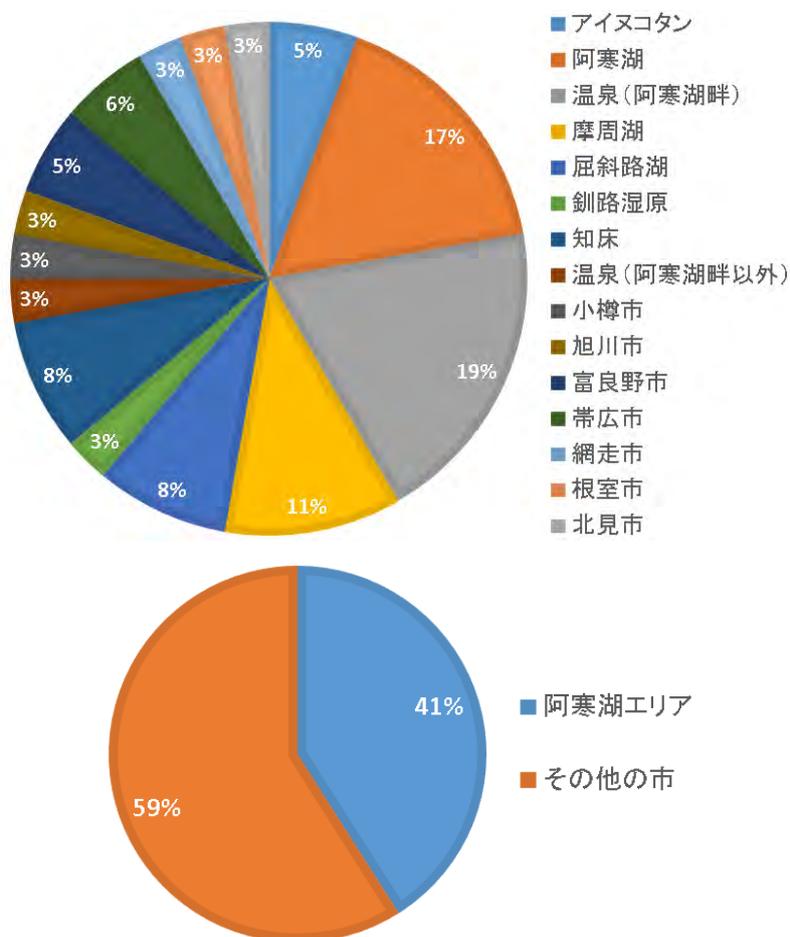
日帰りの割合が1割、1泊・2泊が約3割、3泊以上が約2割だった。

## (4)観光目的



観光目的最も多く、次いで帰省が多い。

(5) 滞在中の行動



滞在中阿寒湖畔で過ごす割合（延べ人数）は41%と半分弱である。5割以上は他の市街へ移動している。

(6) アンケート結果のまとめ

年配の方が多く、道外からの観光客は初めて阿寒湖畔を訪れる人が多かった。リピーターの約5割の人は道内在住者であることが分かった。観光目的の人が多いが、約5割以上が阿寒湖畔以外の観光地へ移動してしまう傾向にあった。次いで帰省目的の人が多かった。

このことから若者の観光客と道外客のリピーター獲得が必要であることが分かった。また、阿寒湖畔での滞在時間を延ばす対策をしなければならぬ。

## 4. 改善法とモデルコースの提案

### (1)改善法

#### ①観光資源の魅力をPRし、通過点としての阿寒湖から滞在型観光の阿寒湖へ

阿寒湖を訪れる多くの人々が阿寒湖を通過点としている原因として、阿寒湖の観光資源の魅力が周知されていないことが挙げられる。実際は阿寒湖だけでも楽しめる観光資源が多くあるにもかかわらず、次の目的地への中途の場所となってしまうのはPR力の弱さにあると考えた。

PR力の弱さ(2. 阿寒湖畔観光の現状のii)で述べたように、マリモ以外の観光資源(ニジマス・イコロ・光の森など)を活かしきれていないのが現状である。しかし、年々阿寒湖=マリモというイメージも薄れてきている。人気観光地に共通する、観光地のブランド化ができていない。

そこで、PR方法として一番効果的なのは、SNSによる魅力の発信ではないかと考えた。近年、若者の間ではTwitterやInstagram、FacebookなどのSNSが情報収集の主な手段として利用されている。きれいな景色の写真や、おいしそうな食べ物の写真を見て、旅行への意欲が高まり、行った人がまた写真をアップすることによりどんどん情報が広まっていく。つまり、阿寒湖などの観光客受け入れ側は、一度情報を発信するだけで、あとはフォロワーが発信してくれる。SNSはいまや重要なPR手段となっている。高齢者へのPRには不向きだが、若年層の観光客増加が期待できる。若者の発信力のすごさを利用していく必要があるだろう。

もう一つのPR方法として、動画でのPRがある。最近、多くの都道府県が地元をアピールするために動画を利用している。中には、驚異的なアクセス数を叩きだしている動画もある。その例として、香川県では副知事役の要潤が「香川県はうどん県に改名します。」と宣言している動画をインターネットで公開したところ、一日17万超えというアクセス数を叩き出した。「うどん県に続け!」と、「おんせん県」として名乗りを上げた大分県は商標権を却下され周囲から批評を食らったものの、「おんせん県って言っちゃいましたけん!」と、失敗をギャグに変えるという芯の強さとやる気を見せ、PRに成功した。このように、それぞれの県でそれぞれの問題を解決すべく、アイデアを出し合い、PRに工夫を凝らしている。

動画でPRするメリットとして、ユーザーが目で見、聞くことにより、県民性や方言などのその県らしさを感じ取り、よりいっそうイメージを持ちやすくなり親近感が沸いてくる。これが動画でPRが成功している理由である。

阿寒湖も、北海道の中で存在感を出していくために、PRにもっと力を入れていくべきである。そのためには、阿寒湖が何を一番売りに出し、どのように活性化させていくか、地元住民が同じ目標意識を持って取り組むことが重要である。過去にマリモで阿寒湖を活性化の資源として利用していたが、いまやそのイメージは消えつつある。新たな観光資源を創出し、新しい阿寒湖を作っていく必要があるのではないかと考えた。

②もう一つの改善策としてはPRすべき観光資源がたくさんあるということである。例えば阿寒湖畔の豊富な自然資源の魅力を伝えるためのガイドツアーやイベントである。いくつかあるうちの2つについて紹介する。

まずは「白銀の阿寒湖 早朝散歩ツアー」。これは早朝に湖上を散歩して朝焼けの雪原やフロストフラワー、ダイヤモンドダストを見に行くツアーである。フロストフラワーとは「冬の華」や「霧の華」とも呼ばれ、水蒸気が冷やされて氷上に凍りつき、花のように見える現象のことで形が綺麗で模様が繊細である。この花が育つ条件は、マイナス15℃前後以下になることと風がほとんど吹かないことで、阿寒湖では冬期間のうち半分がこのような日なのである。さらに、フロストフラワーを見ることができる絶好の季節は12月で通常結氷した氷面でなければ無理で、雪の上には霜の結晶など育たない。したがって、凍った湖面に雪が積もってしまうとなかなか見ることができないため多くの湖では12月など冷え込み始めの頃だけの現象である。しかし阿寒湖はカルデラ湖で元々大きな火口で湖底から温泉や泉が湧き出ているので、凍った阿寒湖にはあちこちに湯壺と言われる穴が開いている。そこかしこにあるその湯壺が朝になると薄い氷が張り12月と同じ状態を作ってくれるのである。だから阿寒湖だけは3月上旬までフロストフラワーを見ることができるのである。

もう一つは「阿寒湖まりも“夏希灯”」。これは7月から8月末まで開催されていて、参加者が遊覧船に乗り、船内でマリモに見立てた光の球に参加者がそれぞれ願いと希望を込めたメッセージを書き入れ、その願いが込められたカプセルを湖に流す。たくさんの願いが込められたカプセルが湖上にゆったり浮かぶ幻想的な光景を船上から眺めながら夜の阿寒湖をクルージングできるイベントである。これらのような貴重な体験ができるプログラムをもっと推していくべきなのではないか。

(2)モデルコース

～冬～

<1日目>

釧路空港着・・・釧路湿原・・・ホテル

<2日目>

6:20 白銀の阿寒湖早朝散歩ツアー（フロストフラワー）

7:30 ホテルに戻って朝食、朝風呂

10:00 アイヌコタン（イコロ、刺繍体験、喫茶ポロンノで昼食、買い物）

14:00 遊覧船、モーターボート

16:00 ホテルに戻り、休憩、夕食

19:30 氷上フェスティバル（※1）

<3日目>

9:30 ワカサギ釣り

11:30 足湯カフェで昼食

13:00 光の森ウォーキングツアーwinter（※2）

15:30 阿寒湖畔エコミュージアムセンター

<4日目>

網走監獄博物館・・・女満別空港発

～夏～

<1日目>

釧路空港着・・・釧路湿原・・・ホテル

<2日目>

9:00 雌阿寒岳登山

17:00 ホテルに戻り休憩、夕食

19:50 夏希灯

<3日目>

9:30 光の森ウォーキング (※2)

12:00 アイヌコタン (イコロ、刺繍体験、喫茶ポロンノで昼食、買い物)

14:30 遊覧船

15:30 阿寒湖畔エコミュージアムセンター

17:00 ホテルに戻り休憩、夕食

20:00 スターウォッチング (※3)

<4日目>

網走監獄博物館・・・女満別空港発

※1…氷上フェスティバル：湖上を覆い尽くす厚い氷を舞台に真冬の厳しい寒さを逆手にとって寒さを楽しむスタッフ手作りのイベントである。氷切体験やミニゲーム、アイヌ男性による火の儀式をメインステージで行うミニセレモニー、そして最後は阿寒の澄みきった夜空に打ち上げられる冬華美が組み込まれている。

※2…光の森ウォーキング：光の森とは、阿寒の森を守る一般財団法人前田一步園財団の私有地にある森の名称である。原始の森の復元を目指して樹齢 800 年と言われている桂の巨木や、泥火山のボッケなど、見所豊富な散策コースになっている。また、冬に訪れると森に差し込む光が美しく、降り積もった雪のキラリと輝く幻想的な雰囲気を見ることができる。

※3…阿寒スターウォッチング：阿寒湖畔からオンネトー、双湖台で星空や流れ星を見ることができ、静かな夜の湖畔で感動体験を味わえるナイトツアーである。澄み切った空気の中で星がはっきりとよく見え、人工衛星が見えるときもある。

このツアーは、阿寒湖の自然を最大限に生かしたツアーであり、実際に見て触れることで現在の日常生活では体験することができない自然学習を楽しみながらすることができる。阿寒湖は季節問わず自然体験が可能であり、1度きりではなく再訪を促すために夏と冬のツアーを提案した。さらに、フロストフラワーや夏希灯、スターウォッチングなど、SNS に投稿したくなるような観光資源を盛り込んだ。また、現在の観光の主流である周遊型観光ではなく滞在型観光にすることで、今までは知られていなかった阿寒湖の魅力を引き出し、新たな発見を見出せる。

1 か所に長期滞在するメリットとして、地元住民との触れ合い、移動時間・経費削減、天候などによる柔軟なスケジュール調整などが挙げられる。このモデルコースにより阿寒湖の観光課題であった、通過点としての利用や既存の観光資源の未活用問題の解決につながる。

## 5. まとめ

北海道全体での観光客数は増加傾向なのに対し、阿寒湖畔の観光客は過去 30 年で半減しているという事実を知り、その理由を追求すべく、事前の情報収集から現地調査、改善策の作成を行ってきた。阿寒湖畔観光衰退は、PR 力の弱さと周遊型短期滞在観光の主流化という 2 つの要因があるのではないかと考えた。

また、① 阿寒湖畔＝マリモというイメージは希薄化し、阿寒湖畔はマリモという過去の栄光に依存している、② PR 力が弱く、現代の重要な情報源であるインターネットや SNS を活用できていない、③ 北海道内のほかの温泉街と比較して、阿寒湖温泉ならではの魅力を創出できていない、④ 多くの観光地を一度の旅行でめぐる周遊型観光が旅行形態の主流となっている、という 4 点の現状且つ問題点が挙げられた。

そこで、現地に行きアンケートをとった結果、阿寒湖畔は他の観光地に行くための通過点としている観光客が多く、滞在時間も比較的短いこと、阿寒湖にある観光資源が一番の目的で来ている人が少なく、多くの人は周辺の観光地や、ホテルでの食事や温泉、休養が目的で来ているということ、道内に住む人は温泉などを目的にまた来たいという人が多かったが、初めて訪れた人は阿寒湖の魅力を感じきれず、一回でいいという人もいた。

この結果から、やはり阿寒湖畔は観光資源があるにもかかわらず、その魅力を伝えられていないことがわかった。また、阿寒湖だけに連泊する観光客は少なく、阿寒湖畔観光は旅のおまけのようになってしまっていることがわかった。

これらの調査を踏まえ、改善法とモデルコースを考えた。

改善法として、SNS や動画を使い、ユーザーに見て、聞いて阿寒湖の魅力を知ってもらうことと、話題性の向上を図ること、また、新たな観光資源で阿寒湖のイメージを新しいものに変え、新しい阿寒湖畔観光の形を創出していくことが必要だと考えた。

そして、阿寒湖畔が季節にかかわらず一年を通して観光客が訪れる場になるように冬と夏のプランを作成した。さらに、周遊型短期滞在観光から中・長期滞在にシフトするため、3泊4日のゆったりしたプランを意識した。これらのモデルコースから、他の観光地をめぐらなくても十分に楽しめるほどの観光資源があることが見て取れるだろう。

阿寒湖畔のように、魅力的な観光資源が多数あるのにその魅力が知られていないということは、やはり受け入れ側に課題があると感じた。観光はいまや大きなビジネスであり、地域を支えていく重要な収入源である。また、観光は時代の流れとともに変化し、政治経済や自然災害にも大きく左右されやすい。それらの変化に合わせていくという柔軟な対応が、観光地として長く続けていくためのポイントではないだろうか。地元住民のやる気、豊かな観光資源、それを伝えるための SNS などの伝達手段の活用、この 3 つがそろふことにより、観光客減少に歯止めをかけることが出来るのではないだろうか。

## ○阿寒湖畔におけるサイクリングツアー企画

### 1. 調査目的

本調査は阿寒湖畔地域の観光客数がピーク時に比べ半減している点、阿寒湖畔地域の観光において主要項目にあたる「まりも」の需要が減少している点から、観光振興の施策、特に「イベント企画」を中心に学生という観点から行ったものである。

テーマ選定のきっかけとなったものが二つあり、一つ目は近年の観光形態が大量輸送・大量消費型の観光から、グリーンツーリズムやエコツーリズム、都市散策と言った「オルタナティブ・ツーリズム」にシフトしている（近年の観光行動 PDF 資料 観光庁）という点である。二つ目は男性だけではなく、若い女性からも多大な支持を得ている少年漫画「弱虫ペダル」の舞台が高校自転車競技であることから、「サイクリング」が近年注目を浴びていることを耳にし、テーマ決定に至った。都会では交通機関が充実していることや混雑状況が原因で、サイクリングに興味があってもなかなか踏み出すことの出来ないものであることを 20 代前半の女性に向けた簡単なアンケートで発見した。このことから 20 代女性をターゲットにした「阿寒湖畔地域でのサイクリング観光、イベントを企画」をテーマに掲げ、それに伴う調査、考察を行った。

阿寒湖畔地域で実際にサイクリングツアーを行うと仮定して、モデルコースを作成することを最終目的に企画を行った。現地での調査を円滑に進めるために、事前に細かい情報収集をしたものが以下の 3 点である。

- ・サイクリングに関するアンケート
- ・阿寒湖畔について現状把握
- ・レンタサイクルの利用実態

サイクリングに関するアンケートは、対象は今回のターゲットである 20 代女性 約 30 名に行ったものである。内容は、自転車に乗る頻度、サイクリングに興味はあるか、距離はどのぐらいのものが適しているか、自転車の種類の希望というもので、自転車に乗る頻度は全員共通して低く、そもそも自転車を持っていないという人もいた。その理由としては繰り返しにはなるが上記で挙げたように交通機関の充実等が挙げられる。9 割以上がサイクリングに興味があると答え、機会があればサイクリングをしてみたいという意見は全員にみられた。希望距離はあまり長すぎるものは好まれず、1 時間程度で景色を楽しみながらしたいとあり、初心者でも簡単に乗ることができるものの希望が多数であった。

阿寒湖畔の現状については、インターネット上で概要等を収集した。阿寒湖畔概要は上記にあるので割愛する。またモデルコースを作成するにあたって阿寒湖周辺地域の道路状況を確認することが必要であったため、Google マップを活用し作業を行った。森林地帯で

あるためにマップ上で確認できなかった地域が多くあったため、事前段階でのモデルコースを作成が仮のものになってしまった。このような点をまとめ、現地調査に向けての課題を整理した。

阿寒湖畔でのレンタサイクルの現状を把握するために情報収集を行ったが、阿寒湖畔にはレンタサイクル専用のホームページがなかったため情報収集が行えなかった。この点も上記と同じく現地での調査に追加した。

以下が事前調査で策定したサイクリングモデルコースである。  
阿寒観光協会をスタートとし目的地は白藤の滝である。所要時間は片道徒歩で 2 時間半ほどであるので自転車での走行で約 1 時間だと仮定した。事前でのアンケート結果を配慮すると、往復約二時間は少し長時間であること、休憩所や化粧室、路面状況の確認などが現地で確認しなければならないものとして挙げられた。



## 2. 現地調査

これら事前準備を基に実際にモデルコースの走行が可能であることを確認するために以下の現地調査を行った。

現地調査は、阿寒観光協会で貸出がされているレンタサイクルの利用実態の聞き取り、阿寒湖に来訪している観光客へのニーズ調査、さらに調査前に策定したモデルコースを実際に走行する方法で調査を進めた。調査概要は次のとおりである。

### 【聞き取り調査】

- 調査対象 阿寒観光協会  
阿寒湖に来訪している観光客
- 調査目的 阿寒湖畔でのレンタサイクルの利用実態について知る  
年代やニーズについての情報を得るため

### 【実施調査】

- 調査目的 事前に策定したモデルコースが実施可能かを判断するため
- 調査方法 阿寒観光協会で行われているレンタサイクルにて事前に策定したモデルコースを走行する

### 【聞き取り調査結果】

#### 阿寒観光協会

- ・期間が限定されている（6月-11月）雪で路面が凍結するため
- ・ママチャリのみしかない（子供用、電動自転車は以前あったが需要が見られず撤去）
- ・1年で利用者は70台
- ・多くの観光客の行動目的は湖畔、温泉街利用中心
- ・自家用車、レンタカーをホテルに預けた人の移動手段がメイン
- ・まれにスキー場の展望台に向かう人もいる

## 観光客

- ・年代は中・高齢者が割であったため、若者は阿寒湖周辺地域にあまり訪れないことがわかる。
- ・20代のカップルが1組いたが、また来たいと思うかという質問に対して思わないという回答がみられた。理由としてはみるものが何もないというものであった。阿寒湖周辺で目立った建物などを即座に挙げる事が出来ないという点から納得がいく部分ではある。

合わせて以下の事項も判明した。

- ・観光客の大半がレンタカーを使用

観光客へのアンケート時にも気づいた点ではあったが、阿寒湖を目的に訪れる人は非常に少なく、ほかに目的地がありその場所に行くために通過点であることが割合を占めていた。釧路市内など大きな都市でレンタカーを借りてから目的地に向かうという傾向がみられた。

- ・一部バスツアーで訪れるが滞在期間が短い

- ・まりも家族バス（定期観光バス）の運行

→無料で阿寒湖周辺地域を運行しているバスのことであり、細かい停留所があることや朝から遅くまで運行しているので非常に便利な交通手段である。このバスが運行しているなか自転車で回る必要性があまり見出せない

### 【実施調査結果】

- ・事前調査では確認できなかった路面状況は、舗装されていない道もあり、転倒してしまう危険性が考えられる区域もあった。
- ・全体的に1キロ近く続くストレートの道が多いため、実際より距離を遠く感じる感覚に陥る。
- ・ストレートな道路のため、急勾配ではないが、自転車の種類によっては苦しくなる。現在阿寒観光協会ではママチャリと呼ばれる通常の自転車のみの貸出であったため、実際にモデルコースを走行した結果、20代前半の男性でも体力的に厳しいものであることが判明した。
- ・実施日の時期に台風が大量発生していたためモデルコース付近にも、倒木などがあり、通行止めされているなど、安全面を確保できるものではなかったため、実際のモデルコースを全距離走行することが不可能になってしまった。

- ・道路両側が森であるが、柵などが設置されておらず、熊などに遭遇する危険性も挙げられる。
- ・アンケート時に重要視するポイントとして挙げられた休憩所・化粧室の有無だがそのように利用できそうな場所が見当たらなかったため設置は不可能である確率のほうが高い。

#### 【現地調査を終えて】

聞き取り調査、実施調査を終え、阿寒湖畔に来訪する観光客が中・高年齢であることやモデルコースの実際に走行した結果、20代男性でも体力的に厳しいことなどからイベント企画時に定めた20代前半の女性をターゲットにすることが適当ではないという結論に至った。道路や柵が整備されていないことやレンタサイクルの利用率の低さなどからモデルコースとしての利用の難しさを痛感した。また、災害が影響されやすい地域であるために台風時の倒木など利用者の安全面の確保が困難である。繰り返しになるがアンケート時に重要視されたポイントの休憩所・化粧室を設立することが限りなく不可能であることから利用者のニーズにこたえられないためより良いツアーを作成することが不可能である。以上の点を踏まえ、今回の阿寒湖でのサイクリングツアーを実施するというのは現時点では難しい。

### 3. 成功事例の分析

現在、日本のサイクリングツアーの成功事例の代表がしまなみ海道である。ここでは成功事例として挙げられるしまなみ海道を参考に、阿寒湖地域のサイクリングツアー実施を可能にするためのポイントを分析する。

しまなみ街道は広島県尾道市から愛媛県今治市までの、瀬戸内の島々を6本の橋で結ぶ全長70キロの自動車道である。自転車専用レーンが併設されており、地元住民だけでなく遠方からの自転車旅行者が目立ち、別名「サイクリングの聖地」として今、多くの注目を浴びている。瀬戸内の島々や海を眺め、向かいから爽やかな潮風を浴びながら自転車で海の上を疾走出来る事が大きな特徴である。ここを踏まえ、しまなみ海道が成功した要因を大きく三つに分けて考察した。

①まず一つ目は「旅」の中から「起点・道中・終着」それぞれで考察を行った。

まず初めの起点だが、沿線の自治体ではレンタサイクルを運営している。電動アシスト自転車、タンデム自転車(2人乗り用自転車)などがあり、初心者上級者、一人旅・家族旅など幅広いターゲットに対応している。台数も500台と他の地域に比べても多く、長期休暇にはすべての自転車が貸し出しされる程である。

続いて道中では、自転車の休息所「しまなみさいくるオアシス」が挙げられる。農家や民宿、ガソリンスタンドなどで休憩所を提供しており、空気入れや自転車スタンド、化粧室、給水などのサービスを受ける事が可能である。中には陶芸体験や石窯ピザ体験などができる場所もあり、地元との密着と経済効果が期待できる物となっている。最後に終着だが、各地区にある15ヶ所のレンタサイクルターミナル、今治市内の一部のホテル・旅館等で乗り捨てが可能である事も大きな特徴である。これは地元自治体だけでなく企業、地元住民の理解と協力が不可欠であるため、行政が先頭に立ち、周辺を巻き込み可能にした事だといえる。

②二つ目に「トラブル・イベント・ツアー」に分けて考察した。

最初にトラブルだが、しまなみ海道独自の取り組みとして、「しまなみ島走レスキュー」と「しまなみサイクルセーバー」が存在する。大きな橋の上でパンクや故障、体調不良などトラブルがあると旅行者には不安が発生する。これらに対して、旅行者の元に駆けつけ、いざとなれば自転車ごと運び、あるいは修理してサイクリングを再開できるシステムがすでに整備されている。

さらに近年では、バスなどとサイクリングのmixツアーも様々企画されている。おそらく、一人では少し心配だという不安を抱える女性をターゲットにしており、何といたっても交通手段の確保ができていう点で安心、そして時間の節約ができる事が大きい要素で、しまなみ海道を気軽に訪れるきっかけ作りになっている。

しまなみ海道には様々なイベントが企画されている。瀬戸内しまなみ海道サイクリング今治大会は、サイクリングの聖地・瀬戸内しまなみ海道で開催されるサイクリングイベント、『グランツールせとうち』は、橋の自転車道や島内一般道路を走行するものである。基本的にはスピードを競うのではなく景観を楽しみながら走ることが可能なため、客層は女性やファミリー参加が多く、エリアも、大三島 伯方島 大島 今治市街地 生名島 弓削島 岩城島などしまなみ海道周辺の島々、都市となっている。初心者からでも参加できるイベントのため、ツアーの中にオプションとして含まれたりする事もある。

③三つ目は整備されたホームページである。インターネットやスマートフォンの使用に慣れていない年配の方でもわかりやすく、見やすく作成されている。危険ポイントやサイクリングに必要なもの、イベント情報など興味をそそられる内容が充実しているためホームページをきっかけにしまなみ海道でサイクリングをしようと試みる人が多く見受けられる。

以上のしまなみ海道の事例より阿寒湖でのサイクリングツアー確立のためには、地元住民の協力と理解、道路・周辺施設の整備、老若男女どの世代でも活用ができる見やすいホームページの作成が必要である。資金面などを配慮したうえで、実現が可能であるものとして地元住民の協力、理解とホームページ作成の二点が挙げられる。旅行者が情報を得るための環境作りをする必要があり、阿寒湖では特定のサイクリングホームページや観光情報についてのものがあまりないため情報収集の方法が限られてしまう。しまなみ海道のように観光客に向けたわかりやすい情報サイトを作成することが成功への近道だと考える。

## 4. まとめ

今回の企画を進めていくにあたり、事前調査であまり予想していなかった部分などを現地調査で発見するということが多くあった。舗装されていない地域の危険性や自然災害の影響での倒木、落石など、実際に自分たちの目で確かめなければ発見することが出来なかった。ターゲットを20代前半女性に定めたが、道路、周辺施設状況、阿寒湖に來訪する観光客の年齢層が高いことなどからこの世代を対象にすることは難しいという結論に至った。同時にレンタサイクルの利用率が低いこと、阿寒湖を目的に訪れる観光客が少ないことや、あまり家族バスの運行から自転車を利用するという概念がうすいことが分かる。このような状況のなかで阿寒湖周辺地域のサイクリングモデルコースを作成しても利用される機会がないため成功するとは考えにくい。

この阿寒湖の現状を改善するためにサイクリングツアーの成功事例であるしまなみ海道の軸となる特徴を捉え、分析を行った。しまなみ海道にならい、資金面などを考慮したうえで阿寒湖でもすぐに実行をできるものとして、地元住民の協力と理解を得ること、分かりやすいホームページを作成することが挙げられる。阿寒湖のおすすめポイントや地元の人だからこそ知っている場所などをホームページに載せるだけで注目も集まり、阿寒湖自体の認知度も上がるのではないかと考える。以前は、観光協会も子供用や電動自転車の貸出しを行っていたので阿寒湖自体に訪れる人数が増加すれば、経済も活性化し道路舗装や必要施設の整備なども行えるはずである。

簡単なことではないことは承知のうえであるが、阿寒湖地域では新鮮な食材や美しい自然の景観を堪能することができる素晴らしい地域なので一つ一つの小さな努力を積み重ねていけば観光地として評価される場所になるのではないだろうか。

## ○アイヌ文化に関する調査報告

### 1. 調査目的及び調査方法

#### (1)調査目的及びテーマの限定

本調査は、阿寒湖畔温泉の観光客数が年々減少傾向にあることから、阿寒湖畔温泉の観光振興の方策を学生の観点から行ったものである。

テーマを決定するにあたって、まず自分たちが注目したのは「アイヌ文化」である。阿寒湖畔温泉の観光資源を考えたときに、真っ先に思い浮かぶのはマリモだと思ふ。しかし、マリモが今も阿寒湖畔温泉の観光振興に繋がっているのか疑問に思い、過去の資料を調べてみた。調べてみた結果、マリモが直接観光目的に結びついていないことがわかった。そこで、マリモに代わる新しい観光資源になるのは、アイヌ文化ではないかと考え、実際にアイヌ文化で観光振興を図るためにどうしたらいいか調査すべく、「阿寒湖畔温泉のアイヌ文化」に関する調査を行うことにした。

調査を行う前に、自分たちで決めたテーマをどんな方法で調査していくか議論し、今回はアンケートによる調査は行わず、資料調査と語り部による聞き取り調査から阿寒湖畔温泉の観光施策を提案するという方法をとった。観光施策の1つとして、阿寒湖のホテルやツアー内で語りをする際に使用するアイヌに関するシナリオ作成を行うことにした。

シナリオ作成を行う理由として、ただ衣食住の文化体験をするだけでなく、その民族の考え方も理解することが大切だと考えたからである。また、現地で聞き取り調査を行う前に、自分たちでアイヌ民族・アイヌ文化に関する本を読み、シナリオ内容に必要な話題を調べた。

#### (2)調査方法

調査は次のように二つの方法で行った。1つ目は、アイヌ文化と他民族の文化の資料調査。2つ目は、阿寒湖畔に住んでいる語り部による聞き取り調査である。

##### ① アイヌ文化と他民族文化の資料調査

アイヌ文化で観光振興を成功させるために、まず独自の文化で観光振興を図れている他民族の類似例を調べる必要があると考えた。この調査を行った理由として、独自の文化で成功例があれば、実際にアイヌ文化で観光振興をするときに具体的な施策を提案することが出来るのではないかと考えたからである。

##### ② 語り部による聞き取り調査

現地に住んでいるアイヌ民族の語り部（デボさん）の話を聞き、重要だと思ったアイヌの考え方をいれ、実際にシナリオ作成を行った。

## 2. 阿寒湖温泉のアイヌコタンとは

北海道の東、阿寒国立公園内のマリモで有名な阿寒湖のほとり、阿寒湖畔温泉街に民芸品と踊りの阿寒湖アイヌコタンがある。

まず、コタンとはアイヌの集落のことを言う。現在の阿寒湖アイヌコタンは、暮らしやすい経済事情などにより色々な地方から人々は集まって形成されている。

アイヌコタンでは、「阿寒湖アイヌシアター イコロ」にて、アイヌ古式舞踊をはじめとする舞踊や人形劇・イオマンテの火まつりを上演するとともに、アイヌ生活記念館などがあり、昔からのアイヌの生活や文化を学ぶことが出来る。アイヌコタンには民芸品おみやげ店が数十店、北の味を楽しめる飲食店やアイヌ料理のお店、喫茶店などもありアイヌ文化を体験する。

### (1)アイヌ民族の概要

アイヌは、北海道・樺太・千島列島およびロシア・カムチャツカ半島南部にまたがる地域の先住民であり狩猟民族だった。祖先は、この地をアイヌモシリ（人間の静かなる大地）と呼び、自然界をカムイ（神々）として謙虚に祈り、自然の恵みに感謝をし、「カムイありて我あり、我ありてカムイあり」との互助精神で、自然を改造・破壊・汚染することなく生活してきた民族である。

### (2)アイヌの歴史

明治 2 年（1869 年）、蝦夷地は北海道と改称され、同時に開拓が本格的に開始される。北海道開拓・同化政策により狩猟・採集・漁撈生活から 180 度の生活転換を余儀なくされ、苦難の道を歩む。アイヌの最大組織が、昭和 59 年（1984 年）以来、日本政府に対し先住民族の権利保障を基盤とした「アイヌ民族に関する法律」の制定を要求してきたが、平成 9 年（1997 年）5 月「アイヌ文化の振興並びにアイヌ伝統等に関する法律」として成立した。しかし現在においても、アイヌ居留地などは存在せず、「全道各地」に多数が居住するほか、白老や阿寒湖温泉では観光名所としてアイヌコタンが存在する。少なからずまだ差別問題が残っている。

### 3. 調査結果

#### (1)他民族における民族観光の類似例

私たちは、アイヌ文化体験で阿寒湖畔温泉の観光振興を図るために、どのような施策が必要なのか、また何をしたら文化体験になるかを独自の文化で観光振興が出来ている他民族の類似例があるか調べた。

①アボリジニ（オーストラリア）：現地の先住民のガイドでアボリジニが生活していた遺跡や自然公園などの聖地をまわって、アボリジニが描いた岩絵を見学したり、語りを聞いたり、自然体験を織り交ぜたツアーなどがある。また、アボリジニのパフォーマンスや文化を体験できるカルチャーパークがあり民族観光が発展している。

②バリ民族（インドネシア）：バリ・ヒンズー教の宗教観が織りなすバリ島独自の文化。バリ島にはケチャダンスやバロダンス、レゴンダンスなどのさまざまな種類のダンスがあり、それぞれのダンスにはインドの叙述詩やバリ王朝史のストーリーがある。オプションツアーを利用するか、各自で申し込むことでバリの舞踊やガムラン音楽、食事などの文化体験ができる。

③イヌイット（カナダ）：氷雪地帯に住む先住民族の一つ。イヌイットのコミュニティを訪れ、先住民がガイドしてくれるツアーや、イヌイットの工芸品や生活用具などの展示物を見ることができるイヌイット博物館などにより、文化を学ぶことができる。

④ネイティブアメリカン：ネイティブアメリカンの壁画を求めて車でごつごつした岩肌を走り、その後キャニオンを見下ろすことのできる絶景スポットに案内してくれるツアーなど、民族文化と壮大な絶景、自然を織り交ぜたツアーがある。また、ネイティブアメリカンの儀式や踊りを見ることができる文化センターや、毎年行われる世界最大のネイティブアメリカンの集会がある。ネイティブアメリカンの中にもさまざまな部族があり、それらが集まることで迫力のあるイベントを作り出すことができる。

4つの類似例を調べた結果、文化体験とは、ただ舞踊を見たり民族料理を食べたりすることではなく、現地の人の語りを聞きその民族の歴史や思想、生活を知ること、より文化を理解することができ文化体験といえるのではないかと感じた。そこで、阿寒湖のアイヌ観光においても語りに着目して調査していこうと考えた。

## (2)アイヌに関するシナリオづくり

文化を理解するためには、歴史や思想を知る必要がある。そこで現地のアイヌ民族の語り部に話を参考に、阿寒湖のホテルや文化施設で語りをする際のシナリオを作成しようと考えた。

### I. イオマンテの火まつり

これはアイヌ文化の有名なお話である。イオマンテとは、アイヌモシリ（人間世界）に訪れたクマ（クマ神の霊）を数年大切に育てた後、そのクマを殺し、元いたカムイモシリ（神々の世界）へ送り返す大切な儀礼の1つ。神を楽しませるために歌や踊りの饗宴が行われる。村に来てくれたクマ（クマ神の霊）のおかげで、自分たちはご飯を食べることができ、毛皮も得ることが出来る。その感謝の宴をするのが、このイオマンテの火まつりである。

### II. 語り部の話

アイヌ民族の語り部による聞き取り調査は、本やインターネットでは調べられない今現在の生活の仕方やアイヌの考え方を聞くことが出来た。

#### ① 語り部の話から重要だと感じた生き方

- ・自分を持つこと、自分とは何かを言える人間になること
- ・自分はアイヌ民族だと自覚して生きる
- ・伝統や歴史を学び、自分の生活に役立てていくこと
- ・自分たちでコントロール出来ないものは作らず、自然と共生していくこと
- ・一般人と同じ生活を送るが、考え方には自分の文化が入っている
- ・自分の文化に自信を持って堂々とすれば、受け入れてくれる人はいる

#### ② アイヌ文化（神の在り方）

- ・アイヌの神は絶対神ではないこと
- ・良いことと悪いことをする神様がいて、悪い神様には説教の儀式を行う
- ・悪いことしたクマ（人を襲う）は感謝もせず、罰せられる。（イオマンテの話）

聞き取り調査で語り部から聞いた結果、アイヌ民族は、先人の知恵や自分たちの文化の歴史を学びながら、自然を大切に生活している、自分とは何かを言える芯のある人だと感じた。印象に残った言葉は、「これから自分が何者か言えるように生きろ」という言葉だった。アイヌ民族の思想は、自分たちの生活においてタメになるものだと感じた。

### Ⅲ. アイヌシナリオ

#### アイヌシナリオ①

イランカラッター。こんにちは。〇〇です。イランカラッターというのはアイヌ語で「あなたの心に触れさせてください」という意味です。今日は、アイヌの文化や考え方について簡単にお話したいと思います。みなさんも知っていると思いますが、阿寒湖畔にはアイヌコタンという場所がありますね。あれは、元祖のアイヌの村とは違って、かつて差別によりアイヌ民族がああ場所に追いやられて木彫りなどで生計を立てようと生まれ、観光地となった場所です。500年ほど前、明治時代、この土地に日本人が入ってきて日本となりアイヌは日本人ではない、民族として認識されるようになりました。

日本人が日本人の文化を持つようにアイヌにはアイヌの文化や考え方があります。アイヌは自然を大切にしています。大地は神様が作ったもので、アイヌにとっては川も木も風も生き物です。神様が置いていったくわが木になったと考えたり、川が氾濫したら川が暴れていると言ったり、よく自然をみていました。鹿や鮭は神様が送り出したもの、森にいる様々な動物はアイヌに食料を与えてくれ、山や川、海は暮らしに欠かせない存在です。食料を採りに行くときは、根こそぎとらずに必要な時に必要な分だけとってちゃんと後に採る人や動物の分を残しておくのです。そうする事で、人間がわざわざ手を加えずとも食料を採ることが出来るのです。余計なことはせずに自然と共生していくことがアイヌの生活なのです。こうして上手く生活をしていけば成立するのに、日本人は根こそぎ採って食料が無くなって人工的に作らなくては生活できないような世界を作ってしまったのです。技術はどんどん進歩して生活は便利になって、娯楽も増えて快適な時代ですが、問題も生まれます。自分たちのことだけ考えてはだめ。自分たちでコントロールできないものは作るべきではないし、人間は遠慮すべきです。アイヌはそう考えています。

また、アイヌ民族にはいくつもの儀式があります。今からお話するのは「イオマンテの火まつり」というものです。クマは神の世界のヒトがクマの衣をまとして人間界に遊びにきたと考え、クマの毛や皮を使った時には儀式を行い、神の世界へ送りだしていました。しかし、神であっても人間を殺した悪いクマはその毛や皮を利用することも儀式をすることもなく罰します。神は絶対神ではなく、良いことをすれば悪いこともする、悪いことをすれば罰せられる神なのです。

時代が変わってアイヌの生活は無くなってきましたが、昔の生活が無くなったからといって民族が無くなるわけではないと思います。民族も時代によって変わるものです。普通の格好をして生活していても自分にとって無くてはならない考え方がアイヌであり、根本は変わらない。みなさんの根本にあるものは何ですか？

私たちがアイヌの考え方をもち、誇りを持って堂々としていればどこに行っても受け入れられるものです。昔の生活から学び、今の時代に活かしていくことが文化を継承していくことかもしれません。

## アイヌシナリオ②

アイヌの人間は、北海道にいたると思われがちですが、実は日本中に住んでいると言われていています。過去に差別の対象にされていたことや、差別がなくなってきたとはいえ、姿を明かした場合どうなるかわからない現状から、その素性を隠して生活している人も多いため、正確なアイヌ民族の人数や居住地はわかっていません。

アイヌ文化では、この世のほとんどが神様であると考えられています。

例えば、吹いている風も、生活に欠かせない火も神様です。アイヌがよく食べている鮭でさえ、神様が放流してくれていると考えています。ただし、アイヌの神様は絶対神ではありません。例えば、火の神は時おり間違いを犯して火事を起こし、私たちから家や家族・仲間、財産などを大切なものを奪っていきます。そういった出来事に対して、アイヌは神に対して儀式を行い、抗議の意志や怒りをぶつけ、また共に生活を送るようになります。

このような考え方は、普通の日本人には理解することは難しいでしょう。日本には幸か不幸か、これといった宗教がありません。そのため、海外の国々の人と比べると「あなたは何者なのか」「あなたの考え方って？」という問いに答えられない人が多いはずです。

私たちアイヌは、昔と同じようにクマを狩り、鮭をとり、民族衣装に身を包み、儀式を行うといった生活をしているわけではありません。洋服を着て、スーパーで買い物をし、キッチンで料理、夜はベッドで寝る。皆さんと変わりありませんが、考え方や生き方にはアイヌの文化があり、アイヌとしての誇りがあり、それは揺るぎません。私たちはアイヌ文化に誇りを持ちながら同じような生活を送っているのです。

世界中の人々は、皆がみんな同じではありません。宗教や文化、考え方は人それぞれです。その中で、自分がどういう人間でどんな考え方なのか、何者かを答えられることが、違う世界で生きている人々が理解しあう重要な鍵になるはずです。自分の考え方を自覚し、自分を持って生きていくことが大切なのではないのでしょうか。

私たちは2つのシナリオを考えた。

シナリオ①では、主にアイヌ民族の挨拶や文化、アイヌ民族の暮らしを語りのメインとしている。アイヌ民族の自然に対する考え方や生活の仕方は現在の私たちの暮らしを考え直すきっかけになるのではないかと考えられる。

シナリオ②では、主にアイヌ民族の生き方を語りに行っている。アイヌ文化という独自の文化を持ちながら、他の民族と同じように生きている。自分というものを大切にしているアイヌ民族の考え方は、これからの私たちにも必要な考え方だと感じた。

## 4. 推進する施策

調査結果から自分たちは、アイヌ文化で阿寒湖畔温泉の観光振興を図るために、実際にどのようなことをすべきなのか議論し、5つの施策を考えた。

### ①アイヌ文化体験施設の充実

アイヌの生活を体験できる施設を設ける。アイヌの民族衣装を着て、舞踊へ参加、食事をして、アイヌ文化体験をしてもらう。施設内には博物館やアイヌのイベントなど実施する。

### ②ガイドツアー／ネイチャーツアー

ガイドツアーは、①の施設内で行うツアーの内容である。文化体験には衣食住の他にその民族の歴史や思想を理解することも含まれると考え、語り部によるアイヌ文化のガイドをする。また、阿寒湖畔は山や湖、森など自然豊かな場所であり、アイヌ民族がネイチャーツアーのガイドをしたらアイヌの自然観が肌で感じられて面白いのではないかと考えた。

### ③修学旅行・学習旅行の誘致

事前学習など「学ぶ」という側面がある修学旅行は、文化理解に繋がるのではないかと考えた。個人旅行とは違い団体が確実に訪れるため、多くの人に知ってもらう機会が増えることで、将来リピーターに繋がる可能性があるのではないかと考えられる。

### ④お土産店の改革

アイヌコタンのお土産店の多くは木彫りのため値段も高い。もっとお土産のバラエティを充実させるべきなのではないか。アイヌ刺繍は、色合いと模様が可愛いので若い子ウケが良いのではないだろうか。買う側としては、気軽に買えるお土産が良いが、売る側としては芸術を売っているということでお土産の改革は難しいと思われる。

### ⑤その他（阿寒湖畔へ観光の誘致）

- ・周辺観光地との連携し阿寒湖を含めた周遊旅行
- ・訪日外国人向けツアー

例えば、阿寒湖は自然豊かな場所のため、登山やカヌー体験など自然を感じてもらえるようなアクティビティを企画する。

#### ・PR方法

阿寒湖の魅力やアイヌ文化PR。例えば、アイヌ舞踊は世界無形文化遺産になっていることなど。観光客が目を引きそうなPRをうつ。若い人に来てもらうためには、SNSを活用し写真を掲載。また、アイヌの刺繍を使ったファッションを提案してみる。

## 5. まとめ

今回私たちは、阿寒湖畔においてマリモが直接観光目的になっていないため、マリモに代わる新しい観光資源、アイヌ文化で阿寒湖畔温泉の観光振興を図ろうと調査を行った。

まず、アイヌ文化で観光振興する上で必要なことを他民族の類似例で調査した結果、一番多く実施されているのが、先住民によるガイドツアーであった。そのガイドツアーの内容は、独自の文化に関係する自然や遺跡、コミュニティを訪れるというものであり、現地の人々の生の声を聞けることが良いと考えられる。阿寒湖畔においてもアイヌ民族によるツアーをするべきではないかと考えられる。

また次に、アイヌ民族の語り部（デボさん）に聞き取り調査をした結果、アイヌ民族の生活には自然のことを考え、昔の歴史や知恵を活かし暮らしていた。アイヌ民族の神の在り方やアイヌ民族としてどのように周りの人と接してきたかなど本やインターネットではわからないこと貴重な話を聞くことができた。現地の人に直接話を聞ける機会を設けることで、文化理解がさらに深められるのではないかと感じられた。文化体験をする上で、現地の人による語りは入れるべきだと考えられる。この聞き取り調査を元に、阿寒湖のホテルや文化施設で語りをする際のアイヌ文化に関するシナリオ作成を行った。

他民族の類似例や語り部の調査結果から阿寒湖畔でアイヌ文化による観光振興策を提案することにした。案を出して見ると阿寒湖畔の新しい観光資源としてアイヌ文化を押し出すのは良いのではないかと考えられる。また、お土産店もマリモではなく、アイヌ雑貨を売っているお店が多く目立っていたことも理由の1つに挙げられる。

しかし、問題点として阿寒湖のアイヌ文化で押し出しても、なかなか個人で観光に来る人は少ないのではないかと。実際に現地に行き、アイヌコタンやアイヌシアターを訪れ、舞踊を見て一緒に参加できるのは新鮮で記憶にも残る経験だった。しかし、アイヌ文化が直接阿寒湖への観光動機になるには、少し弱いのではないかと感じた。

今後、阿寒湖に観光客を増やすためにはもっと別の策が必要ではないか。推進する施策の③でも挙げたように、阿寒湖のアイヌ文化をより知ってもらうには個人旅行ではなく、学生向け、修学旅行などに着目したほうが良いのではないかと。学習で来ることで、アイヌ文化を学ぶ機会が増える。若い人に知ってもらうきっかけになると考えられる。修学旅行で来た学生が将来リピーターに繋がる可能性を秘めているのではないかと考えられるからである。

一年間を振り返って

## 第Ⅸ章. 一年間を振り返って ゼミ生感想

### (1) 3年生

赤石梨菜

私はこの1年間のゼミ活動を通して印象に残っているのは、エキュートの谷根千調査隊の活動です。この活動では2年生と共にお店に交渉しに行き、交渉の時の大変さを実感しました。しかし、交渉に行き地域の人と関われる機会があるのは良いことだと感じました。もう1つはC班の阿寒湖の調査です。阿寒湖の調査では、アイヌ文化について調べました。アイヌ文化に関する知識をつけるために資料を集め、情報をまとめながら作業し、現地ではアイヌコタンやお土産店の様子、語りなどアイヌに関するものを自分で体験しながら調査できたことは良かったと思います。振り返ると反省点もあったので改善し、今後に活かしていけたらいいなと思っています。

居川陽菜子

3年生では谷根千調査や阿寒湖畔調査、下町祭りなどさまざまな活動を私たちが主体となって行い、1つ1つの活動を責任感をもっておこなうことができました。谷根千調査では従来の調査方法の改善策や新提案を考えたり、阿寒湖畔調査では観光資源としての民族について調べ、アイヌの考え方に触れたり貴重な経験ができ、学ぶことが多くありました。ゼミ合宿や下町祭りなどゼミの仲間たちと共に達成することができ深く関わったことも楽しかったです。

内野実紀

この一年間は私たち3年生がゼミ活動を主体的に行ったので、とても忙しく充実した一年でした。特に下町祭りの出店事業では3年生が仕切って運営をしました。もちろん個々の作業も大変でしたが、みんなで団結して行うことがすごく重要だったと感じます。この経験を通してゼミ内の団結力も高まりましたし、チームワークの大切さを改めて実感しました。また今年から2年生も加入し後輩に教える立場にもなったので「3年生としてしっかり活動しなければ」という自覚も芽生え、去年よりも責任感をもって活動に取り組めたのではないかと思います。

太田萌花

3年生の今年は、谷根千調査隊や下町まつり、北海道合宿などゼミの中でも中心で活動することが多く、色々な経験ができました。中でも下町まつりでの利用実態調査が1番印象に残っていて、一からアンケートを作成し、実施、分析することの難しさを痛感しました。アンケート用紙の回収方法や、当日予想されるハプニングまで予測して準備をしておけば

よかったという反省点もありますが、ゼミ生と一緒に頑張れたので良い経験になりました。恵まれたゼミ環境に感謝しながら、これからも頑張っていきたいです。

太田裕子

今年は自分たちが主体的に動く一年であったと振り返ります。まず、準備に向けての準備をし、新たな課題を見つけ、改善策のために準備をして…という工程を何度も繰り返し、本番に臨むことの大変さと大切さを実感しました。また、他人に指導する、伝えることの難しさも痛感し、今後の自分の課題として解決策を考えたいと思いました。

また、北海道合宿ではすごく楽しい思い出を作ることができました。ヤダな～と思って山登りを乗り越えてお風呂に入り、カニをお腹いっぱい食べて風力の弱いホッケーゲームをして…素の自分でギュッとみんなと仲良くなれたように感じました。とても充実していた一年間だったと感じています。

川戸優輝

年間のゼミを通して情報の発見、調査、伝達といった情報の流れについて学びました。阿寒湖畔の調査ではアウトプットのゴールイメージを持っていなかったため、事前の情報収集での取舍選択、アンケート作成での必要な質問項目の選択が難しく、報告書作成においても取り掛かりから手詰まりしました。後の展開を見据えて、効率よく情報収集し、ニーズに合った方法で的確に伝達するということの難しさを学びました。谷根千調査隊として番組出演した際は限られた時間内で十分な情報を伝えることができず、媒体によって注意点も違うことを身をもって経験しました。今後、ESや卒業論文でこの学びを活かしたいと思います。

城所航二

この一年間のゼミ活動を通して印象に残っていることは下町祭りでの出店事業です。この出店事業から事前準備の大切さと問題をどのように臨機応変に対処していくかの重要性を痛感しました。何とかなると思い準備を始めるが遅くなってしまった結果、当日までバタバタしてしまいました。ただ物事をこなすだけでなく、いかに効率よく工夫して物事を進めていくか、またそのためにどう準備していくかということをこれから意識していきたいと思います。残りのゼミ活動を充実させられるようにしたいです。

小林優奈

東海林ゼミでは、普段の座学の授業では学べないことをたくさん学ぶことができました。特に、下町祭りの出店事業が印象深いです。始める前は、簡単にできるだろうと思っていましたが、実際にやってみると難しいこと、壁にぶつかることが多かったです。そんな中で、ゼミ生同士で協力して作業をすること、事業を成功させるための計画を立てることの

大切さを改めて学びました。また、この出店事業の中での地域の方々とのふれあいを通して、地域振興に大事なもの、普段の学校の勉強だけではわからなかったことにも気づかされました。東海林ゼミで活動した一年間は、とても充実した、実りのある一年でした。

齊藤里沙

谷根千調査隊をはじめとする年間の活動を通して様々なことを経験しました。特に、担当する阿寒湖畔調査では事前調査から結果・改善に導くまでの難しさを実感しました。班内だけではなく、他の班にも協力してもらい、報告書を完成することが出来たので改めて互いに協力することの重要性を学びました。しかし、活動をしていくなかで反省点は数え切れないほどあったので失敗した要因などを見直すことを忘れず同じ失敗を繰り返さないようにしていきたいと思います。今後もこの経験を活かし、さらに有意義な活動が出来るよう努めていきたいと思います。

城下里奈

私はこの1年間、様々なことをゼミを通して学びました。谷根千マップのリニューアルを考え、下町まつりを主体になって調査・出店をし、グーグルマップやサイトを深くまで使いこれらを並行して行うのは大変でしたが将来とても役に立つことばかりだったと思っています。毎年同じことをやっていたはだめで、自分たちの年は自分たちの色が出せたら良いなと思いながら1年間活動してきました。はっぴを着てお祭りに参加したのはとても良い思い出になりましたし、調査のために聞き取り調査等をしたことは自分の成長に繋がったと感じています。

末永哲也

2016年度のゼミ活動では座学の授業では体験できない様々な物事を直に経験することができました。北海道ゼミ合宿では、阿寒湖畔に行き、自然を直に触れる楽しさや、自然の素晴らしさを感じるだけでなく、観光地の実態を目で見ることで、観光地の人気を維持し続ける難しさ等々を少しながら感じる事ができました。また、下町祭りでは、販売中に実際にモノを売る難しさを感じる中で、シフト制の分業作業による仕事効率化等のチームワークの大切さも改めて知るとてもいい機会となりました。

鈴木南帆

3年生になり、ゼミ活動がより本格的になった1年でした。特に「下町まつり」では、ユニフォーム作りの担当として今までにないチャレンジをしようと思い、以前までのTシャツからはっぴに変更しました。屋台運営をはっぴで行うことで雰囲気も高まり、より一体感が出たと思います。また北海道のゼミ合宿では3泊4日を先生とゼミ生のみんなと過ごすという貴重な時間を

過ごしました。そこで阿寒湖地域を始めて訪れました。決して派手な観光地ではありませんが、山登りやカヌー体験など北海道の大自然の中で非日常体験をし、北海道の山や自然が大好きになりました。大学時代の忘れられない思い出の一つです。

#### 高野愛梨

今年度からゼミ活動が本格的に始まり様々なことに取り組んできましたが、実践し、失敗し、改善する、の繰り返しの日々だったと思います。特に、阿寒湖の衰退理由調査では、考えがまとまらず何度も練り直したり、現地調査の準備不足で思うような結果が得られなかったりなど苦戦しました。先生がいつも言っている「俯瞰的な視点」で物事を見る大切さを痛感しました。また、下町祭りの出店ではカルメ焼の実演販売を、商品の見せ方と売る側の魅せ方の両方が必要だと感じました。みんなで改善を重ねてより良いものを作っていく喜びを味わうことができた一年でした。

#### 塚本雅美

今年一年の活動はとても内容の濃い一年でした。白山まつりのホームページでは、サムネイルで思い描いていたものを実現するには困難な点がいくつかありましたが、たくさんのことを試すことによって最終的に納得のできるホームページになったと思います。谷根千調査隊に関しては今後の方向性を考える機会があり班ごとの発表を行いました。他班の新鮮な案に刺激を受けました。夏の北海道合宿や10月に行われた千駄木まつりなどの大きなイベントを経験して、さらに同期との仲が深まったと思います。

#### 土橋豊

ゼミ活動を通しての一番の収穫は、責任を伴う事業に携われたことです。下町まつりや谷根千調査隊プロジェクトなどの活動を、地域の方や「ecute」の方と関わり合いながら取り組んできました。学生という身でありながら、地域を盛り上げるという大きな事業の一端を担えことは、自分自身にとっての大きな自信につながったと強く感じています。また、これらの活動は、私たちの行動が地域や様々な人に影響を与えるということを認識し、責任を持った行動の大切さを再確認する良い機会でした。来年度からは最上級学年という立場をしっかりと自覚し、責任を持った行動を心掛けたいと思います。

#### 中嶋果歩

今年から自分たちが中心となつての活動が本格的に始まりちゃんとやっていけるのか不安なこともたくさんありましたが10期生一丸となつて活動に取り組めて楽しく・ためになる一年になりました。私はB班に所属して主に下町祭りの出店事業を行いました。メニュー開発からお店のレイアウト、シフトを組んだりしていく上でなかなかうまくいかないことが多々ありましたが、そういう時には部分部分で見のではなく全体的に物事を見てい

かなければいけないと改めて感じました。

成田大幸

出店事業や合宿により、学年全体の団結力が深まり、大変な作業も楽しみながら乗り越えられたと思います。自分はアイヌ文化の調査を行い、テーマ決めや調査方法などに苦戦しましたが、このゼミでなければ経験できないことばかりで充実した活動ができたと思いました。初期段階での計画や道筋の立て方の重要性を学びました。出店事業では、先生に過去最高と唸らせる呼び込みを發揮し、チョコバナナの屋台でありながら、プレーン味を売り切った世代として誇りに思います。

藤野智子

ゼミ活動では、根津・千駄木下町まつりを通して地域の人たちと直接意見を交換したりすることで、より良い調査をすることが出来たと思いました。一方ではただアンケートを作成するのではなく、目的やどのような結果を予想するかというところに調査の難しさを感じた一年でした。谷根千調査隊では飲食店だけではなく、街の景色などの地域の魅力を発見することができました。また、計画・準備・実践というプロセスの大切さも学ぶことができ、これらの経験を生かして、今後のゼミ活動に取り組みたいと思いました。

松村勇希

1年間のゼミ活動を通してたくさんの事を経験、学習する事が出来ましたが、正直な感想として自分自身、何も出来ていません。ゼミ生や先輩方、先生に迷惑をかけてばかりで自分自身何をしているのか分からなくなってしまう事が多くありました。しかし、その中でも阿寒湖調査や下町祭りなどで、みんなと共に活動できた経験はすごく貴重なものになりました。来年は自分自身、さらにゼミに対しても貢献していける様に活動していきたいと思っています。

村山実優

今年は”ゼミの年!”と言っても過言ではないほど、充実した一年になりました。自分たちの代による本格的な活動がスタートし、身の引き締まる思いでした。思い入れがあるのはやはり下町まつりの出店事業です。作り方の把握から当日赤字の無いように売り上げるまで、ゼロの状態から全てのプロセスを考えるとといった経験はゼミの中でこれまで無かったので、新鮮な気持ちの反面、これほど大変なものなのかと痛感しました。しかしそれと同時に、チームワークの大切さを改めて認識することができ、また集団の中における自分の立ち位置やあり方を考えさせられる非常に貴重な経験になりました。他にもエキュートの方へのプレゼンや北海道合宿など、内容の濃い活動が沢山でき心から楽しめました。

宮越千尋

全体的に有意義であり、とても充実した1年間を過ごすことができました。初めてである体験が多く、トレッキングや阿寒湖でのカヌー、下町祭りでの出店等、様々な体験をすることができました。また、「谷根千調査隊」が「木村拓也の上を向いて歩こう」とコラボレーションし、番組に出演、谷根千エリアが一週間を通して全国に紹介されたことは大変貴重な体験でした。3年生である私たちが主体となって活動する数が増えていき、2年生も加わり新しい東海林ゼミがスタートした秋学期からは、団結力のある、親しみやすい雰囲気を作れるよう、先輩としての手本になりつつあらゆる活動に貢献したい、という目標ができた1年間となりました。

森麻祐子

2年生から東海林ゼミに入り今年から本格的にゼミ活動を行ってきました。この一年を通して、お祭りの出店事業や谷根千調査、阿寒湖調査など様々な経験をさせて頂きました。特に阿寒湖調査では最初テーマ決めでとても悩んでしまい、なかなか次に進めませんでした。過去の事例を参考にして現実的かつ具体的に考えることの大切さを学びました。また、現地でアンケート調査を行いました。回答に統一性が無くまとめるのに苦労しました。報告書を作る上で自分が想像していた以上に先を見越していかに分かりやすい質問を作らなければいけないのだなと身をもって実感しました。

## (2)2年生

安部奈々子

まだ始まったばかりだけどゼミの活動を通していろいろな経験ができました。下町祭りの手伝いでは、カウント調査やアンケート調査をするのは初めてだったので大変だったけど、いい経験になりました。谷根千調査隊では、資料調査や現地調査、まとめ方など先輩方が優しく教えてくれて、とても勉強になりました。谷根千の事を全然知らなかったけどゼミ活動を通して谷根千の魅力やいいスポットを知れて良かったです。これから本格的なゼミ活動が始まると思うので、頑張りたいと思います。

天野未稀

私はこの1年間のゼミ活動を通して、根津・千駄木下町まつりに参加したことが最も印象に残っています。人数カウントやアンケート調査を通じ、調査方法の仕方や声のかけ方、その際の注意点など自ら体験して学ぶことができました。また、根津に行ったのはこの下町まつりが初めてだったのですが、自由時間に根津の町並みを歩き、様々な魅力があることを知り、より深く谷根千エリアについて学びたいと感じました。ゼミ活動の中では自分

で考え行動できるチャンスがたくさんあるため、これを活かし様々な知識を身につけ、自分がやりたいことを探して行きたいと思います。

#### 新井奈々恵

2年生の秋学期からゼミ活動が始まり下町祭り、谷根千調査など多くの貴重な経験をする事ができてよかったです。他にはパンフレットやホームページの作成の仕方などパソコンを利用した情報の発信の仕方を学びました。また私たちの代から取り組む内容が下町祭りからツーリズムEXPOになったりエキュートの内容の変更になったりと初めてのことが多くて不安もありますが今の先輩方のように積極的に学び、活動していきたいと思います。

#### 五十嵐大地

ゼミ活動が始まってまだ3ヶ月ですが、まず自分がゼミ活動を通して印象に残っていることは下町祭りです。下町祭りではカウント数調査やアンケートをとったり、様々なことをしたが、お祭りに参加することにより地域の人々が気軽に自分たちに話しかけてくれ、こういうふれあいがあるのはいいなと思いました。また、現在猫の町をテーマに谷根千調査を行っていますが、初めてのことでいろいろ難しいことばかりなので、まだまだこれから頑張っていきたいと思っています。

#### 五十嵐葉月

東海林ゼミに入り、まだ短い期間ではありますが、活動を通して良い経験ができたと感じています。まず、下町祭りでは、調査をしたことはもちろんですが、地域の人たちや他の祭りに参加している人たちと交流できたことが強く印象に残っています。老若男女が集まって楽しむことができるイベントがあることはとても大切だと感じました。また、この活動を通してゼミの同期の人たちとの距離も縮まったように感じます。現在、次回の谷根千調査隊のために、現地調査やエキュートの方と話し合いを通して構想と内容を考えているところです。難しいこともありますが、とても充実した経験になっていると感じています。よいものになるようにできることを積極的にしていきたいです。

#### 伊藤夏帆

私は谷中・千駄木地区などの地域との関わりについて興味を持ち東海林ゼミに参加しました。実際に谷根千駄木祭りに参加して、様々な年代の方々とお話しさせていただき、谷中・千駄木が地元の方にとっても愛されていることを実感しました。私は今後この場所で私たち学生がどんな協力ができるのかを考えています。また、新たな試みとして、360°の全方位カメラを用いた学校や地域のPRについてや、自分たちでホームページやパンフレットを作れるようになる技術的な面も東海林先生に教えていただいています。まだ始まったばかりでどうなっていくのかドキドキしていますが、先輩方やゼミ生とたくさん関わりながら、

やりがいのあるゼミ活動を行なっています！

#### 伊藤瑠美

ゼミの活動を通して今まで知らなかった東京の下町である谷根千の魅力を感じることができました。下町祭りでは、カウント調査やアンケート調査など現地で実際に活動をして楽しかったです。谷根千調査では、自分たちで企画・調査し、お店を巡るということで、いろいろなアイデアを出しながらやっていくため、とても充実していました。また、新しい出会いもたくさんあり、交友関係も広げることができました。これからも様々な活動をしていく中で、たくさんの経験をして自分の考えを深めていきたいと思います。

#### 大月知佳

9月から活動に参加させて頂いて、先輩方と一緒に「エキゾチックなお店」をテーマに、早速谷根千調査をしました。都合が合わず資料調査くらいしかできませんでしたが、テーマに合ったお店を探しながら谷根千の雰囲気を知ることができて、谷根千にもっと興味を持ちました。谷根千調査のやり方は変わりましたが、調査を楽しみながら、谷根千に来てくれる人にたくさん興味を持って頂けるように、これからの谷根千調査も頑張りたいです。下町まつりでの調査は初めてやることばかりでしたが、根津・千駄木の住民の方々と話したり、アンケートをすることで、下町まつりは長年地域の人に楽しめる大切なイベントであることがわかり、お祭りによってできるコミュニティで地域が賑やかになるのを見れて、「まちづくり」ってこういうものなのかなと思いました。

#### 加藤真歩

今年の活動は下町祭り谷根千調査がメインでした。下町祭りでは、入場者数の人数のカウントを性別、年齢に分けて行いました。実際にカウントしてみると思った以上にたくさんのひとが来ていることがわかりました。年齢層も幅広く、地域の人に愛されているお祭りだと実感しました。谷根千調査では先輩たちに教えてもらいながら一回目を、二回目は自分たちでテーマを考えプレゼンテーションを行いました。テーマを考えるのはすごく難しいと思いました。年齢層が偏らず誰でも行きたくなるようなプランにする為にはと考えました。今年の活動は細かいところまではできなかったので来年は細かい部分を詰めていきたいと思います。

#### 喜多千晴

私が一番印象に残った活動は下町まつりでの活動です。下町まつりで、初めて根津神社を訪れました。また、アンケート調査をしたことがなかったので知らない人に声をかけることには抵抗がありましたが、アンケートに答えてくださった方たちは根津神社の周辺に古くから住んでいる方ばかりで、ご近所の歴史やお祭りの雰囲気を詳しくお話してください

ました。どの方もこの下町まつりが若い人たちと交流できる機会であると聞いた時は、もっとこのような場が増えていけばいいなと感じました。

谷根千の活動は深く関わることができずに残念でしたが、先輩方が続けてきたことを無駄にしないようにこれからの活動に取り組みたいです。

#### 後藤田佳奈

下町祭りでは2年生は、人数調査やアンケート調査を行いました。お祭りは多くの人で賑わっていて、そんな中でいろいろな人にアンケートを行って生の声を聞くことができたので、すごくいい経験になりました。実際にお祭りに参加するのは初めてでしたが、お客さんの反応を聞くのはすごく新鮮で、生かせればもっといいお祭りになるのかなと感じることができました。また、こんなにも大きな規模でお祭りを行っているということに驚きを感じました。谷根千調査では、実際にそのお店を訪れてお客さんの反応や店の雰囲気自分たちで感じる事ができたのですごく楽しかったです。どちらも自分たちがメインに行った訳ではないけれどすごく勉強になったのではないかなと感じることができました。

#### 小山優香

2年生の秋からゼミが始まりまだわずかしか経っていませんが、谷根千調査や下町祭りなど様々な経験をする事ができました。特に下町祭りでは、アンケート調査をしたり、サブ会場調査をしたりと客観的な目線からお祭りを見ることができましたし、自分たちも楽しんで取り組む事ができました。まだまだ始まったばかりですが、今までのゼミ活動で学んだことを活かし、谷根千調査やストリートビューなど一つ一つ積極的に取り組んでいきたいと思います。

#### 佐々木学

10月の下町祭りは初めて学校の外で行ったゼミ活動で、先輩や他の11期生の手助けもあり、順調に調査を進めることができ、東海林ゼミの雰囲気を感じることができました。普段のゼミ活動ではワードの使い方などといった基本的なことから、次の谷根千調査のディスプレイなどを行いとても充実していました。また、11期生は来年9月のツーリズムエキスポにブースを出すということなので、資金をどうするか、何を展示するかをこれから具体的に考えて、良いものにしていきたいです。

#### 多田美優

東海林ゼミに入って半年で一番印象に残っているのは下町祭りです。初めてアンケート調査を行って人に何かをお願いすることの大変さや楽しさを学ぶことができました。また、人数カウント調査では地域の人と千駄木について話したり仲良くなったりと貴重な経験ができました。来年から下町祭りに参加しないと考えると寂しいけれど、学んだことを谷根

千調査などに生かせればいいなと思います。今年はまだ先輩方と関われなかったので来年はたくさん話して活発なゼミ活動をしていきたいです。

月岡紋萌

今期のゼミを通して一番心に残っていることは谷根千調査です。「猫の街 谷根千」というテーマで谷根千マップの構成を考え、調査をしました。日暮里駅の「ecute」の方々と話し合い、方向性を決めた際には、予算の都合上いくつか変更しなければなりませんでした。私たちの学生ならではの意見を採用していただけたと感じています。このような企画案を作るのは初めてで最初は戸惑いましたが、先生や先輩方のアドバイスのおかげで自分たちが納得するものを作ることが出来ました。谷根千調査を通して、生徒だけで一から企画を考える大変さとやりがいを感じました。

手塚龍之助

後期という短い時間の中でも、下町祭りや谷根千調査といった先輩方と一緒に進めるプロジェクトや2年の活動としてワードを使ったポスター作りの基礎知識やグーグルを利用した活動のやり方などを学び、来年から本格的に活動するための知識を身につけることができました。

特に下町祭りでの活動では、初めて来訪者に対してアンケート、来訪者の年齢を取りながら人数をカウントするといった、“調査をする”という経験を初めてすることができました。このように実際に動いて統計をとることで結果とそれに付随したパターンをつかみ、論理的に分析することができることを知りました。

こうした活動を来年以降より主体的にやっていけることを楽しみにしています。

富永悠矢

ゼミ活動に携わっている期間はまだ短いですが、今まで知らなかった下町まつりに関わることで地域の楽しさに触れることができたり、また先生や先輩方や同期のゼミ生達と親睦を深めることができたので、3ヶ月ほどですがとても充実したゼミ活動だったと思います。今後は先輩方に頼りっきりでなく、自分たちの代が主体となって活動を担わなければならない時期が来ると思うと、不安もありますが、来年からの活動がとても楽しみです。来年からはもっと自主的に動くことができたらいいなと思いました。

永嶋美南

私たちにとって下町祭りが、たぶん初めてのイベントだったと思います。アンケート調査など実際に動くことがやってみたかったので、2年生のうちからできて楽しかったです。ただ授業があって最後の30分しか参加できなかつたので、もっとやりたかったと欲しかったのに、来年はツーリズムEXPOになってしまったのがとっても悲しいです。谷根千は、ランキ

ング形式からテーマということで変わり、新しい事なので、まだまだ分からないことだらけですが、楽しみながらやっていきたいと思っています。

渡辺美紅

下町祭りでは、アンケート調査、カウント調査、現地調査を経験し、たくさんを知ることができました。アンケート調査では、私は年齢層の高い男性が対象だったので、現地の人や違う地域に住んでいる方からアンケート以外のお話もきくことができました。初めて訪れた根津・千駄木地域でしたが、アンケートや下町の魅力を知ることができ、楽しかったです。今後、谷根千調査等をしていくともっと下町の魅力や、それ以外の魅力を知っていくかと思います。谷根千地域が自分にとって親しみのある地域になればいいなと思います。

# 編集後記

## 第X章. 編集後記

私たち 10 期生は、例年より半期早い二学年後半からゼミ活動に参加し現在に至ります。ゼミ活動というものがどういうものであるのか詳しいことをあまり理解しないまま、ただただ先輩方の背中を見ていた印象が強い二学年でしたが、学年が上がり自分たちが中心となる活動が増えていくなか、統率することや責任を持つことの難しさなどたくさんの壁にぶつかりました。

谷根千調査隊、白山・下町祭り、阿寒湖畔の調査を中心とした活動を通し、失敗を繰り返しながらも先輩方や先生のお力を借りながら少しずつではありますが、前進しています。今後も、この活動を通し得たことを活かし、尽力していきます。

最後になりますが、日々優しく見守り時には厳しい指導をしてくださる東海林先生、分からない部分をサポートしてくださる先輩方本当にありがとうございました。来年は最高学年になるという責任感を忘れず、協調性を持ち、後輩や周りへの視野を広げた活動が出来るように日々努力して参ります。





